

- 五 瘋癲白痴又ハ身體不具若ハ羸弱ニシテ業務ヲ營ムニ不適當ト爲リタルトキ
 - 六 朝鮮總督府海員審判所ニ於テ免狀行使ノ禁止ヲ言渡サレタルトキ
 - 七 朝鮮水先人試験規則ノ規定ニ依リ合格無効ト爲リタルトキ
 - 八 廢業シタルトキ
- 水先免狀ヲ受有スル者失踪ノ宣告ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキハ相續人又ハ現ニ該免狀ヲ保管スル者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ
- 抹消ノ登錄ヲ申請スル者ハ第一項第六號ニ該當スル場合ヲ除クノ外水先免狀ヲ申請書ニ添ヘテ之ヲ朝鮮總督府遞信局ニ返還スヘシ之ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ届出タヘシ
- 第七條** 朝鮮總督府遞信局ハ左ノ各號ノ場合ニ於テ抹消ノ登錄ヲ爲ス
- 一 前條ノ申請ヲ正當ト認メタルトキ
 - 二 抹消ノ登錄ヲ申請スヘキ場合ニ於テ規定ノ期間ニ之ヲ爲ササルトキ

- 三 詐欺ノ所爲ヲ以テ水先免狀ヲ受ケタルコトヲ知リタルトキ
 - 四 朝鮮總督府海員審判所ニ於テ水先免狀ヲ無効ト爲シタルトキ
- 朝鮮總督府遞信局第一項第二號又ハ第三號ニ依リ抹消ノ登錄ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ當該免狀ヲ有スル者又ハ之ヲ保管スル者ニ通知ス
- 前項ノ通知ヲ受ケタル者ハ遲滞ナク該免狀ヲ朝鮮總督府遞信局ニ返還スヘシ
- 第八條** 朝鮮總督府遞信局ニ於テ水先法第三條第四號ノ事項ニ關シ必要アリト認ムルトキハ水先人體格検査ヲ執行ス
- 第九條** 水先免狀ヲ有スル者登錄又ハ水先免狀ノ記載ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滞ナク第四號書式ノ書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出シテ登錄又ハ水先免狀ノ訂正ヲ申請スヘシ
- 前項ノ錯誤又ハ遺漏第三條第一項第二號乃至第四號ノ事項ニ係ルトキハ前項ノ書面ニ戶籍ノ謄本若ハ抄本ヲ添付スヘシ

朝鮮總督府遞信局ニ於テ登錄又ハ水先免狀ノ記載ニ錯誤

又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ訂正シ其ノ旨ヲ當該免狀ヲ受有スル者ニ通知ス

第十條 朝鮮總督府遞信局ニ於テ前條第一項ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ登錄ヲ訂正シ又ハ水先免狀ヲ書換ヘ之ヲ申請人ニ交付ス

第十一條 水先免狀滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ第五號書式ノ書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出シテ再交付ヲ申請スヘシ

第十二條 朝鮮總督府遞信局ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ更ニ水先免狀ヲ申請人ニ交付ス

水先人前項ノ免狀ヲ受ケタルトキハ之ヲ引換ニ舊免狀ヲ朝鮮總督府遞信局ニ返還スヘシ但シ水先免狀滅失シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 行政區劃ノ變更アリタルトキハ水先免狀ヲ有スル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出シ水先免狀ノ書換ヲ申請スルコトヲ得

第四條第二項及第五條ノ規定ハ前項ノ申請アリタル場合

朝鮮水先令施行規則

ニ之ヲ準用ス

第十四條 水先免狀ヲ有スル者六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキハ其ノ裁判確定後遲滞ナク本人又ハ該免狀ヲ保管スル者ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ水先免狀ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出スヘシ

- 一 罪名、刑名及裁判確定ノ年月日
- 二 刑ノ執行ヲ受ケヘキ期間又ハ其ノ執行猶豫期間
- 三 判決ヲ言渡シタル裁判所ノ名稱

前項ニ依リ提出シタル水先免狀ハ朝鮮總督府遞信局ニテ保管シ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受ケルコトナキニ至リタル後之ヲ還付ス

第二章 水先區

第十五條 水先區ハ左ノ七區トス

- 一 鴨綠江水先區
- 平安北道鐵山半島南端ヨリ椴島ヲ經テ大和島ニ引キタル線及大和島ヨリ眞方位西北西ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
- 二 大同江水先區
- 平安南道貴林串ヨリ德島、西島及椒島ヲ經テ黃海道沈邦

崎ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

三 仁川港水先區

京畿道仁川猫角ヨリ永宗島、龍遊島、德積島、蔚島及鞍島ヲ經テ忠清南道乃坵端ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

四 群山港水先區

忠清南道冬柏亭串ヨリ群山第一號挂燈浮標、飛鷹島及無衣人島ヲ經テ全羅北道嶼串ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

五 木浦港水先區

全羅南道南溪洞ヨリ大老鹿島、飛禽島、加士島及珍島ノ南端ヲ經テ海南角ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

六 釜山港水先區

慶尙南道蠅頭末ヨリ五六島及絶影島南端ヲ經テ鱒魚末ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

七 元山港水先區

咸鏡南道虎島半島南角ヨリ高島ヲ經テ江原道鴨龍端ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

第十六條 二區以上ノ水先免狀ヲ有スル者ハ專屬水先區トシテ其ノ内ノ一區ヲ選定シ朝鮮總督府遞信局ニ届出ツ

第三章 水先案内料

第十七條 水先案内料ハ總噸數千噸又ハ千噸未滿ニシテ喫水十呎又ハ十呎未滿ノ船舶ニ付テハ別表ニ定ムル所ニ依リ總噸數千噸若ハ千噸未滿(鴨綠江水先區、群山港水先區ハ總噸數五百噸未滿)又ハ喫水一呎若ハ一呎未滿ヲ増ス毎ニ其ノ百分ノ六ヲ加フ

第十八條 前條ニ於テ喫水ト稱スルハ各水先區ニ付水先人水路ヲ嚮導スル爲船舶ニ乗組ミタル時ニハ其ノ嚮導ヲ終ル迄ノ間ニ於テ船首又ハ船尾ノ有シタル最深ノ喫水ヲ謂フ

第十九條 水先人別表ニ掲クル各航路ノ一部嚮導シタルトキハ其ノ水先案内料ハ全部ニ對スル水先案内料ノ範圍内ニ於テ船長ト協定スヘシ

第二十條 水先人水路嚮導中海難其ノ他不可抗力ニ因リ別表ニ掲クル各航路ノ全部ヲ嚮導スルコト能ハサルトキハ水先案内料ハ嚮導シタル里程ノ割合ニ據ルヘキモノトス

第四章 水先旗及水先信號

第二十一條 水先旗ハ別記様式ニ依ル

第二十二條 水先旗ハ水先法第六條ノ場合ニ於テハ橋頭、旗竿又ハ帆ノ上部其ノ他見易キ所ニ之ヲ掲揚スヘシ

第二十三條 水先人ハ汚染又ハ毀損ノ爲水先旗タルコトヲ

認メ難キ水先旗ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十四條 水先法第七條ノ水先信號ハ晝間ニ在リテハ第一號若ハ第二號ヲ用キ又ハ之ヲ併用シ夜間ニ在リテハ第三號若ハ第四號ヲ用キ又ハ之ヲ併用シテ爲スヘシ

一 前橋ニ船首旗又ハ國旗ヲ掲揚スルコト
二 萬國普通信號書ニ掲クル水先信號ヲ表示スルコト
三 十五分間毎ニ青色火光ヲ發射スルコト
四 須臾ノ間隙ヲ以テ凡ソ一分間亮明ノ白燈ヲ上甲板ノ舷部ニ於テ表示スルコト

第五章 水先船ノ免狀及巖裝

第二十五條 水先船ニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 船體ノ外部ハ黑色ト爲スコト
二 船側及大帆ノ上部ニ水先船タルコトヲ明瞭ニ表示スルコト

第二十六條 水先人水先船ヲ使用スルトキハ水先船免狀ヲ受有スヘシ

第二十七條 水先人水先船免狀ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ管海官廳ニ提出スヘシ

一 船舶ノ種類、名稱
二 網具ノ裝置

朝鮮水先令施行規則

三 積量

四 長、幅、深

五 所有者ノ住所及氏名若ハ名稱

水先人ト船舶所有者ト異ナル場合ニ於テハ前項申請書ニ所有者ノ連署ヲ要ス

第二十八條 管海官廳ニ於テ前條第一項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ當該官吏ヲシテ船舶ヲ検査セシメ適當ト認ムルトキハ第六號書式ノ水先船免狀ヲ授與ス

第二十九條 水先船免狀ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ水先人ハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ新舊事項ヲ記載シタル書面ヲ管海官廳ニ提出シテ水先船免狀ノ書換ヲ申請スヘシ

第五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十條 水先船免狀滅失又ハ毀損シタルトキハ水先人ハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ管海官廳ニ提出シテ再交付ヲ申請スヘシ

第十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條 管海官廳ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ水先船ニ臨檢セシメ現状完全ナラスト認ムルトキハ其ノ使用ヲ

停止シ必要ナル修理又ハ設備ヲ命スルコトヲ得
水先人前項ノ命令ニ違反シテ水先船ニ使用シ又ハ其ノ修
理若ハ設備ヲ爲ササルトキハ水先船免狀ハ其ノ效力ヲ
失フ

第三十二條 前條第二項ニ依リ水先船免狀ノ效力ヲ失ヒタ
ルトキ又ハ水先船ノ使用スヘカラサルニ至リタルトキ若
ハ其ノ使用ヲ廢シタルトキハ水先人ハ其ノ事實アリタル
日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ事由ヲ具シ水
先船免狀ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

第六章 水先法令書

第三十三條 水先法令書ハ朝鮮總督府遞信局ヨリ之ヲ水先
人ニ交付ス

第三十四條 水先法令ニ改正アリタルトキハ朝鮮總督府遞
信局ハ改正ニ係ル條項ノミヲ記載シタル書類又ハ改刷シ
タル水先法令書ヲ水先人ニ交付ス

第三十五條 水先人改正ニ係ル條項ノミヲ記載シタル書類
ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ヲ水先法令書ニ綴込ムヘシ
水先人改刷シタル水先法令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ舊
法令書ヲ返還スヘシ

第三十六條 第六條又ハ第七條第四項ニ依リ水先免狀ヲ返

還スルトキハ水先法令書ヲ添附スヘシ
第十四條第一項ニ依リ水先免狀ヲ提出スルトキハ水先法
令書ヲ添附スヘシ

水先人朝鮮總督府海員審判所ニ於テ水先免狀行使ノ停止
ヲ言渡サレ該免狀ヲ提出スルトキハ水先法令書ヲ添附ス
ヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ第十四條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十七條 第十一條及第十二條ノ規定ハ水先法令書滅失
又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十八條 水先法令書ハ朝鮮總督府遞信局ノ印ヲ押捺シ
タルモノニ非サレハ其ノ效力ヲ有セス

第七章 水路嚮導ノ證明

第三十九條 水先人水路ノ嚮導ヲ終リタルトキハ左ノ事項
ヲ記載シ得ヘキ様調製シタル書面ニ署名捺印シテ之ヲ船
長ニ交付スヘシ

一 船舶ノ名稱、國籍、所有者、積量及喫水

二 水路ヲ嚮導シタル區域

三 水路ノ嚮導ヲ始メ及之ヲ終リタル日時

四 水先案内料ノ額

船長ハ前項ノ書面ニ其ノ事項ヲ記入シ且署名捺印シテ之

ヲ水先人ニ交付スヘシ其ノ文字ヲ削除、訂正又ハ挿入シ
タルトキハ之ニ認印スヘシ水先人水先法第十三條但書ノ

規定ニ依リ二艘以上ノ船舶ノ水路ヲ嚮導シタルトキハ各
船ノ船長ニ對シ第一項ノ書面ヲ交付シ各船ノ船長ハ前項
ノ手續ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ運航ノ自由ヲ得ヌ又ハ
水先人ヲ得ル能ハサリシ船舶ノ船長ハ其ノ事由ヲ附記ス
ヘシ

第四十條 水先法第十六條ニ依リ水先人水先修業生ヲ伴ヒ

乗船シタルトキハ水先人ハ水先修業生ヲシテ前條第一項
第一號乃至第三條ノ事項ヲ記載シ得ヘキ様調製シタル書
面ニ署名捺印セシメ之ヲ船長ニ交付スヘシ船長ハ前條第
二項及第三項ニ準シ前項ノ書面ニ記入及署名捺印シテ之
ヲ水先人ニ交付シ水先人ハ之ヲ水先修業生ニ交付スヘシ
第四十一條 水先人ハ水先修業生ノ請求ニ依リ其ノ修業ニ
關スル證明書ヲ交付スヘシ

第八章 水先人組合

第四十二條 水先人組合ハ當該水先區ノ水先人ヲ以テ組合
員トス二區以上ノ水先區水先免狀ヲ受有スル者ハ專屬水
先區ノ組合員トス

第四十三條 朝鮮總督府水先人組合ヲ設ケシメムトスルト

朝鮮水先令施行規則

キハ當該水先區ノ水先人ノ内ヨリ創立委員ヲ命ス

第四十四條 創立委員ハ組合規約ヲ起草シテ之ヲ當該水先
區ノ水先人ノ會議ニ付スヘシ

創立委員ハ會日ヨリ二週間前ニ各水先人ニ組合規約案ヲ
添ヘ會日時會場ヲ通知スヘシ組合規約ハ當該水先區ノ水
先人總員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ議
決スルコトヲ得ス

水先人代理人ヲ以テ意見ヲ表示スルコトヲ得

第四十五條 會議ノ通知ヲ受ケタル水先人會議ニ出席セス
又ハ代理人ヲ出席セシメサルトキハ規約ノ成案ニ同意シ
タルモノト看做ス

第四十六條 組合規約ヲ議決シタルトキハ創立委員ハ遲滞

ナク其ノ成案ヲ朝鮮總督ニ提出シ認可ヲ申請スヘシ

第四十七條 第四十四條第三項ノ場合ニ於テ意見數說二分
レ定數ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ創立委員ハ各意
見ヲ具シ朝鮮總督ノ裁決ヲ申請スヘシ

第四十八條 組合規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 組合ノ名稱
- 二 組合長其ノ他組合ノ役員ニ關スルコト
- 三 組合員ノ營業ニ關スルコト

- 四 組合ノ風紀秩序ニ關スルコト
- 五 組合ノ會計ニ關スルコト
- 六 組合ノ會議ニ關スルコト
- 七 水先修業生ノ資格等ニ關スルコト
- 八 前各號ノ外組合ノ處理ニ關シ必要アルコト
- 第四十九條** 水先人組合ニハ組合長一人ヲ置クヘシ
水先人組合ニ組合副長其ノ他ノ役員ヲ置クコトヲ得
組合長其ノ他組合ノ役員ハ組合員之ヲ互選シ其ノ任期ハ
三年内トス
組合長、組合副長ノ内一人ハ特別ノ事由アル場合ニ限り
朝鮮總督府遞信局長官ノ認可ヲ受ケ組合員ニ非サル者ヲ
選任スルコトヲ得
- 第五十條** 組合長ハ本令及組合規約ニ依リ其ノ職務ニ屬ス
ル事務ヲ行フ組合副長其ノ他ノ役員ハ組合長ヲ補佐シ組
合長事故アルトキハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ其ノ職務
ヲ代理ス
- 第五十一條** 朝鮮總督組合規約ヲ認可シタルトキハ其ノ旨
ヲ創立委員ニ通達ス
創立委員ハ前項ノ通達ヲ受ケタル日ヨリ十日内ニ組合長
其ノ他組合ノ役員ノ選舉ヲ行ヒ其ノ就任確定シタルトキ

- ハ遲滞ナク其ノ氏名ヲ朝鮮總督ニ報告スヘシ
創立委員ノ職務ハ前項ノ報告ヲ以テ終了トス
- 第五十二條** 組合長ハ就任後遲滞ナク組合ノ事務所ヲ定ム
ヘシ
組合長ハ事務所ヲ定メタル日ヨリ三日内ニ其ノ所在地ヲ
朝鮮總督府遞信局ニ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦
同シ
- 第五十三條** 組合規約ヲ變更セムトスルトキハ組合長ハ變
更ヲ要スル事由ヲ具シ其ノ成案ヲ朝鮮總督ニ提出シ認可
ヲ申請スヘシ
第四十四條、第四十五條及第四十七條ノ規定ハ組合規約
ヲ變更セムトスル場合ニ之ヲ準用ス
- 第五十四條** 組合長其ノ他組合ノ役員交迭シタルトキハ組
合長ハ其ノ事由ヲ具シ新任者ノ氏名ヲ朝鮮總督ニ届出ツ
ヘシ但シ組合長交迭ノ場合ニ在リテハ新組合長ノ連署ヲ
要ス
- 第五十五條** 組合長ハ毎年一月前一年間ニ於ケル組合員ノ
營業ニ關スル狀況及組合ノ會計ニ關スル事項ヲ朝鮮總督
府遞信局ニ報告スヘシ
- 第五十六條** 朝鮮總督ハ組合規約ノ改正ヲ命シ、水路嚮導

- ニ關スル事項ヲ組合ニ諮問シ必要ト認ムルトキハ其ノ事
項ヲ審議スル爲組合會議ヲ開クヘキコトヲ命シ又ハ當該
官吏ヲシテ組合ノ會議ニ臨席セシムルコトアルヘシ
- 第五十七條** 水先人第四十八條第三號又ハ第四號ニ依リ組
合規約ニ記載シタル事項ニ違反シタルトキハ朝鮮總督府
海員審判所ノ裁決ヲ以テ懲戒ヲ加フ
水先人前項ノ所爲アリタルトキハ組合長ハ管海官廳ニ其
ノ旨ヲ申告スヘシ
- 第五十八條** 前條第二項ノ申告ニハ證據及事實參考ト爲ル
ヘキ資料ヲ提出スヘシ
- 第九章 手数料
- 第五十九條** 本令ニ依リ申請ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手
數料ヲ納付スヘシ
- 一 第九條第一項ニ依リ水先免狀ノ訂正ヲ申請スル場合
ニ於テ記載事項ノ錯誤又ハ遺漏カ免狀ヲ受有スル者ノ
過失ニ出テタルトキ 一圓
- 二 第十一條ニ依リ水先免狀ノ再交付ヲ申請スルトキ 一圓
- 三 第十三條第一項ニ依リ水先免狀ノ書換ヲ申請スルト
キ 一圓

朝鮮水先令施行規則

- 四 第二十七條第一項ニ依リ水先船免狀ノ交付ヲ申請ス
ルトキ 一圓
- 五 第二十九條第一項ニ依リ水先船免狀ノ書換ヲ申請ス
ルトキ 一圓
- 六 第三十條第一項ニ依リ水先船免狀ノ再交付ヲ申請ス
ルトキ 一圓
- 七 第三十七條ニ依リ水先法令書ノ再交付ヲ申請スルト
キ 二圓
- 前項第一號乃至第三號ノ申請ヲ二件以上同時ニ爲シ又ハ
第五號及第六號ノ申請ヲ同時ニ爲ストキハ免狀毎ニ一件
ニ對スル手数料ヲ納付スルヲ以テ足ル
- 第四條ニ依リ變更ノ登錄申請ヲ爲シ水先免狀ノ書換交付
ヲ受クル場合ニ於テ同時ニ第一項第二號乃至第四號ノ申
請ヲ爲ストキハ手数料ヲ納付スルコトヲ要セス
- 第六十條** 第一條、第四條第一項、第九條第一項、第十一
條、第十三條第一項、第二十七條第一項、第二十九條第
一項、第三十條第一項、第三十七條ノ申請ヲ爲ス者ハ登
錄稅又ハ手数料ニ相當スル收入印紙ヲ貼附シタル納付書
ヲ申請書ニ添付スヘシ
既納ノ手数料ハ之ヲ還付セス

第十章 雜 則

第六十一條 水先人其ノ業務ニ從事スルニ當リ海難ニ罹リタルトキハ遲滞ナク管海官廳又ハ警察官署ニ之ヲ届出ツヘシ

第六十二條 船長ハ其ノ使用シタル水先人水先法第十九條第一項ノ各號ニ該當スト認ムルトキハ航海日誌及機關日誌ノ寫ヲ添ヘ前條ノ官廳又ハ官署ニ其ノ旨ヲ申告スヘシ

第六十三條 水先人其ノ業務ヲ開始セントスルトキハ當該水先區内ノ應招ニ便宜ナル場所ニ事務所ヲ定メ之ヲ朝鮮總督府遞信局ニ届出ツヘシ

水先人事務所ヲ變更シタルトキハ十日内ニ之ヲ朝鮮總督府遞信局ニ届出ツヘシ

水先人組合成立シタルトキハ組合ノ事務所ヲ以テ各組合員ノ事務所ト爲スヘシ

第六十四條 二區以上ノ水先區水先免狀ヲ受有スル者其ノ專屬水先區ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク朝鮮總督府遞信局ニ届出ツヘシ

第六十五條 水先人其ノ業務以外ノ業務ニ從事セムトスルトキ又ハ結水期ヲ除キ二月以上其ノ業務ヲ休止セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ朝鮮總督府遞信局長官ノ許可ヲ

ヲ提出シ又ハ水先免狀、水先法令書ヲ返還スルニハ管海官廳ヲ經由スヘシ

第七十條 第五十二條及第六十三條ノ届出又ハ第六十六條ノ報告ハ警察官署ノ所在地ニ在リテハ當該官署ニモ之ヲ爲スヘシ

第十一章 罰 則

第七十一條 第四條第一項、第六條第一項、第二項、第九條第一項、第十一條、第十四條第一項、第十六條、第十二條、第二十三條、第二十五條、第二十六條、第二十九條第一項、第三十條第一項、第三十五條第一項、第三十七條、第三十九條乃至第四十一條、第四十六條、第四十七條、第五十一條第二項、第五十二條乃至第五十五條、第五十七條第二項、第六十一條乃至第六十三條第一項、第二項、第六十四條乃至第六十七條、第七十條ニ違反シタル者第八條ノ體格検査ノ執行ヲ拒ミタル者第五十六條ノ命令ニ從ハス若ハ當該官吏ノ臨席ヲ拒ミタル者又ハ本令ノ規定ニ依リ水先免狀、水先船免狀、水先法令書ヲ返還若ハ添附スヘキ場合ニ之ヲ怠リタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

朝鮮水先令施行規則

受クヘシ

第六十六條 水先人水先區ニ於テ左ノ各號ノ事項ヲ認メタルトキハ直ニ其ノ狀況ヲ朝鮮總督府遞信局ニ報告スヘシ

一 航路、航路標識ニ異變アルコト

二 航路ノ妨害ト爲ルヘキモノノ存在スルコト

三 前二號ノ外航行上危險ノ虞アル事實アルコト

第六十七條 水先人ハ毎年一月前一年間ニ於テ水路ヲ嚮導シタル船舶ニ關シ第三十九條第一項ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出スヘシ

第六條第一項各號ノ一又ハ第二項ニ該當シ抹消ノ登録ヲ申請スル者ニ在リテハ其ノ際前回報告以後ニ於ケル前項

ノ書面ヲ該抹消登録申請書ト共ニ提出スヘシ

第七條第三項ニ依リ抹消登録ノ通知ヲ受ケタル者ハ水先免狀ト共ニ前回報告以後ニ於ケル第一項ノ書面ヲ提出ス

ヘシ

前三項ノ書面ニハ第三十九條第二項ノ書面ヲ添附スヘシ

第六十八條 本令ニ於テ管海官廳ト稱スルハ水先人組合ノ事務所又ハ水先人ノ事務所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ謂フ

第六十九條 本令ノ規定ニ依リ申請、届出、報告若ハ書面

附 則

本令ハ朝鮮水先令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮水先令附則第二項ニ依リ水先免狀ヲ受有セムトスル者ハ本令施行ノ日ヨリ三月内ニ申請スヘシ此ノ場合ニ於テハ第二條ノ規定ヲ準用ス

附 則

(昭和五年) 朝鮮總督府令第四十七號

本令ハ昭和五年五月十日ヨリ之ヲ施行ス

海軍法令集

第一號様式

水先人名簿登録申請書

- 一 水先區ノ名稱
- 二 氏名(片假名ニテ傍訓ヲ附スヘシ)
- 三 本籍
- 四 出生ノ年月日
- 五 水先人試験ヲ行ヒタル管海官廳ノ名稱
- 六 合格ノ年月日

右水先人名簿ニ登録ノ上水先免狀授與相成度朝鮮水先令施行規則第一條ニ依リ登録税相添此段申請候也

年 月 日

申請人 氏 名印
現住所

朝鮮總督府遞信局宛

第二號書式 削除

第三號書式

第 號	道府縣	氏 名
年 月 日	出生ノ年月日	氏 名
年 月 日	何水先區水先免狀	朝鮮總督府爵 氏 名印
年 月 日	朝鮮水先令ニ依リ之ヲ授與ス	

備考

水先免狀ハ豎八寸横一尺一寸トシ裏面ニ英譯文ヲ附記ス

朝鮮水先令施行規則

第四號書式

水先人名簿變更登錄(訂正)申請書

- 一 水先免狀ノ番號
 - 二 水先區ノ名稱
 - 三 登錄ノ年月日
 - 四 氏名(片假名ニテ傍訓ヲ附スヘシ) 新(朱書) 舊
 - 五 本 籍 新(朱書) 舊
 - 六 出生ノ年月日 新(朱書) 舊
- 右年月日(變更、訂正ノ事由)ニ依リ前記朱書ノ通變更ニ付變更登錄(訂正)相成度戸籍謄本(抄本)並登錄稅(手数料)相添此段申請候也
- 年 月 日

申請人 氏

現住所

名印

朝鮮總督府遞信局宛

第五號書式

水先免狀再交付申請書

- 一 水先免狀ノ番號
 - 二 水先區ノ名稱
 - 三 登錄ノ年月日
 - 四 氏名(片假名ニテ傍訓ヲ附スヘシ)
 - 五 本 籍
 - 六 出生ノ年月日
- 右年月日(流失、遺失、紛失、毀損等ノ事由)ニ付再交付相成度手数料相添此段申請候也
- 年 月 日

申請人 氏

現住所

名印

朝鮮總督府遞信局宛

水先船免狀		
種類名稱	裝網具ノ置	積量
長	幅	深
水先人(氏名)ノ申請ニ依リ此ノ免狀ヲ授與ス		
年 月 日		
管海官廳印		

備考
水先船免狀ハ堅一尺一寸横八寸トス

別表

水先區	航路	汽船水先案内料
東水道水先區境界線ヨリ多獅島錨地迄	東水道水先區境界線ヨリ多獅島錨地迄	三五
又ハ多獅島錨地ヨリ東水道水先區境界線迄	又ハ多獅島錨地ヨリ東水道水先區境界線迄	三五
東水道水先區境界線ヨリ龍岩浦錨地迄	東水道水先區境界線ヨリ龍岩浦錨地迄	七五
又ハ龍岩浦錨地ヨリ東水道水先區境界線迄	又ハ龍岩浦錨地ヨリ東水道水先區境界線迄	七五
東水道水先區境界線ヨリ三道浪頭錨地迄	東水道水先區境界線ヨリ三道浪頭錨地迄	一〇〇
又ハ三道浪頭錨地ヨリ東水道水先區境界線迄	又ハ三道浪頭錨地ヨリ東水道水先區境界線迄	一〇〇
東水道水先區境界線ヨリ安東縣錨地迄	東水道水先區境界線ヨリ安東縣錨地迄	一一〇
又ハ安東縣錨地ヨリ東水道水先區境界線迄	又ハ安東縣錨地ヨリ東水道水先區境界線迄	一一〇
多獅島錨地ヨリ龍岩浦錨地迄	多獅島錨地ヨリ龍岩浦錨地迄	五〇
又ハ龍岩浦錨地ヨリ多獅島錨地迄	又ハ龍岩浦錨地ヨリ多獅島錨地迄	五〇
多獅島錨地ヨリ三道浪頭錨地迄	多獅島錨地ヨリ三道浪頭錨地迄	七〇
又ハ三道浪頭錨地ヨリ多獅島錨地迄	又ハ三道浪頭錨地ヨリ多獅島錨地迄	七〇
多獅島錨地ヨリ安東縣錨地迄	多獅島錨地ヨリ安東縣錨地迄	八五
又ハ安東縣錨地ヨリ多獅島錨地迄	又ハ安東縣錨地ヨリ多獅島錨地迄	八五
龍岩浦錨地ヨリ三道浪頭錨地迄	龍岩浦錨地ヨリ三道浪頭錨地迄	三〇
又ハ三道浪頭錨地ヨリ龍岩浦錨地迄	又ハ三道浪頭錨地ヨリ龍岩浦錨地迄	三〇
龍岩浦錨地ヨリ安東縣錨地迄	龍岩浦錨地ヨリ安東縣錨地迄	四〇
又ハ安東縣錨地ヨリ龍岩浦錨地迄	又ハ安東縣錨地ヨリ龍岩浦錨地迄	四〇
三道浪頭錨地ヨリ安東縣錨地迄	三道浪頭錨地ヨリ安東縣錨地迄	二〇
又ハ安東縣錨地ヨリ三道浪頭錨地迄	又ハ安東縣錨地ヨリ三道浪頭錨地迄	二〇
西水道水先區境界線ヨリ西水道水先區境界線迄	西水道水先區境界線ヨリ西水道水先區境界線迄	三五
又ハ大東溝錨地ヨリ西水道水先區境界線迄	又ハ大東溝錨地ヨリ西水道水先區境界線迄	三五
西水道水先區境界線ヨリ龍岩浦錨地迄	西水道水先區境界線ヨリ龍岩浦錨地迄	六五
又ハ龍岩浦錨地ヨリ西水道水先區境界線迄	又ハ龍岩浦錨地ヨリ西水道水先區境界線迄	六五
西水道水先區境界線ヨリ三道浪頭錨地迄	西水道水先區境界線ヨリ三道浪頭錨地迄	八五
又ハ三道浪頭錨地ヨリ西水道水先區境界線迄	又ハ三道浪頭錨地ヨリ西水道水先區境界線迄	八五

朝鮮水先令施行規則

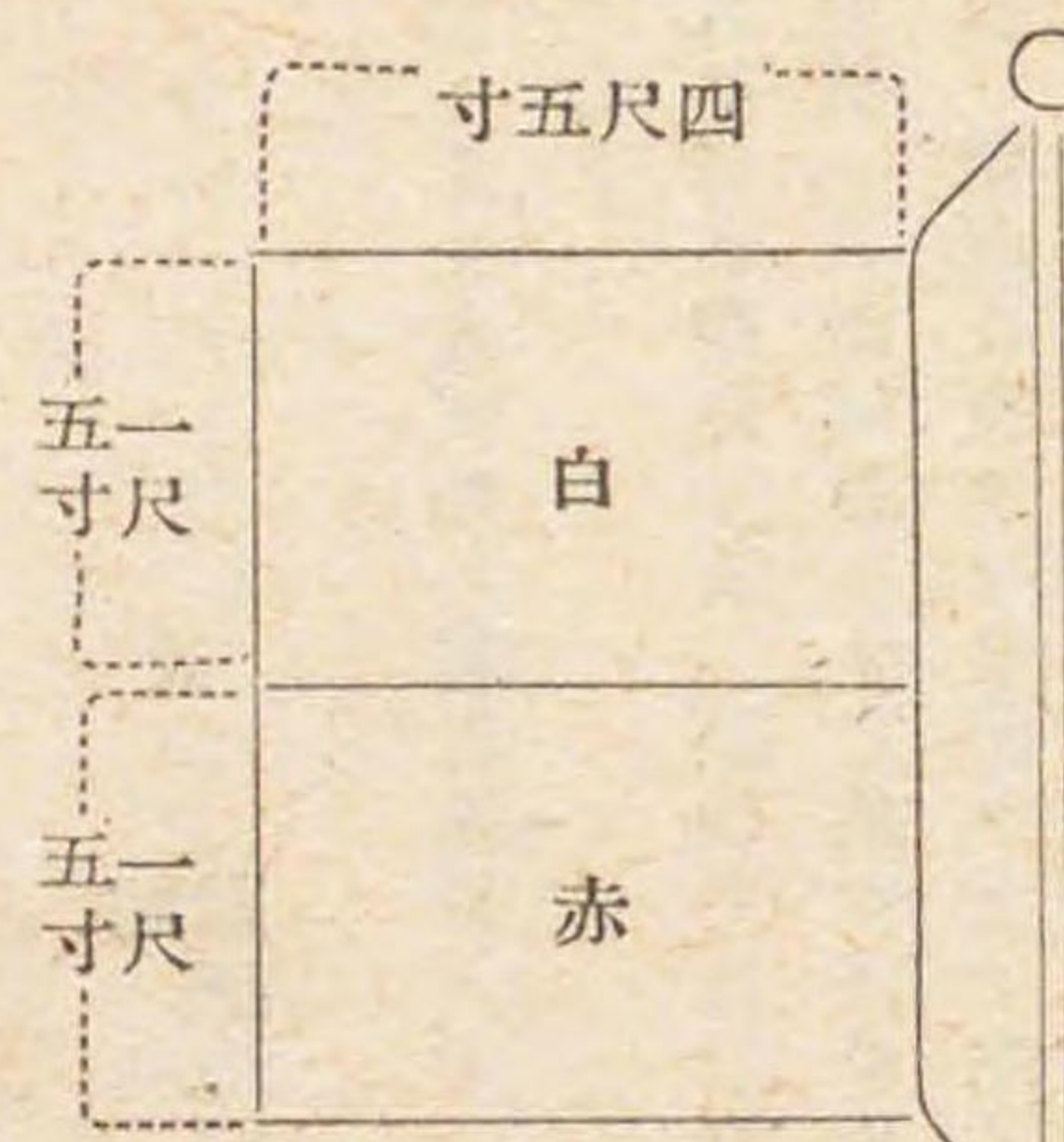
大	同	江	仁川港	群山港	木浦港	釜山港
西水道水先區境界線ヨリ安東縣錨地迄 又ハ安東縣錨地ヨリ西水道水先區境界線迄	大東溝錨地ヨリ龍岩浦錨地迄 又ハ龍岩浦錨地ヨリ大東溝錨地迄	大東溝錨地ヨリ三道浪頭錨地迄 又ハ三道浪頭錨地ヨリ大東溝錨地迄	大東溝錨地ヨリ安東縣錨地迄 又ハ安東縣錨地ヨリ大東溝錨地迄	水先區境界線ヨリ鎮南浦錨地迄 又ハ鎮南浦錨地ヨリ兼二浦錨地迄	水先區境界線ヨリ兼二浦錨地迄 又ハ兼二浦錨地ヨリ水先區境界線迄	鎮南浦錨地ヨリ兼二浦錨地迄 又ハ兼二浦錨地ヨリ鎮南浦錨地迄
一〇〇	三五	五五	七〇	六〇	一〇〇	四〇
釜山港西口水先區境界線ヨリ西口水先區境界線迄	釜山港東口水先區境界線ヨリ釜山港東口水先區境界線迄	東水道水先區境界線ヨリ東水道水先區境界線迄	北水道水先區境界線ヨリ北水道水先區境界線迄	又ハ港内錨地ヨリ水先區境界線迄	又ハ港内錨地ヨリ水先區境界線迄	又ハ港内錨地ヨリ水先區境界線迄
三五	七〇	五五	四〇	七〇	七〇	一五

元山港 水先區境界線ヨリ港内錨地迄
又ハ港内錨地ヨリ水先區境界線迄 三五

備考

- 一、帆船水先案内料ハ當該航路ニ於ケル汽船水先案内料ニ其ノ百分ノ八十ヲ加ヘタル額トス但シ機關ヲ有スル帆船ニ在リテ機關ヲ使用スルトキハ帆船水先案内料ノ範圍内ニ於テ船長ト協定スヘシ
- 二、鴨綠江水先區ニ於ケル帆船ノ水路嚮導ニハ曳船ヲ使用ス但シ本表水先案内料ニハ曳船賃ヲ含マズ

別記様式



朝鮮水先令施行規則

朝鮮水先人試験規則

(大正四年十月) 朝鮮總督府令第三百三號
昭和五年五月 朝鮮總督府令第四十八號
改正

第一條 水先人試験ハ朝鮮總督ノ定ムル場所及期日ニ於テ之ヲ行フ

試験ヲ行フ管海官廳、試験期日、水先區ノ名稱及水先人ノ員數ハ試験期日三十日前ニ之ヲ告示ス

第二條 試験ヲ受クルヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限ル

- 一 二年以上總噸數七百噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リ且六月以上試験ヲ受ケムトスル水先區ニ於テ水先修業生ト爲リ實務ヲ練習シタルコト
- 二 二年以上總噸數七百噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リ且其ノ間ニ於テ二十回以上試験ヲ受ケムトスル水先區ノ航海ニ從事シタルコト
- 三 二年以上總噸數七百噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リ其ノ間ニ於テ十回以上試験ヲ受ケムトスル水先區ノ航海ニ從事シタルコト

職ヲ執リ其ノ間ニ於テ十回以上試験ヲ受ケムトスル水先區ノ航海ニ從事シ且三月以上同水先區ニ於テ水先修業生ト爲リ實務ヲ練習シタルコト

第三條 水先人試験ヲ受ケムトスル者ハ試験期日七日前迄ニ試験ヲ行フ管海官廳ニ左ノ書類ヲ提出スヘシ

- 一 第一號書式ノ申請書
 - 二 戶籍謄本
 - 三 水先法第三條第二號、第三號及第四條第一號ニ該當セサルコトノ證明書
 - 四 海技免狀又ハ水先免狀ヲ受有スル者ハ其ノ寫
 - 五 商船學校、水産講習所又ハ水産試験所ノ卒業證書又ハ修業證書ヲ有スル者ハ其ノ寫
- 第四條 受験申請人ハ左ニ掲クル書類ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供シテ履歴ヲ證明スヘシ
- 一 商船ニ乗組ミタル履歴ハ船長ノ就職、退職ノ認又ハ之ニ準スヘキ證明書
 - 二 海軍艦船又ハ官公署ノ所屬船ニ乗組ミタル履歴ハ當

該官公署ノ辭令書、證明書若ハ當該官公吏ノ證明書

三 水先修業生タリシ履歴ハ當該水先人及船長ノ證明書

四 試験ヲ受ケムトスル水先區ノ航海ニ從事シタル履歴ハ航海日誌又ハ船舶所有者ノ證明書

第五條 受験申請人ハ體格檢査ニ付テハ五十錢、學術試験ニ付テハ水先區一區毎ニ七圓ノ手数料ヲ納付スヘシ

第六條 試験ハ體格檢査及學術試験トシテ體格檢査ニ合格シタル者ニ非サレハ學術試験ヲ受クルコトヲ得ス

第七條 學術試験ハ試験官吏ノ見込ニ依リ筆記試験又ハ口述試験トシ左ノ科目ニ付テ之ヲ行フ

- 一 航路標識、潮流、地勢、水路、港灣、錨地及危險物ノ説明
 - 二 船舶ノ嚮導及運航方法
 - 三 羅針違差ノ檢定方法
 - 四 船舶衝突ノ豫防、水路港灣ノ取締其ノ他水先人本分ノ職務ニ關スル法規
 - 五 英語
- 筆記試験及口述試験ヲ併セ行フ場合ニハ筆記試験ニ合格シタル者ニ非サレハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス

第八條 削除

朝鮮水先人施行規則

第九條 朝鮮船舶職員試験規則ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶職員試験規程第三條、第二十一條(體格檢査ニ關スル規定ニ限ル)第二十二條乃至第二十四條、第二十六條及第二十七條ノ規定ハ水先人試験ニ之ヲ準用ス

第十條 學術試験ノ成績ハ試験官吏ニ於テ受験人カ當該水先區ノ航海ニ從事シタル經歷ヲモ參酌シテ之ヲ定ム

附 則 本令ハ朝鮮水先令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (大正十四年) 朝鮮總督府令第六十號

附 則 (昭和五年) 朝鮮總督府令第四十四號

本令ハ昭和五年五月十日ヨリ之ヲ施行ス

受験申請書

何水先區水先人試験相受度就テハ履歴書受験資格ニ關スル證明書及戶籍ノ謄本相添此段申請候也

年 月 日

申請人 氏 名 印

現住所

管海官廳宛

水先法施行ニ關スル件

(昭和八年二月) 臺灣總督府令第十八號

裁判所 臺灣總督府法院
遞信大臣 臺灣總督
第一號表 別表
其ノ事務所ノ所在地ヲ管轄スル遞信局長 臺灣總督府交通局長

第一條 水先法ノ施行ニ關シテハ特ニ規定スルモノヲ除クノ外明治三十二年遞信省令第三十三號水先法施行細則ニ依ル

第二條 前條ノ遞信省令中左記上欄ノ事項ハ各其ノ下欄ノ事項トス

本籍地	本籍又ハ本居地
遞信省	臺灣總督府
戶籍吏	戶籍吏但シ本島人ニ在リテハ戶籍官吏
海員審判所	臺灣總督府海員審判所
水先人ノ事務所所在地ヲ管轄スル管海官廳	管海官廳
事務所所在地ヲ管轄スル管海官廳	
組合ノ事務所ヲ管轄スル管海官廳	

第三條 水先區ハ左ノ二區トス

- 一 基隆港水先區 臺北州野柳半島龜頭鼻ヨリ基隆島ノ北東端ヲ經テ無尾溝鼻ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
- 二 高雄港水先區 高雄燈臺ヲ中心トシ二海里ノ半徑ニテ引キタル圓弧ヲ以テ境界トス

第四條 水先法施行細則第六十二條ノ規定ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附則

第五條 本令ハ昭和六年勅令第二百七十三號海事諸法臺灣施行令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六條 明治四十五年府令第五十號基隆港水先規則及昭和四年府令第四十三號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第七條 明治四十五年府令第五十號基隆港水先規則又ハ昭和四年府令第四十三號ニ依リ甲號様式ノ水先免狀ヲ受有

手續ニ付テハ水先法施行細則第一條及第二條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ水先免狀ヲ授與セラレタル者ハ之ト引換ニ舊免狀ヲ管海官廳ヲ經由シ臺灣總督府ニ返還スヘシ
前項ノ水先免狀ヲ受クル迄ハ舊免狀ヲ水先免狀ニ代用スルコトヲ得

第九條 昭和四年府令第四十三號附則第二項ニ依ル水先免狀ヲ受有シ昭和六年勅令第二百七十三號海事諸法臺灣施行令施行ノ際水路嚮導ノ業務ニ從事スル者ニ對シテハ申請ニ依リ本令施行ノ日ヨリ六月内ニ管海官廳ノ定ムル所ニ從ヒ水先人試驗ヲ行フ

前項ノ試驗ニ付テハ昭和八年府令第十九號臺灣水先人試驗規程ヲ準用ス
第一項ノ水先免狀ヲ受有スル者ハ本令施行後遲滞ナク該免狀ヲ管海官廳ヲ經由シ臺灣總督府ニ返還スヘシ

シ昭和六年勅令第二百七十三號海事諸法臺灣施行令施行ノ際船舶ノ水路嚮導ノ業務ニ從事スル者ニ對シテハ申請ニ依リ學術試驗ヲ用ヒスシテ舊水先免狀記載ノ水先區ニ該當スル水先區ノ水先免狀ヲ授與ス
前項ノ申請ヲ爲サントスル者ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ左ノ各號ノ事項ヲ記載シタル申請書ニ第一號ノ事項ニ付テハ本籍市區町村長、第二號乃至第四號ノ事項ニ付テハ戶籍吏ノ證明書及舊免狀ノ寫ヲ添ヘ管海官廳ヲ經由シテ臺灣總督府ニ差出スヘシ

一 水先法第三條第二號及第三號ノ事項ニ該當セサルコト

二 氏名

三 本籍地

四 出生ノ年月日

申請人ハ體格検査手数料トシテ金壹圓ヲ收入印紙ヲ以テ納付スヘシ

第八條 管海官廳ハ前項ノ申請人ニ對シ豫メ期日及場所ヲ通知シテ船舶職員試驗規程第二十一條前段ノ規定ニ準シ體格検査ヲ執行ス
前項ノ體格検査ニ合格シタル者ノ登録及水先免狀授與ノ

水先法施行ニ關スル件(臺灣)

(別表)

水先區	航	路	汽船水先案内料
基隆港	水先區境界線ヨリ基隆内港錨地マテ		三五円
	基隆内港錨地ヨリ水先區境界線マテ		
高雄港	基隆検査錨地ヨリ基隆内港錨地マテ		二五
	水先區境界線ヨリ高雄内港錨地マテ		三五
高雄港	高雄内港錨地ヨリ高雄内港錨地マテ		
	高雄検査錨地ヨリ高雄検査錨地マテ		二五

備考

帆船水先案内料ハ當該航路ニ於ケル汽船水先案内料ニ其ノ百分ノ八十ヲ加ヘタル額トス但シ機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ機關ヲ使用シタルトキハ帆船水先案内料ノ範圍内ニ於テ船長ト協定スヘシ

臺灣水先人試験規程

(昭和八年二月) 臺灣總督府令第十九號

- 第一條** 臺灣總督ハ試験期日三十日前迄ニ水先人試験ヲ行フ管海官廳ノ名稱、試験期日、試験場、水先區ノ名稱及合格員數ヲ告示ス
- 第二條** 水先法第三條又ハ第四條ニ該當スル者ハ水先人試験ヲ受クルコトヲ得ス
- 第三條** 左ノ各號ノ一ニ該當スル履歴ヲ有スル者ハ水先人試験ヲ受クルコトヲ得
- 一 二年以上總噸數二千噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リ且三月以上試験ヲ受ケントスル水先區ニ於テ水先修業生ト爲リ實務ヲ練習シタルコト
 - 二 二年以上總噸數二千噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リ且其ノ間ニ於テ二十回以上試験ヲ受ケントスル水先區ノ航海ニ從事シタルコト
 - 三 二年以上總噸數二千噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リ其ノ間ニ於テ十回以上試験ヲ受ケントスル水

臺灣水先人試験規程

- 先區ノ航海ニ從事シ且ツ一月半以上同水先區ニ於テ水先修業生ト爲リ實務ヲ練習シタルコト
- 第四條** 水先人試験ヲ受ケントスル者ハ試験期日七日前(休暇日ヲ算入セス)迄ニ履歴書及身分ニ關スル證明書ヲ添へ受験申請書ヲ試験ヲ行フ管海官廳ニ差出スヘシ
- 第五條** 履歴ハ左ニ掲ケル書類ヲ以テ之ヲ證明スヘシ
- 一 商船ニ乗組ミタル履歴、船員手帖又ハ之ニ準スヘキ證明書
 - 二 海軍艦船其ノ他官廳所屬船ニ乗組ミタル履歴、當該官廳又ハ艦船ノ辭令書又ハ證明書
 - 三 水先修業生タリシ履歴、當該水先人及船長ノ證明書
 - 四 試験ヲ受ケントスル水先區ノ航船ニ從事シタル履歴航海日誌又ハ船舶所有者ノ證明書
- 第六條** 身分ニ關スル證明書ニハ左ノ事項ヲ記載シ第一號乃至第三號ノ事項ニ付テハ戸籍吏(本島人ニ在リテハ戸籍官吏)、第四項ノ事項ニ付テハ本籍市區町村長(本島人ニ在リテハ本居地ヲ管轄スル郡守、市尹又支廳長)ノ證明ヲ受クヘシ
- 一 氏名
 - 二 本籍地又ハ本居地

- 三 出生ノ年月日
- 四 水先法第三條第二號及第三號ノ事項ニ該當セサルコト
- 第七條 水先人試験ハ體格検査及學術試験トス體格検査ニ合格シタル者ニ非サレハ學術試験ヲ受クルコトヲ得ス
- 第八條 學術試験ハ筆記試験及口述試験トシ左ノ事項ニ就キ之ヲ行フ

- 一 英語
 - 二 航路標識、潮流、地勢、水路、港灣、錨地及危險物ノ説明
 - 三 船舶ノ嚮導及運航方法
 - 四 羅針違差ノ檢定方法
 - 五 船舶衝突ノ豫防、水路港灣ノ取締其ノ他水先人本分ノ職務ニ關スル法規
- 試験官必要ナシト認メタルトキハ筆記試験又ハ口述試験ノ全部若ハ一部ヲ省略スルコトヲ得
- 筆記試験及口述試験ヲ併セ行フ場合ニハ筆記試験ニ合格シタル者ニ非サレハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス
- 第九條 受験申請人ハ手数料トシテ體格試験ニ付テハ金壹圓、學術試験ニ付テハ金十圓ヲ收入印紙ヲ以テ納付ス

關東州水先規則

(昭和四年七月)
關東廳令第二十一號

改正 昭和十一年
關東廳令第六十一號

- 第一條 水先人ハ水先免狀ヲ有スルコトヲ要ス
水先人ニ非サル者ハ水先區ニ於テ船舶ノ水路ヲ嚮導スルコトヲ得ス
- 第二條 水先區ハ左ノ三區トス
旅順港水先區 旅順港取締規則第一條ニ規定スル水域
大連港水先區 大連港規則第一條ニ規定スル水域
普蘭店港水先區 普蘭店港規則第一條ニ規定スル水域
- 第三條 各水先區ニ於ケル水先人ノ定數左ノ如シ
旅順港水先區 二人以内
大連港水先區 八人以内
普蘭店港水先區 二人以内
- 第四條 水先免狀ハ帝國臣民ニシテ水先人試験ニ合格シタル者ニ之ヲ下付ス

關東州水先規則

- 第十條 船舶職員試験規程第三條、第二十一條前段、第二十二條乃至第二十四條、第二十六條及第二十七條ノ規定ハ水先人試験ニ之ヲ準用ス
- 第十一條 學術試験ノ成績ハ試験官ニ於テ受験人カ當該水先區ノ航海ニ從事シタル經歷ノ多少ヲモ參考シテ之ヲ定ム

附 則

本令ハ昭和六年勅令第二百七十三號海事諸法臺灣施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和四年府令第四十三號附則第二項ニ依リ水先免狀ヲ受有シタル者ハ第三條ノ規定ニ拘ラス水先人試験ヲ受クルコトヲ得

水先免狀ハ別記様式ニ依ル

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ水先人タルコトヲ得ス

- 一 年齢二十三年未滿ノ者及六十年以上ノ者
 - 二 懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者
 - 三 破産者
 - 四 身體ノ機能障害ニ依リ水先業務ヲ營ムニ適セサル者
 - 五 水先免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者
- 第六條 水先人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ事由ヲ具シ關東海務局長ヲ經テ遲滞ナク水先免狀ヲ返納スヘシ
- 水先人其ノ手續ヲ爲スコトヲ得サルトキハ水先免狀ヲ保管スル者ニ於テ其ノ手續ヲ爲スヘシ
- 一 前條各號ノ一ニ該當シタルトキ
 - 二 國籍ヲ失ヒタルトキ
 - 三 廢業シタルトキ
 - 四 失踪ノ宣告ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキ
- 關東海務局長ハ水先人前項各號ノ一ニ該當スト認ムルトキハ直ニ水先免狀ノ返納ヲ命スヘシ
- 第七條 削除

第八條 水先免狀記載事項ニ異動ヲ生シ又ハ水先免狀ヲ汚損シ若ハ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ關東海務局長ヲ經テ遲滞ナク水先免狀ノ書換又ハ再下付ノ申請ヲ爲スヘシ但シ改氏名又ハ生年月日ノ訂正ノ場合ハ戶籍謄本ヲ添附スヘシ

前項ノ申請ヲ爲サントスル者ハ手数料一圓ヲ納付スヘシ
第九條 水先免狀ヲ下付シタル者及返納シタル者又ハ返納ヲ命シタル者ノ氏名ハ關東局々報ヲ以テ之ヲ公告ス水先免狀ノ記載事項ヲ變更シタルトキハ其ノ人名及事由ヲ關東局々報ヲ以テ公告ス

第十條 水先人試験ハ關東海務局長之ヲ行フ試験ノ場所及日時水先區ノ名稱並ニ採用員數ハ試験期日三十日前迄ニ之ヲ公示ス
第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ水先人試験ヲ受クルコトヲ得

- 一 總噸數二千噸以上ノ船舶ノ船長トシテ二年以上遠洋近海又ハ沿海區域ノ航海ニ從事シ且三月以上免許ヲ受ケントスル水先區ニ於テ水先業務ヲ練習シタル者
- 二 總噸數二千噸以上ノ船舶ノ船長トシテ二年以上遠洋近海又ハ沿海區域ノ航海ニ從事シ且其ノ間ニ於テ二十

ノ證明書

(一) 水先區ノ航海ニ從事シタル經歷 船舶所有者ノ證明書又ハ航海日誌ノ寫

第十四條 身分證明書ニハ左ノ事項ヲ記載シ本籍地市町村長ノ證明ヲ受クヘシ

- 一 氏名
- 二 本籍地
- 三 生年月日

四 第五條第二號及第三號ニ該當セサルコト

第十五條 水先人試験ハ體格検査及學術試験トス體格検査ニ合格シタル者ニ非サレハ學術試験ヲ受タルコトヲ得ス

學術試験ハ筆記試験及口述試験トシ左ノ事項ニ付之ヲ行フ但シ大使ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ筆記試験又ハ口述試験ノ一部又ハ全部ヲ省略スルコトアルヘシ

- 一 英語
- 二 航路標識、潮流、地勢、水路、港灣錨地及危險物ノ說明
- 三 船舶ノ嚮導及運航方法
- 四 羅針違差ノ檢定方法

關東州水先規則

回以上免許ヲ受ケントスル水先區ノ航海ニ從事シタル者

三 旅順港水先區ニ在リテハ前二號ノ外二年以上上海軍艦艇長タリシ者ニシテ滿洲國駐劄特命全權大使ニ於テ適當ト認ムル者

第十二條 水先人試験ヲ受ケントスル者ハ試験期日十四日前迄ニ願書ニ免許ヲ受ケントスル水先區ヲ指定シ戶籍謄本、履歷書及身分證明書ヲ添ヘ關東海務局長ニ提出スヘシ

前項ノ試験ヲ受ケントスル者ハ手数料二十圓ヲ納付スヘシ
第十三條 履歷書ニハ學歷、經歷及現在ノ職業ヲ記載シ左ニ掲クル書類ヲ以テ之ヲ證明スヘシ

- 一 學歷 最終ノ學校ノ卒業證明書又ハ卒業證書寫
- 二 經歷

(イ) 商船ニ乗組ミタル經歷 船員手帳又ハ之ニ準スヘキ證明書

(ロ) 官公署ノ所屬船舶ニ乗組ミタル經歷 當該官公署ノ證明書又ハ辭令書寫

(ハ) 水先練習ヲ爲シタル經歷 指導水先人及當該船長

五 船舶ノ衝突豫防、水路港灣ノ取締其ノ他水先人ノ職務ニ關スル法規

筆記試験ニ合格シタル者ニ非サレハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條 水先人其ノ業務ニ從事スルトキハ水先免狀ヲ携帯スヘシ

水先人ハ關係官公吏ノ命令又ハ水先人ヲ要招シタル船長ノ要求アリタルトキハ直ニ水先免狀ヲ提示スヘシ

第十七條 同一水先區ノ水先人ハ水先人組合ヲ組織シ組合事務所ヲ設クヘシ

組合事務所ノ位置、組合規約及業務規程ハ關東海務局長ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

組合規約中ニハ組合員ノ營業及組合ノ風紀秩序ニ關スル規定ヲ設クヘシ

業務規程中ニハ水路嚮導料金ニ關スル規定ヲ設クヘシ

關東海務局長必要アリト認ムルトキハ組合規約及業務規程ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十八條 水先人組合ハ組合長一人ヲ置キ其ノ氏名ヲ關東海務局長ニ届出ツヘシ其ノ變更アリタルトキ亦同シ

組合長ハ組合ヲ代表シ組合規約及業務規程ノ實行ヲ監督

シ組合員ニシテ之ヲ遵守セサル者アリタルトキハ遲滞ナク關東海務局長ニ申告スヘシ
組合長ハ毎年一月其ノ前年中ニ於ケル組合ノ狀況ヲ關東海務局長ニ報告スヘシ

第十九條 水先人ヲ要招セントスル船舶ハ晝間ニ在リテハ國際PT又ハGヲ掲ケ、夜間ニ在リテハ一分毎ニ一閃光ヲ發スルカ又ハ汽笛長聲ヲ四發スヘシ
水先人前項ノ信號ヲ認知シタルトキハ直ニ之ニ應シ水路ノ嚮導ヲ爲スヘシ

第二十條 水先人ヲ要招シタル船長ハ豫メ運航及操縦ニ關スル準備ヲ整へ之ニ要スル一切ノ勞力ヲ水先人ニ提供スヘシ
水先人ヲ要招シタル船長ハ水先業務練習者ノ乗船ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十一條 水先人ハ同時ニ二隻以上ノ船舶ノ水先嚮導ヲ爲スコトヲ得ス
二隻以上ノ船舶ニ於テ同時ニ水先人ヲ要招ノ信號ヲ掲ケタルトキハ投錨ノ早キ船舶ノ要招ニ應スヘシ但シ危難ニ罹リタル船舶アリタルトキハ其ノ順序ニ拘ラス該船舶ノ要招ニ應スヘシ

記シタル報告書ヲ翌月五日迄ニ關東海務局長ニ提出スヘシ
水先人水先業務練習者ヲ隨伴シタルトキハ其ノ狀況ヲ前項報告書中ニ記載スヘシ

第二十八條 水先人他ノ業務ニ從事セントスルトキ又ハ引續キ七日以上水先業務ヲ休止セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ關東海務局長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十九條 水先人其ノ業務ニ從事中海難ニ罹リタルトキハ遲滞ナク其ノ顛末ヲ關東海務局長ニ届出ツヘシ

第三十條 水先人水先區内ニ於テ左ノ事項ヲ認知シタルトキハ遲滞ナク其ノ狀況ヲ關東海務局長ニ報告スヘシ
一 航路及航路標識ノ異狀
二 航路ノ防害トナルヘキモノノ存在
三 航行上危險ノ虞アリト認ムルモノノ存在

第三十一條 水先人其ノ業務ニ從事スルニ當リ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ關東海員審判所ノ裁決ヲ以テ之ヲ懲戒ス水先人第十七條第三項ノ規定ニ依リ組合規約ノ規定シタル事項ニ違反シタルトキ亦同シ
一 過失懈怠又ハ不當ノ行爲ニ因リ船舶ニ損害ヲ加ヘ若ハ之ヲ沈没セシメ又ハ航路標識其ノ他ノ營造物ヲ毀損

第二十二條 水先人水路ヲ嚮導スヘキ船舶ニ乗船シタルトキハ直ニ其ノ氏名及水先人タルコトヲ船舶ニ告知スヘシ
水先業務練習者ヲ隨伴シタルトキ亦同シ
水先人水路ヲ嚮導スヘキ船舶ニ乗船シ水先業務執行中ハ國際信號日旗ヲ掲ケ下船ノ際之ヲ撤去スヘシ

第二十三條 水先人乗船シタルトキハ船長ハ直ニ水先人ニ對シ船名、所有者氏名、船籍港、積量及吃水並ニ代理店名ヲ通告シ且水先人下船ノ際前各項及水先業務開始並ニ終了日時ヲ記シタル書面ニ記名調印シテ之ヲ水先人ニ交付スヘシ

第二十四條 水先人ヲ要招シタル船長ハ水先人業務規程ニ定ムル所ニ依リ水路嚮導料ヲ支拂フヘシ

第二十五條 水先業務ノ練習ヲ爲サントスル者ハ關東海務局長ニ願出ツヘシ
關東海務局長前項ノ願出ヲ適當ト認メタルトキハ水先人ヲ指定シテ水先業務ノ練習ヲ爲サシムヘシ

第二十六條 水先人ハ水先業務練習者ニ付關東海務局長ノ指示ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十七條 水先人ハ毎月水路嚮導ヲ爲シタル日時、船舶ノ名稱、國籍、總噸數、所有者氏名、代理店名及吃水ヲシタルトキ
二 過失懈怠又ハ不當ノ行爲ニ因リ人ヲ死傷ニ致シタルトキ
三 業務ヲ怠リ又ハ業務上ノ義務ニ違反シタルトキ
四 亂醉、粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ
水先人ノ懲戒ニ關シ本令ニ規定ナキモノニ付テハ關東州海員懲戒令ヲ準用ス

第三十二條 削除

第三十三條 船長其ノ要招シタル水先人第三十一條第一項各號ノ一ニ該當スト認ムルトキハ航海日誌及機關室日誌ノ寫ヲ添ヘ關東海務局長ニ其ノ事實ヲ報告スヘシ

第三十四條 水先人業務ヲ怠リ因テ航路標識其ノ他ノ營造物ヲ毀損シタルトキハ百圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス水先人ニ非サル者水先區ニ於テ水路ヲ嚮導シ因テ前項ノ罪ヲ犯シタルトキ亦前項ニ同シ

第三十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
一 水先人ニ非スシテ水路ノ嚮導ヲ爲シタル者
二 水先免狀行使ノ停止中水路ノ嚮導ヲ爲シタル者
三 水先免狀ヲ貸與シテ之ヲ行使セシメタル者

四 正當ノ事由ナクシテ水先要招ニ應セサリシ者又ハ水先要招ニ應スルモ正當ノ事由ナクシテ水路ノ嚮導ヲ爲ササリシ者

五 船舶ノ吃水又ハ積量ニ付水先人ニ對シ虚偽ノ告知ヲ爲シタル者

第三十六條 第六條第一項、第八條第一項、第十六條、第十七條第二項、同條第三項、第十八條、第二十條乃至第二十三條、第二十六條乃至第三十條及第三十三條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第十七條第五項ノ命令ニ遵ハサル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十七條 本令中船長ニ關スル規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ之ヲ適用ス

附 則

本令ハ昭和四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

大連港水先規則ハ之ヲ廢止ス但シ本令施行ノ際大連港ノ水先業務ニ從事スル水先人ノ水先免狀ハ仍一年間其ノ效力ヲ有ス

本令施行ノ際關東州ノ水先業務ニ從事スル者ニシテ第五條各號ノ一ニ該當セサル者ニ對シテハ本令施行ノ日ヨリ一年内ニ限り試験ヲ行ハスシテ現ニ從事スル水先區ノ水先

免狀ヲ下付ス

昭和八年廳令第六十二號附則

本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際普蘭店港ニ於テ一年以上船舶ノ水路嚮導ニ從事シ第五條各號ノ一ニ該當セス且二年以上ノ總噸數二千噸以上ノ船舶ノ船長ノ經驗ヲ有スル者ニ對シテハ試験ヲ行ハスシテ普蘭店港水先區ノ水先免狀ヲ下付スルコトアルヘシ

(様式)

第 號	櫻
水先免狀	水先區
氏	氏
名	名
生年月日	昭和 年 月 日
職	滿洲國駐劄特命全權大使
名	氏 名

備考 輪廓堅四寸横六寸トシ裏面ニ英譯文ヲ附記ス

第七章 海員懲戒

海員懲戒法

(明治二十九年四月 法律第六十九號)

第一章 總 則

第一條 海技免狀ヲ受有スル者其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ事項ニ該當スルトキハ海員審判所ノ裁決ヲ以テ懲戒ヲ加フヘシ

一 正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶ヲ放棄シタルトキ

二 過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ自他ノ船舶ヲ問ハス之ニ損害ヲ加ヘ若ハ之ヲ沈没セシメタルトキ

三 過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ人ヲ殺傷シタルトキ

四 海難ニ罹リ其ノ船舶又ハ船客乗組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ

五 海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メ正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶又ハ船客乗組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ

海員懲戒法

懲 戒

六 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

七 亂醉粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ

第二條 懲戒ハ左ノ三種トス

一 免狀行使ノ禁止

二 免狀行使ノ停止

三 譴責

第三條 前條懲戒ノ適用ハ所爲ノ輕重ニ從ヒ海員審判所之ヲ定ム

第四條 免狀行使ノ停止ハ一月以上三年以下トス

第五條 海員審判所ハ左ノ原因アルトキハ審判ヲ行ハス

一 確定裁決

二 時效

第六條 時效ノ期間ハ審判ヲ受クヘキ事件ノ生シタル日ヨリ五年トス

第七條 海員審判所ノ審判ニ關シ此ノ法律ニ規程ナキモノニ付テハ刑事訴訟法ノ規程ヲ準用ス

第二章 海員審判所ノ組織及管轄

第八條 海員審判所ハ地方海員審判所及高等海員審判所ノ二トス

地方海員審判所ハ船舶司檢所ニ置キ高等海員審判所ハ遞信省ニ置ク

第九條 海員審判所ニハ審判所長、審判官、理事官及書記ヲ置ク

審判所長、審判官、理事官及書記ノ定員並其ノ任用ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 地方海員審判所ノ審判ハ審判長及審判官ヲ併セテ

三人高等海員審判所ノ審判ハ審判長及審判官ヲ併セテ五人ノ列席會議ヲ以テ之ヲ行フ

第十一條 地方海員審判所ノ管轄區域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 審判ニ付スヘキ事件ノ管轄權ハ其ノ事件ノ生シタル船舶ノ定繫場ヲ管轄スル地方海員審判所ニ屬ス

同一ノ事件ニ付二箇以上ノ地方海員審判所管轄權ヲ有スルトキハ其ノ事件ノ生シタル地ニ最モ近キモノノ管轄トス

第十三條 地方海員審判所ノ理事官又ハ被審人ハ其ノ事件ヲ他ノ地方海員審判所ニ移付スルノ申請ヲ爲スコトヲ得

リタルコトヲ認知シタルトキハ證據ヲ集取シ管轄地方海員審判所ノ理事官ニ報告スヘシ

第十七條 理事官審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ證據ヲ集取シ又必要ニ應ジ實地臨檢スルコトヲ得

第十八條 理事官ハ職權ヲ以テ審判ノ開始ヲ地方海員審判所ニ申立ツヘシ

前項ノ申立ヲ爲ストキハ證據其ノ他必要ノ書類ヲ添附スヘシ

第四章 地方海員審判所ノ審判

第十九條 地方海員審判所ハ理事官ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ審判ヲ開始スヘキヤ否ヤヲ決定ス但シ職權ヲ以テスル場合ニ於テハ理事官ノ意見ヲ聽クヘシ

開始決定ハ理事官及被審人ニ之ヲ通知スヘシ

第二十條 地方海員審判所ニ於テ下調ヲ必要ナリト決定スルトサハ審判所長ハ審判官ニ其ノ下調ヲ命スヘシ

第二十一條 下調ノ命ヲ受ケタル審判官ハ被審人ヲ呼出シテ之ヲ訊問スルコトヲ得

受命審判官ハ必要ナル證據ヲ集取スヘシ
受命審判官ハ證人、鑑定人ヲ呼出シ又ハ通知シ若ハ臨檢

海員懲戒法

前項ノ申請ヲ爲ス者ハ審判期日前ニ管轄海員審判所ヲ經由シテ高等海員審判所ニ申請書ヲ差出スヘシ

高等海員審判所ハ前項ノ申請アリタル場合ニ於テ審判上便益ナリト認ムルトキハ其ノ決定ヲ以テ他ノ地方海員審判所ニ該事件ヲ移付スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ該事件ハ移付ヲ受ケタル地方海員審判所ノ管轄權ニ屬ス

第十四條 高等海員審判所ハ左ノ場合ニ於テ理事官又ハ被審人ノ申請書ニ依リ何レノ海員審判所ニ於テ本件ヲ審判スルノ權アルヤヲ決定ス

一 權限アル地方海員審判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ審判權ヲ行フコトヲ得サルトキ

二 二以上ノ地方海員審判所審判權ヲ有シ又ハ有セストノ確定裁決ヲ爲シタルトキ

第三章 審判前ノ手續

第十五條 船舶司檢所司檢官、同司檢官補、警察官吏、市町村長及浦役人ニ於テ此ノ法律ニ依リ審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ直ニ其ノ事實ヲ詳記シ管轄地方海員審判所ノ理事官ニ報告スヘシ

第十六條 領事官及貿易事務官帝國外ニ於テ前條ノ事實ヲ爲スコトヲ得

ヲ爲スコトヲ得

二十二條 被審人若ハ證人正當ノ理由ナクシテ受命審判官ノ呼出ニ應セサルトキハ受命審判官ハ引致狀ヲ發シテ之ヲ引致セシムルコトヲ得

引致狀ハ理事官ノ命令ニ因リ拘引狀執行ノ手續ヲ準生シテ之ヲ執行ス

二十三條 被審人逃走シ又ハ逃走ノ虞アルトキハ受命審判官ハ免狀行使ノ假停止ヲ爲シ若ハ之ヲ差押フルコトヲ得

二十四條 被審人又ハ證人疾病其ノ他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スルコト能ハサルコトヲ疏明スルトキハ受命審判官ハ其ノ所在ニ就テ之ヲ訊問シ若ハ他ノ地方海員審判所ニ其ノ訊問ヲ囑託スルコトヲ得

二十五條 受命審判官下調ヲ終リタルトキハ調書及一切ノ證據ヲ審判所長ニ差出シ審判所長ハ直ニ之ヲ理事官ニ送付スヘシ

理事官ハ三日以内ニ意見ヲ付シ其ノ書類ヲ審判所長ニ還付スヘシ

二十六條 地方海員審判所ハ下調ヲ十分ナリト思料スルトキハ審判ヲ繼續スルヤ否ヤヲ決定スヘシ

審判ヲ繼續スヘシト決定スルトキハ審判期日ヲ定メ被審人ヲ呼出スヘシ

審判ヲ繼續セスト決定スルトキハ被審人ヲ放免スヘシ

第二十七條 審判ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ地方海員審判所ノ決定ニ依リ其ノ公開ヲ停止ス

第二十八條 第二十一條乃至第二十四條ハ地方海員審判所ノ審判ノ場合ニモ亦之ヲ適用ス

第二十九條 開廷中秩序ノ維持ハ審判長ニ屬ス審判長ハ審判ヲ妨クル者又ハ不當ノ言語ヲ發スル者ヲ退廷セシムルコトヲ得

第三十條 被審人及證人ノ訊問ハ審判長之ヲ爲ス

審判官及理事官ハ審判長ニ告ケ被審人及證人ヲ訊問スルコトヲ得

第三十一條 理事官ハ審判ニ立會ヒ其ノ意見ヲ述フルコトヲ得

第三十二條 被審人ハ補佐人ヲ用フルコトヲ得但シ地方海員審判所ノ認許シタル者ニ限ル

第三十三條 地方海員審判所ハ呼出ヲ受ケタル被審人審判期日ニ出頭セサルトキハ闕席裁決ヲ爲スヘシ但シ被審人

第四十條 控告ノ期間ハ裁決言渡アリタル日ヨリ七日トス
闕席裁決ニ對スル控告ノ期間ハ被審人自ヲ裁決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十四日トス

第四十一條 控告ヲ爲スニハ其ノ申立書ヲ原地方海員審判所ニ差出スヘシ

原地方海員審判所ハ直ニ該申立及一件書類ヲ高等海員審判所ニ送付スヘシ

第四十二條 高等海員審判所ノ審判ニ付テハ地方海員審判所ノ審判ニ關スル規程ヲ適用ス

第四十三條 高等海員審判所ハ控告ヲ理由アリトスルトキハ原裁決ヲ取消シ更ニ裁決ヲ爲スヘシ

控告ヲ理由ナシトスルトキハ裁決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第六節 執行處分

第四十四條 懲戒ハ裁決確定ノ後之ヲ執行ス

第四十五條 免狀行使ノ禁止ヲ言渡シタルトキハ其ノ審判ヲ爲シタル海員審判所ニ於テ免狀ヲ取上ケ期間満了ノ後之ヲ本人ニ還付スヘシ

ノ疾病其ノ他ノ故障ニ依リ審判ヲ行フコト能ハサルトキハ決定ヲ以テ其審判ヲ延期又ハ中止スルコトヲ得

第三十四條 刑事裁判手續中ハ被審人ニ對シ審判ヲ開始スルコトヲ得ス

被審人刑事訴追ヲ受ケタルトキハ其ノ事件ノ判決ヲ終ルマテ審判ヲ中止スヘシ

第三十五條 理事官及被審人ハ本案ノ裁決アルマテ何時ニテモ管轄違又ハ審判ヲ行フヘカラサルノ申立ヲ爲スコトヲ得

地方海員審判所ハ職權ヲ以テ管轄違又ハ審判ヲ行フヘカラサルノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第三十六條 地方海員審判所ニ於テ前條ノ申立ヲ却下シタルトキハ本案ノ裁決ヲ待タズ直ニ高等海員審判所ニ控告スルコトヲ得

第三十七條 裁決ニハ其ノ理由及證據ヲ明示スヘシ

第三十八條 裁決及裁決始末書ノ原本ハ審判ヲ爲シタル地方海員審判所之ヲ保存スヘシ

第五章 高等海員審判所ノ審判

第三十九條 理事官及被審人ハ地方海員審判所ノ裁決ニ對シ高等海員審判所ニ控告スルコトヲ得

免狀行使ノ禁止若ハ停止ヲ言渡サレタル者海員審判所ニ免狀ヲ差出ササルトキハ海員審判所ハ其ノ免狀ヲ無効ト爲シ官報ニ告示スヘシ

第七章 罰 則

第四十六條 海員審判所又ハ受命審判官ヨリ證人トシテ呼出サレタル者及鑑定又ハ通事ノ爲呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス若ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ二圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十七條 證人トシテ海員審判所ニ呼出サレタル者偽證ヲ爲シタルトキ及鑑定又ハ通事ノ爲海員審判所ニ呼出サレタル者詐僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐僞ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者亦同シ

前二項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ裁決言渡ニ至ラサル前ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

附 則

第四十八條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第四十九條 海員審判所ノ事務章程ハ勅命ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條 此ノ法律施行ノ際西洋形船舶長運轉手機關手免

狀規則第十條ニ依リ審問中ノ事件ハ此ノ法律ニ依リ管轄權ヲ有スル地方海員審判所ノ管轄トス其ノ既ニ審問ノ判定ヲ受ケタルモノハ第五章ノ規程ニ依リ高等海員審判所ニ控告スルコトヲ得

海技免狀ヲ受有スル者及水先人ノ懲戒免除ニ關スル件

(昭和十三年二月 勅令第八十號)

海員免狀ヲ受有スル者又ハ水先人ニシテ昭和十三年二月十一日前ノ所爲ニ付海員審判所又ハ懲戒委員會ノ裁決ヲ以テ懲戒ノ處分ヲ受ケタルモノニ對シテハ將來ニ向テ其ノ懲戒ヲ免除ス未タ處分ヲ受ケサル者ニ對シテハ懲戒ヲ行ハス懲戒ニ基ク既成ノ效果ハ免除ニ因リ變更セラルコトナシ

附 則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

海難其ノ他ノ事實届出方

(昭和八年五月 遞信省令第二十三號)

改正 昭和十三年三月 遞信省令第二十一號

- 第一條 海技免狀ヲ受有スル者其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ事項ニ該當シタルトキハ當該船舶ノ船長、船長不在ナルトキハ之ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ於テ其ノ地若シ其ノ地ニ當該官公署ナキトキハ其ノ後最初ニ到着シタル地ノ管海官廳、警察官署又ハ市町村役場、外國ニ在リテハ領事館又ハ貿易事務館ニ其ノ旨届出ツヘシ但シ船員法第十五條ノ規定ニ依リ報告ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 一 船舶ヲ放棄シタルトキ
- 二 自他ノ船舶ヲ問ハス之ニ損害ヲ加ヘ又ハ之ヲ沈没セシメタルトキ
- 三 人ヲ傷殺シタルトキ
- 四 海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メタルトキ
- 五 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

六 亂醉粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ

第二條 前條各號ニ該當スル事實アリタルコトヲ認知シ又ハ其ノ事實アリト思料スル者ハ其ノ所在地ニ於テ前條ニ掲クル官公署ニ其ノ旨届出ツヘシ

第三條 第一條ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十年遞信省令第十九號ハ之ヲ廢止ス

遭難船舶ノ通報並海難其ノ他ノ取調ニ關スル件

(昭和十一年八月 遞信省訓令第一號)

第一 管海官廳、警察官署、市役所又ハ町村役場ニ於テ船舶力遭難ニ依リ沈没シ、破壊シ若ハ行衛不明トナリ又ハ死傷者若ハ行衛不明者ヲ生シタルコトヲ認知シタルトキハ當該船舶ノ種類、名稱、所有者、遭難ノ原因、日時、海技免狀ヲ受有スル者及水先人ノ懲戒免除ニ關スル件・海難其ノ他ノ事實届出方・遭難船舶ノ通報並海難其ノ他ノ取調ニ關スル件

- 場所、死傷者、行衛不明者ノ員數ヲ電報等ニ依リ直ニ管轄地方海員審判所理事官ニ通報スヘシ
- 第二 管海官廳、警察官署、市役所又ハ町村役場ニ於テ船員法ニ依ル報告昭和八年遞信省第二十三號海難其ノ他ノ事實届出、方ニ依リ届出其ノ他ニ依リ海員懲戒法及水先法ニ定ムル審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ當該海技免狀又ハ水先免狀受有者及必要ト認ムル關係者ニ對シ海難事件ニ在リテハ左記ノ各事項、其ノ他ノ事件ニ在リテハ左記第一號乃至第四號、第十五號及第十六號ノ事項ヲ取調ヘ調書ヲ作成シ遲滞ナク之ヲ管轄地方海員審判所理事官ニ送付スヘシ
- 一 取調ヲ受ケタル者ノ本籍、住所、氏名、出生ノ年月日、職名(海員ニ非サル者ニ付テハ其ノ職業)、受有海技免狀又ハ水先免狀ノ種類及番號
- 二 船舶ノ種類、名稱、總噸數、船籍港、機關ノ種類及公稱馬力並ニ所有者ノ住所及氏名
- 三 發航港、事件發生直前ノ寄港地、到達港並ニ事件發生ノ地點及年月日時
- 四 事件ノ顛末
- 五 事件發生當時ノ天候、船舶ノ速力、針路及其ノ自差

- 六 事件發生當時當直ノ船舶職員、舵取、見張人及油差等事件ニ關係アリト認ムル者ニシテ取調ヲ爲スコト能ハサルモノノ住所氏名及職名
- 七 事件發生當時使用シタル海圖ノ名稱及番號
- 八 船舶損傷ノ箇所及狀態
- 九 旅客及船員ノ員數並ニ死傷者ノ有無
- 十 搭載貨物ノ種類及數量並ニ其ノ損害ノ有無
- 十一 人命、船舶及貨物救助ノ方法
- 十二 航海日誌及機關日誌ノ存否
- 十三 機關ヲ有スル船舶ニ在リテハ全速力、半速力及微速力ノ速度
- 十四 夜間ニ於ケル衝突事件ニ在リテハ衝突當時掲揚シ居タル檣燈、増揚檣燈、舷燈、船尾燈又ハ碇泊燈等ノ燈火ノ現狀、掲揚ノ場所及方法並ニ油船燈、電氣船燈ノ別
- 十五 取調ヲ受ケタル者ノ出發豫定日時及目的地
- 十六 其ノ他參考トナルヘキ事項

調書ニハ取調ヲ爲シタル年月日及場所ヲ記載シ之ヲ讀聞カセ取調ヲ受ケタル者ヲシテ署名捺印セシメ取調ヲ爲シタル

者之ニ署名捺印シ其ノ所屬官廳又ハ公署ノ印ヲ押捺シ且毎葉綴目契印スヘシ

海員審判所裁決ノ正本、
謄本、抄本及被審人陳述
書ノ謄本下付手数料ノ件

(明治四十三年三月)
遞信省令第四號

被審人又ハ審判利害關係人ニ於テ裁決ノ正本謄本又ハ抄本ヲ求ムルトキハ其ノ用紙一枚ニ付五錢ノ手数料ヲ納ムヘシ被審人カ其ノ陳述書ノ謄本ヲ求ムルトキ亦同シ

前項ノ手数料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼付シテ納ムヘシ

海員審判所事務章程

(明治三十年六月)
勅令第百八十九號

第一條 審判所長ハ海員審判所ノ事務ヲ總理ス

- 審判所長故障アルトキハ審判官中官等最モ高キ者之ヲ代理ス官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其ノ先ナル者之ヲ代理ス
- 第二條 審判所長ハ自ら審判長ト爲リ若ハ審判官ニ審判長ヲ命スルコトヲ得
- 第三條 各審判事件ノ掛審判官ハ審判所長ノ指定ニ依ル
- 第四條 四日以上引續クヘキ見込アル審判ニ於テ審判所長ハ補充審判官一人ヲ命シ之ニ立會ハシムルコトヲ得此ノ補充審判官ハ其ノ審判中或ル審判官ノ疾病其ノ他ノ事故ニ依リ引續キ參與スルコトヲ得サル場合ニ於テ之ニ代リ審判ヲ完結スルノ權ヲ有ス
- 第五條 審判官若ハ理事官差支アリテ同一審判所ノ審判官若ハ理事官中其ノ職務ヲ行フヘキ者ナキ場合ニ遞信大臣ニ於テ其ノ事件緊急ヲ要スト認ムルトキハ他ノ審判所ノ審判官若ハ理事官ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得
- 第六條 審判ノ公開ヲ停止スルノ決定ヲ爲シタルトキハ公衆ヲ退カシムル前之ヲ言渡ス此ノ場合ニ於テ裁決ヲ言渡ストキハ再ヒ公衆ヲ入廷セシムヘシ
- 第七條 審判ハ定數ノ審判官ヲ評議シ及之ヲ言渡ス

海員審判所裁決ノ正本、謄本、抄本及被審人陳述書ノ謄本下付手数料ノ件・海員審判所事務章程

- 各審判官ノ意見及多少ノ數ニ付テハ嚴ニ秘密ヲ守ルコトヲ要ス評議ノ際各審判官意見ヲ述フルノ順序ハ官等最モ低キ者ヲ始トシ審判長ヲ終リトス官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其ノ後ナルモノヲ始トシ受命ノ事件ニ付テハ受命審判官ヲ始トス
- 第八條 審判官ハ審判スヘキ問題ニ付自己ノ意見ヲ表スルコトヲ拒ムコトヲ得ス
- 第九條 裁決及決定ハ過半數ノ意見ニ依ル其ノ意見三説以上ニ別レ各過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ル迄被審人ニ不利ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス
- 第十條 裁決ヲ言渡シタルトキハ審判所長ハ直ニ遞信大臣ニ裁決ノ謄本ヲ差出スヘシ
- 第十一條 理事官審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シ取調ヲ爲シタル後審判ヲ要セスト思料スルトキハ理由ヲ具シ審判所長ヲ經由シテ遞信大臣ニ報告スヘシ
- 第十二條 審判所ニ於テ或ル事件ニ付審判ヲ開始セス若ハ繼續セスト決定シタルトキハ審判所長ハ之ヲ遞信大臣ニ報告スヘシ
- 第十三條 審判所長ハ遞信大臣ノ認可ヲ受ケ事務取扱ニ關スル規定ヲ設ケルコトヲ得

第十四條 事務ノ執行ニ關シ遞信大臣ハ各審判所長ヲ監督シ高等海員審判所長ハ各地方海員審判所長ヲ監督ス職務ノ執行ニ關シ高等海員審判所理事官ハ遞信大臣ノ命令ニ從ヒ地方海員審判所理事官ハ遞信大臣及高等海員審判所理事官ノ命令ニ從フ

地方海員審判所名稱、位置及管轄區域ニ關スル件

(明治四十三年三月 勅令第九十四號)

地方海員審判所ノ名稱位置、及管轄區域ハ遞信大臣之ヲ定ム

附 則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十二年勅令第二百六十四號ハ之ヲ廢止ス

朝鮮海員懲戒令

(昭和十一年九月 勅令第十五號)

朝鮮ニ於ケル海員ノ懲戒ニ關シテハ海員懲戒法第八條乃至第十四條ノ規定ヲ除クノ外同法ニ依ル但シ同法中海員審判

所トアルハ朝鮮總督府海員審判所、高等海員審判所トアルハ朝鮮總督府高等海員審判所、地方海員審判所トアルハ朝鮮總督府地方海員審判所、遞信省トアルハ朝鮮總督府、刑事訴訟法トアルハ朝鮮刑事令、官報トアルハ朝鮮總督府官報トシ同法第十五條ノ報告ヲ爲スヘキ官吏及吏員ハ遞信官吏及警察官吏トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リテ朝鮮總督府海員審判所ニ繫屬中ノ事件ハ朝鮮總督府地方海員審判所ニ繫屬ス前項ノ事件ニ付從前ノ規定ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ之ヲ本令ニ依リテ爲シタルモノト看做ス

海難其ノ他ノ事實届出ニ關スル件

(昭和十年十二月 朝鮮總督府令第五百三十三號)

改正 昭和十三年三月 朝鮮總督府令第三十四號

第一條 海技免狀ヲ受有スル者ヲ乘組マシメタル朝鮮船舶

- 令ニ依ル日本船舶ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル事實アリタルトキハ當該船舶ノ船長若シ船長不在ナルトキハ之ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ於テ其ノ港又ハ其ノ後最初ニ到着シタル港ヲ管轄スル管海官廳(朝鮮船員令ノ規定ニ依ル管海官廳ノ事務ヲ行フ郵便局ヲ含ム)又ハ警察官署外國ニ在リテハ領事館又ハ貿易事務館)ニ遲滞ナク其ノ旨ヲ届出ツヘシ但シ朝鮮船員令ニ於テ依ルコトヲ定メタル船員法第十五條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 一 船舶ヲ放棄シタルトキ
- 二 船舶方沈没又ハ顛覆シタルトキ
- 三 船舶カ乗揚、接觸又ハ衝突シタルトキ
- 四 船舶カ捕獲セラレタルトキ
- 五 船内ニ於テ火災アリタルトキ
- 六 海難救助ヲ求ムル船舶ヲ認メタルトキ又ハ他ノ船舶若ハ人命ヲ救助シタルトキ
- 七 船舶機關ノ要部ヲ毀損シタルトキ
- 八 船舶搭載貨ニ著シキ損害ヲ生シタルトキ
- 九 船舶カ海難ニ罹リ其ノ他著シキ事故アリタルトキ
- 十 人ノ死傷アリタルトキ

地方海員審判所名稱、位置及管轄區域ニ關スル件(臺灣) 海員懲戒令・海難其ノ他ノ事實届出ニ關スル件(臺灣)

- 十一 海技免狀ヲ受有スル者カ職務上ノ義務ニ違反シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ
- 十二 海技免狀ヲ受有スル者ニ亂醉、粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ
- 第二條 前條各號ノ一ニ該當スル事實ヲ認知シタル者ハ遲滞ナク前條ノ官署ニ其ノ旨ヲ申告スヘシ
- 第三條 船舶所有者、船舶管理人又ハ船舶借入人ハ海技免狀ヲ受有スル者ヲ乘組マシメタル朝鮮船舶令ニ依ル日本船舶ノ存否カ六月間分明ナラサルトキハ遲滞ナク當該船舶ノ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ其ノ顛末ヲ届出スヘシ
- 第四條 第一條ノ規定ニ依ル届出ハ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲シ届出人ノ署名捺印シ且每葉ニ契印スヘシ但シ書面ヲ提出スルコト能ハサル事由アルトキハ口頭ヲ以テ爲スコトヲ得
- 一 船舶ノ番號、種類、名稱及總噸數
- 二 船籍港
- 三 船舶所有者ノ住所及氏名又ハ名稱
- 四 船舶ノ最大搭載人員(旅客、船員又ハ其ノ他ノ者ニ區別シテ記載スヘシ)航行區域(漁船ニ在リテハ從業制限)、船舶機關ノ種類及公稱馬力、船舶檢

- 一 查證書ノ有效期間並ニ船舶検査證書ヲ交付シタル管海官廳名
- 二 船長、機關長並ニ事實發生ノ當時當直シタル海員ノ本籍、住所、氏名及出生ノ年月日、海技免狀ノ種類及番號並ニ當該當直海員ノ職名
- 三 船舶ノ發航地寄港地及到達地
- 四 事實發生ノ場所及日時並ニ當時ノ天候、風位風力及潮流
- 五 事實ノ顛末
- 六 前項ニ掲クル事項中、届出ノ事實ニ關係ナキモノハ適宜記載ヲ省略スルコトヲ得
- 七 第五條 第一條又ハ第三條ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附 則

本令ハ昭和十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
大正三年朝鮮總督府令第八十二號ハ之ヲ廢止ス

海員審判所裁決謄本、抄本及被審人陳述書謄本下付手数料ニ關スル件

(昭和八年二月) 臺灣總督府令第二十二號

被審人又ハ審判利害關係人ニ於テ裁決ノ謄本又ハ抄本ノ下付ヲ求ムルトキハ其ノ用紙一枚ニ付金十錢ノ手数料ヲ納ムヘシ被審人カ其ノ陳述書ノ謄本ノ下付ヲ求ムルトキ亦同シ前項ノ手数料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼付シテ之ヲ納ムヘシ

附 則

本令ハ昭和六年勅令第三百七十三號海事諸法臺灣施行令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

海難其ノ他ノ事實届出ニ關スル件

(昭和八年三月) 臺灣總督府令第四十四號

- 第一條 海技免狀ヲ受有スル者其職務ヲ行フニ當リ左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ當該船長、船長不在ナルトキハ代理者ニ於テ其ノ地若ハ爾後始メテ到着シタル地ノ管海官廳、警察官署、市街庄役場若クハ區役場、外國ニ在リテハ領事官若ハ貿易事務官ニ遲滞ナク其ノ旨ヲ届出スヘシ
 - 一 船舶ヲ放棄シタルトキ
 - 二 船舶ニ損害ヲ加ヘ又ハ之ヲ沈没セシメタルトキ
 - 三 人ヲ殺傷シタルトキ
 - 四 海難ニ罹リタル船舶ヲ認メタルトキ
 - 五 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ
 - 六 亂醉粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ
- 第二條 第一條各號ノ一ニ該當スル事實アリタルコトヲ認海員審判所裁決謄本、抄本及被審人陳述書謄本下付手数料ニ關スル件、海難其ノ他ノ事實届出ニ關スル件(臺灣)・關東州海員懲戒令・海難其ノ他ノ事實届出ニ關スル件(關東州)

知シ若ハ其ノ事實アリト思料シタル者ハ其ノ所在地ニ於テ第一條ニ掲クル官署若ハ公署ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第三條 船長又ハ船長不在ナル場合ニ於ケル船長ノ代理者第一條ノ規定ニ違背シタルトキハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附 則

本令ハ昭和六年勅令第二百七十三號海事諸法臺灣施行令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

關東州海員懲戒令

(昭和十一年九月) 勅令第三百十二號

關東州ニ於ケル海員ノ懲戒ニ關シテハ海員懲戒法第八條乃至第十四條、第三十六條及第三十九條乃至第四十三條ノ規定ヲ除クノ外同法ニ依ル但シ同法中通信省トアルハ關東州地方海員審判所又ハ海員審判所トアルハ關東海員審判所、刑事訴訟法トアルハ關東州裁判事務取扱令、官報トアルハ關東局局報トシ同法第十五條ノ報告ヲ爲スヘキ官吏及吏員

六六九 關東州

ハ海務局官吏及警察官吏トス

附 則

本令ハ昭和十一年九月十日ヨリ之ヲ施行ス
本令ハ本令施行前ニ生シタル事件ニ付亦之ヲ適用ス但シ從前ノ規定ニ依リ審理ヲ完了シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

海難其ノ他ノ事實届出ニ關スル件

(昭和十一年九月)
(關東州局令第五十七號)

第一條 海技免狀ヲ受有スル者其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ事項ニ該當シタルトキハ當該船舶ノ船長、船長不在ナルトキハ之ニ代リテ其職務ヲ行フ者ニ於テ其ノ地又ハ其ノ後最初ニ到着シタル地ノ海務局若ハ警察署(外國ニ在リテハ領事官又ハ貿易事務官)ニ遲滞ナク其ノ旨ヲ届出ツヘシ但シ關東州船員令ニ於テ依ルコトヲ定メタル船員法第十七條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲シタルトモハ此ノ限ニ在

ラス

- 一 船舶ヲ放棄シタルトキ
- 二 自他ノ船舶ヲ問ハス之ニ損害ヲ加ヘ又ハ之ヲ沈没セシメタルトキ
- 三 人ヲ殺傷シタルトキ
- 四 海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メタルトキ
- 五 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ
- 六 亂醉粗暴其他ノ失行アリタルトキ

第二條 前條各號ニ該當スル事實アリタルコトヲ認知シ又ハ其ノ事實アリト思料スル者ハ前條ニ掲クル官署ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第三條 第一條ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八章 船員給與統制

船員給與統制令

(昭和十五年十月)
(勅令第六百七十六號)

第一條 國家總動員法(昭和十三年勅令第三百十七號)ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同シ)第六條ノ規定ニ基ク船員ノ給與ニ關スル命令及同法第十一條ノ規定ニ基ク會社ノ經理ニ關スル命令中船員ノ給與ニ關スルモノハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 本令ニ於テ給與ト稱スルハ給料、手當、賞與其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハス船員カ職務ノ對價トシテ船舶所有者ヨリ受クル金錢、物其ノ他ノ利益ヲ謂フ

第三條 船舶所有者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ本令施行ノ際現ニ存スル給與ノ準則ヲ遞信大臣ニ報告スヘシ
遞信大臣前項ノ給與ノ準則カ給與ノ統制上不適當ナリト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命スルコトヲ得

船員給料統制令

第四條 船舶所有者給與ノ準則ヲ定メ又ハ之ヲ變更若ハ廢止セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ遞信大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 船舶所有者給與ノ準則ニ依ラスシテ給與ヲ支給セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ遞信大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 船舶所有者相互間ニ於テ又ハ船舶所有者ノ組合其ノ他之ニ準スルモノニ於テ給與ニ關シ協定ヲ爲シ遞信大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ船舶所有者又ハ其ノ組合其ノ他之ニ準スルモノノ構成員タル船舶所有者ニ對シテ前條ノ規定ノ適用ニ付テハ協定ニ定メタル事項ニ關スル限リ其ノ協定ヲ以テ給與ノ準則ト看做ス

第七條 船舶所有者又ハ其ノ組合其ノ他之ニ準スルモノ前條ノ協定ヲ變更又ハ廢止セントスルトキハ遞信大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 遞信大臣給與ノ協定ヲ許可シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ協定ニ加ハラサル船舶所有者ニ對シ

其ノ協定ニ依ルヘキコトヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第五條ノ規定ノ適用ニ付テハ協定ニ定メタル事項ニ關スル限リ其ノ協定ヲ以テ給與ノ準則ト看做ス

第九條 遞信大臣必要アリト認ムルトキハ船舶所有者又ハ其ノ組合其ノ他之ニ準スルモノニ對シ給與ノ協定ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ命令ニ依リ協定ヲ爲シタルトキハ遞信大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第十條 遞信大臣必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ初任給、昇給、手當、賞與其ノ他給與ニ關シ定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ遞信大臣ノ定メタル事項ニ付テハ船舶所有者ハ給與ノ準則又ハ協定ニ依ラス前項ノ定ニ依ルコトヲ要ス但シ遞信大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 遞信大臣必要アリト認ムルトキハ給與ノ支給方法ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十二條 遞信大臣必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ給與ニ關シ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ船舶、事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿書類

トス

附 則

本令ハ昭和十五年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十五年十一月五日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十四年勅令第七百五號貸金臨時措置令ハ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ船員ニ關スルモノニ限リ昭和十五年十一月四日迄其ノ效力ヲ有ス但シ同日以前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ同日後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

船員給與統制令施行規則

(昭和十五年十月 遞信省令第五十四號)

第一條 船舶所有者ノ所有船舶(借入船舶ヲ含ム)ノ合計總噸數カ五十噸未滿ニシテ且其ノ船舶(漁船ニ在リテハ總噸數五十噸以上ノ船舶)カ五隻未滿ナル場合ニハ船員給與統制令(以下令ト稱ス)第三條乃至第五條ノ規定ハ之ヲ適用セス

船員給與統制令施行規則

ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムヘシ

第十三條 本令ハ國又ハ道府縣ニハ之ヲ適用セス

本令ハ國際條約又ハ之ニ基ク協定中給與ニ關スル定アルトキ其ノ制限ニ抵觸スル場合ニ於テハ之ヲ適用セス

第十四條 本令及本令ニ基キテ發スル命令中船舶所有者ニ關スル規定ハ船舶共有ノ場合ニ在リテ船舶管理人ヲ置キタルトキハ船舶管理人ニ、船舶貸借ノ場合ニ在リテハ船舶借入人ニ之ヲ適用ス

第十五條 遞信大臣ハ本令ニ定ムル職權ノ一部ヲ遞信局長又ハ地方長官(東京府ニ於テハ警視總監)ニ委任スルコトヲ得

第十六條 本令中遞信大臣トアルハ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ南洋廳長官トシ遞信局長トアルハ朝鮮又ハ臺灣ニ在リテハ各朝鮮總督府遞信局長又ハ臺灣總督府交通局長トシ地方長官トアルハ朝鮮又ハ臺灣ニ在リテハ各道知事又ハ州知事若ハ廳長トシ道府縣トアルハ朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ニ在リテハ各道、州若ハ廳又ハ南洋群島地方廳

第二條 令第三條第一項ノ規定ニ依ル給與ノ準則ノ報告ハ本令施行後一月以内ニ遞信大臣ニ之ヲ爲スヘシ

第三條 給與ノ準則ヲ定メ又ハ之ヲ變更若ハ廢止セントスル者ハ其ノ内容(變更ノ場合ニ在リテハ新舊對照ヲ附スヘシ)及事由ヲ記載シタル許可申請書ヲ遞信大臣ニ提出スヘシ

第四條 船員ノ全部若ハ一部ニ對シ給與ノ準則ニ依ラスシテ給與ヲ支給セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ遞信大臣ニ提出スヘシ

- 一 支給セントスル給與ノ種類、額及率
 - 二 支給ヲ受クル船員ノ職務別員數
 - 三 支給期
 - 四 支給セントスル事由
 - 五 其ノ他參考ト爲ルヘキ事項
- 第五條 船員ノ箇箇ニ對シ給與ノ準則ニ依ラスシテ給與ヲ支給セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ所轄遞信局長ニ提出スヘシ
- 一 船員ノ氏名及年齡
 - 二 履歷及海技免狀其ノ他ノ資格證明書ノ種類
 - 三 職務及雇入期間

四 乘組船舶ノ種類、名稱及總噸數
 五 航行區域及就航航路
 六 支給セントスル給與ノ種類、額及率
 七 支給期
 八 支給セントスル事由
 九 其ノ他參考ト爲ルヘキ事項

第六條 給與ニ關スル協定ヲ爲シ許可ヲ受ケントスル者ハ協定ヲ爲シタル者ノ代表者名ヲ以テ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ遞信大臣ニ提出スヘシ

一 協定ヲ爲シタル者ノ氏名又ハ名稱及其ノ住所又ハ主タル事務所所在地
 二 協定ノ内容
 三 其ノ他參考ト爲ルヘキ事項

第七條 給與ニ關スル協定ヲ變更又ハ廢止セントスル者ハ其ノ内容(變更ノ場合ニ在リテハ新舊對照ヲ附スヘシ)及事由ヲ記載シタル許可申請書ヲ遞信大臣ニ提出スヘシ

第八條 令第十條ノ規定ニ依ル給與ノ額其ノ他ノ條件ニ關スル遞信大臣ノ指定ハ告示シテ之ヲ爲ス

令第十條ノ規定ニ依ル特定ノ船舶所有者ニ對スル危險手當、遭難手當其ノ他ノ給與ノ支給ニ關スル命令ハ告知シ

テ之ヲ爲ス

第九條 令第十條第二項但書ノ規定ニ依ル許可ノ申請ニ付テハ第四條ノ規定ヲ準用ス

第十條 常時百人以上ノ船員ヲ使用スル船舶所有者ハ三月六月、九月及十二月ノ各月ニ支給シタル給與ノ報告書ヲ第一號書式ニ依リ各翌月末日迄ニ遞信大臣ニ提出スヘシ

第十一條 令第十二條第二項ノ證票ハ第二號書式ニ依ル

第十二條 第二條乃至第四條(第九條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル報告書及許可申請書ニハ左ノ事項ヲ附記スヘシ

一 會社ニ在リテハ資本金額及拂込資本金額
 二 航行區域別船舶ノ隻數及合計總噸數
 三 船員ノ職務別員數

第十三條 本令ニ依ル報告書及許可申請書ニシテ遞信大臣ニ提出スルモノハ各正副二通ヲ作成シ所轄遞信局長ヲ經由スヘシ但シ第十條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 令及本令中遞信大臣トアルハ沿海區域ヲ航行スル船舶ノ船員ノ給與ニ付テハ遞信局長トシ遞信大臣又ハ遞信局長トアルハ船員法第一條第一項各號ニ掲クル船舶ノ船員ノ給與ニ付テハ地方長官(東京府ニ於テハ警視總

監)トス但シ第十條及前條ノ場合並ニ二以上ノ遞信局ノ管轄區域又ハ府縣ニ亘ル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附 則

本令ハ船員給與統制令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式(用紙ノ大サハ日本標準規格B5)

本令施行ノ際既ニ船員給料臨時措置規則ニ基キ給料手當ノ準則又ハ内規ヲ報告シ又ハ其ノ許可ヲ受ケタルモノハ第二條ノ規定ニ依リ給與ノ準則ヲ報告シタルモノト看做ス

遞 信 大 臣 宛	資 本 金 額	給 與 支 給 報 告 書 ()		年 月 日	住 所	報 告 者 名
		年	月 分			
給 與 ノ 種 類	給 與 ノ 支 給 ヲ 受 ケ タ ル 船 員 數	高 級 船 員	給 與 額	拂 込 資 本 金 額	普 通 船 員	給 與 額
		普 通 船 員	給 與 額			
總 計		高 級 船 員	給 與 額		普 通 船 員	給 與 額
		普 通 船 員	給 與 額		合 計 額	備 考

記載心得

- 一 給與ノ種類欄ニハ給料、手當、賞與等ノ別ヲ記載スルコト
 - 二 現物給與ノ場合ニ於テハ金錢ニ換算シ其ノ金額ヲ備考欄ニ記載スルコト
- 第二號書式(用紙ノ大サハ日本標準規格B8)

第 號

官 氏 名

國家總動員法(船員關係)ニ基ク

當該官廳印
官 吏 臨 檢 證 票

(遞信局又ハ廳府縣)省

(裏)

國家總動員法第三十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

國家總動員法第四十二條 第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ檢査ヲ拒ミ妨ケ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

船員給與統制令第十條第一項ノ規定ニ依リ近海區域以上ノ區域ヲ航行スル船舶ノ船員ノ給與ニ關スル件

(昭和十五年十一月十一日 遞信省告示第三千二百八十三號)

船員給與統制令第十二條第一項ノ規定ニ依リ近海區域以上ノ區域ヲ航行スル船舶ノ船員ノ給與支給ノ報告方ニ關スル件

(昭和十五年十一月十四日 遞信省告示第三千二百八十四號)

一 賞與

船員ニ支給スル賞與ノ限度ハ左ノ金額ノ範圍内トス

高級船員 每賞與期限(一年間ニ於ケル賞與支給回数ニテ十二月ヲ除シテ得タル期間ト)ニ付其ノ期間ニ於テ高級船員ニ支給シタル基本給料ノ合計金額ノ四分ノ三ニ相當スル金額

普通船員 每賞與期間ニ付其ノ期間ニ於テ普通船員ニ支給シタル基本給料ノ合計金額ノ五分ノ二ニ相當スル金額

船員給與統制令第十條第一項ノ規定ニ依リ近海區域以上ノ區域ヲ航行スル船舶ノ船員ノ給與ニ關スル件・船員給與統制令第十二條第一項ノ規定ニ依リ近海區域以上ノ區域ヲ航行スル船舶ノ船員ノ給與支給ノ報告方ニ關スル件

六七六ノ一

一 船舶所有者ハ船員ニ對シ賞與ヲ支給シタルトキハ支給ノ日ヨリ一月以内ニ第一號書式ニ依ル報告書ヲ遞信大臣及所轄遞信局長ニ提出スベシ

二 協定ノ内容

三 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第七條 給與ニ關スル協定ヲ變更又ハ廢止セントスル者ハ

其ノ内容(變更ノ場合ニ在リテハ新舊對照ヲ附スベシ)

及事由ヲ記載シタル許可申請書ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

第八條 令第十條ノ規定ニ依ル給與ノ額其ノ他ノ條件ニ關

スル朝鮮總督ノ定ハ告示シテ之ヲ爲ス令第十條ノ規定ニ

依ル特定ノ船舶所有者ニ對スル危險手當、遭難手當其ノ

他ノ給與ノ支給ニ關スル定ハ告知シテ之ヲ爲ス

第九條 令第十條第二項但書ノ規定ニ依ル許可ノ申請ニ付

テハ第四條ノ規定ヲ準用ス

第十條 常時百人以上ノ船員ヲ使用スル船舶所有者ハ三

月、六月、九月及十二月ノ各月ニ支給シタル給與ノ報告

書ヲ第一號様式ニ依リ各翌月末日迄ニ朝鮮總督府遞信局

長ニ提出スベシ

第十一條 令第十二條第二項ノ證票ハ第二號様式ニ依ル

第十二條 第二號乃至第四條(第九條ノ規定ニ依リ準用ス

ル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル報告書及許可申請書ニハ左

ノ事項ヲ附記スベシ

一 會社ニ在リテハ資本金額及拂込資本金額

船員給與統制令施行規則

(昭和十五年十一月)
臺灣總督府令第五百五十九號

第一條 船舶所有者ノ所有船舶(借入船舶ヲ含ム)ノ合計

總噸數ガ五十噸未満ニシテ且其ノ船舶(漁船ニ在リテハ

總噸數五十噸以上ノ船舶)ガ五隻未満ナル場合ニハ船員給

與統制令(以下令ト稱ス)第三條乃至第五條ノ規定ハ之

ヲ適用セズ

第二條 令第三條第一項ノ規定ニ依ル給與ノ準則ノ報告ハ

本令施行後一月以内ニ臺灣總督ニ之ヲ爲スベシ

第三條 給與ノ準則ヲ定メ又ハ之ヲ變更若ハ廢止セントス

ル者ハ其ノ内容(變更ノ場合ニ在リテハ新舊對照ヲ附ス

ベシ)及事由ヲ記載シタル許可申請書ヲ臺灣總督ニ提出

スベシ

第四條 船員ノ全部若ハ一部ニ對シ給與ノ準則ニ依ラズシ

テ給與ヲ支給セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル許可

申請書ヲ臺灣總督ニ提出スベシ

一 支給セントスル給與ノ種類、額及率

二 支給ヲ受クル船員ノ職務別員數

船員給與統制令施行規則(臺灣)

二 航行區域別船舶ノ隻數及合計總噸數

三 船員ノ職務別員數

第十三條 令及本令ノ規定ニ依リ朝鮮總督ニ提出スベキ書

類ハ明治四十三年朝鮮總督府令第五號ノ規定ニ拘ラズ朝

鮮總督府遞信局長ヲ經由スベシ

第十四條 令及本令中朝鮮總督又ハ朝鮮總督府遞信局長ト

アルハ朝鮮船員令ニ於テ依ルコトヲ定メタル船員法第一

條第一項各號ニ掲グル船舶ノ船員ノ給與ニ付テハ道知事

トス但シ第十條及前條ノ場合並ニ二以上ノ道ニ互ル事項

ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際既ニ船員給料臨時措置規則ニ基キ給料手當ノ

内規ヲ報告シ又ハ其ノ許可ヲ受ケタルモノハ第二條ノ規定

ニ依リ給與ノ準則ヲ報告シタルモノト看做ス

(様式省略)

三 支給期

四 支給セントスル事由

五 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第五條 船員ノ箇箇ニ對シ給與ノ準則ニ依ラズシテ給與ヲ

支給セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ

交通局長ニ提出スベシ

一 船員ノ氏名及年齢

二 履歴及海技免狀其ノ他ノ資格證明書ノ種類

三 職務及雇入期間

四 乗組船舶ノ種類、名稱及總噸數

五 航行區域及就航航路(漁船ニ付テハ從業制限及漁業

ノ種類)

六 支給セントスル給與ノ種類、額及率

七 支給期

八 支給セントスル事由

九 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第六條 給與ニ關スル協定ヲ爲シ許可ヲ受ケントスル者ハ

協定ヲ爲シタル者ノ代表者名ヲ以テ左ノ事項ヲ記載シタ

ル申請書ヲ臺灣總督ニ提出スベシ

一 協定ヲ爲シタル者ノ氏名名稱及其ノ住所又ハ主タル

事務所所在地

二 協定ノ内容

三 其ノ他参考ト爲ルベキ事項

第七條 給與ニ關スル協定ヲ變更又ハ廢止セントスル者ハ其ノ内容(變更ノ場合ニ在リテハ新舊對照ヲ附スベシ)及事由ヲ記載シタル許可申請書ヲ臺灣總督ニ提出スベシ

第八條 令第十條第一項ノ規定ニ依ル給與ノ額其ノ他ノ條件ニ關スル定ハ臺灣總督告示シテ之ヲ爲ス但シ特定ノ船舶所有者ニ對スル危險手當、遭難手當其ノ他ノ給與ニ關スル定ハ告知シテ之ヲ爲ス

第九條 令第十條第二項但書ノ規定ニ依ル許可ノ申請ニ付テハ第四條ノ規定ヲ準用ス

第十條 常時三十人以上ノ船員ヲ使用スル船舶所有者ハ三月、六月、九月及十二月ノ各月ニ支給シタル給與ノ報告書ヲ別記第一號様式ニ依リ各翌月末日迄ニ臺灣總督ニ提出スベシ

第十一條 令第十二號第二項ノ證票ハ別記第二號様式ニ依ル

第十二條 第二條乃至第四條(第九條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル報告書及許可申請書ニハ左

船員給與統制令施行規則

(昭和十五年十一月) 樺太廳令第百十一號

第一條 船舶所有者ノ所有船舶(借入船舶ヲ含ム)ノ合計噸數ガ五十噸未満ニシテ且其ノ船舶(漁船ニ在リテハ總噸數五噸以上ノ船舶)ガ五隻未満ナル場合ニハ船員給與統制令(以下令ト稱ス)第三條乃至第五條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第二條 令第三條第一項ノ規定ニ依ル給與ノ準則ノ報告ハ本令施行後一月以内ニ樺太廳長官ニ之ヲ爲スベシ

第三條 給與ノ準則ヲ定メ又ハ之ヲ變更若ハ廢止セントスル者ハ其ノ内容(變更ノ場合ニ在リテハ新舊對照ヲ附スベシ)及事由ヲ記載シタル許可申請書ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

第四條 船員ノ全部若ハ一部ニ對シ給與ノ準則ニ依ラズシテ給與ヲ支給セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ
一 支給セントスル給與ノ種類、額及率
二 支給ヲ受タル船員ノ職務別員數

船員給與統制令施行規則(樺太)

ノ事項附記スベシ

一 會社ニ在リテハ資本金額及拂込資本金額
二 航行區域(漁船ニ付テハ從業制限)別船舶ノ隻數及合計總噸數

三 船員ノ職務別員數

第十三條 本令ニ依ル報告書及許可申請書ニシテ臺灣總督又ハ交通局總長ニ提出スルモノハ各正副二通ヲ作成シ所轄管海官廳ヲ經由スベシ

第十四條 令及本令ニ定ムル臺灣總督又ハ交通局總長ノ職權ハ船員法第一條第一項各號ニ掲グル船舶ノ船員ノ給與ニ付テハ州知事又ハ廳長之ヲ行フ但シ二以上ノ州廳ニ互ル事情ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際既ニ船員給料臨時措置規則ニ基キ給料手當ノ準則又ハ内規ヲ報告シ又ハ其ノ許可ヲ受ケタルモノハ第二條ノ規定ニ依リ給與ノ準則ヲ報告シタルモノト看做ス(別記様式省略)

三 支給期

四 支給セントスル事由

五 其ノ他参考ト爲ルベキ事項

第五條 船員ノ箇箇ニ對シ給與ノ準則ニ依ラズシテ給與ヲ支給セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ
一 船員ノ氏名及年齢
二 履歴及海技免狀其ノ他ノ資格證書ノ種類
三 職務及雇入期間
四 乗組船舶ノ種類、名稱及總噸數
五 航行區域及就航航路
六 支給セントスル給與ノ種類、額及率
七 支給期
八 支給セントスル事由
九 其ノ他参考ト爲ルベキ事項

第六條 給與ニ關スル協定ヲ爲シ許可ヲ受ケントスル者ハ協定ヲ爲シタル者ノ代表者名ヲ以テ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ
一 協定ヲ爲シタル者ノ氏名又ハ名稱及其ノ住所又ハ主
タル事務所所在地
二 協定ノ内容

六七六ノ七

三 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第七條 給與ニ關スル協定ヲ變更又ハ廢止セントスル者ハ其ノ内容(變更ノ場合ニ在リテハ新舊對照ヲ附スベシ)及事由ヲ記載シタル許可申請書ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

第八條 令第十條ノ規定ニ依ル給與ノ額其ノ他ノ條件ニ關スル樺太廳長官ノ指定ハ告示シテ之ヲ爲ス

令第十條ノ規定ニ依ル特定ノ船舶所有者ニ對スル危險手當遭難手當其ノ他ノ給與ノ支給ニ關スル命令ハ告示シテ之ヲ爲ス

第九條 令第十條第二項但書ノ規定ニ依ル許可ノ申請ニ付テハ第四條ノ規定ヲ準用ス

第十條 常時百人以上ノ船員ヲ使用スル船舶所有者ハ三月六月、九月及十二月ノ各月ニ支給シタル給與ノ報告書ヲ第一號様式ニ依リ各翌月末日迄ニ樺太廳長官ニ提出スベシ

第十一條 令第十二條第二項ノ證票ハ第二號様式ニ依ル

第十二條 第二條乃至第四條(第九條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル報告書及許可申請書ニハ左ノ事項ヲ附記スベシ

ルハ關東海務局長トシ道府縣トアルハ關東州地方費トス

附 則

本令ハ昭和十六年一月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

關東州船員給料臨時措置令ハ之ヲ廢止ス但シ本令施行前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ同日後ト雖モ仍其ノ効力ヲ有ス

- 一 會社ニ在リテハ資本金額及拂込資本金額
- 二 航行區域別船舶ノ隻數及合計總噸數
- 三 船員ノ職務別員數

附 則

本令ハ船員給與統制令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(様式省略)

關東州船員給與統制令

(昭和十六年一月 勅令第五十二號)

關東州國家總動員令ニ於テ依ルコトヲ定メタル國家總動員法第六條ノ規定ニ基ク船員ノ給與ニ關スル命令及同法第十一條ノ規定ニ基ク會社ノ經理ニ關スル命令中船員ノ給與ニ關スルモノニ付テハ船員給與統制令ニ依ル但シ同令第十六條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラズ

船員給與統制令中國家總動員法(昭和十三年勅令第三百十七號ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ)又ハ國家總動員法トアルハ關東州國家總動員令ニ於テ依ルコトヲ定メタル國家總動員法トシ通信大臣トアルハ滿州國駐劄特命全權大使トシ通信局長又ハ地方長官(東京府ニ於テハ警視總監)トア

總噸數ガ五十噸未滿ニシテ且其ノ船舶(漁船ニ在リテハ總噸數五噸以上ノ船舶)ガ五隻未滿ナル場合ニハ船員給與統制令(以下令ト稱ス)第三條乃至第五條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第二條 令第三條第一項ノ規定ニ依ル給與ノ準則ノ報告ハ本令施行後二月以内ニ南洋廳長官ニ之ヲ爲スベシ

第三條 給與ノ準則ヲ定メ又ハ之ヲ變更若ハ廢止セントスル者ハ其ノ内容(變更ノ場合ニ在リテハ新舊對照ヲ附スベシ)及事由ヲ記載シタル許可申請書ヲ南洋廳長官ニ提出スベシ

第四條 船員ノ全部若ハ一部ニ對シ給與ノ準則ニ依ラズシテ給與ヲ支給セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ南洋廳長官ニ提出スベシ

- 一 支給セントスル給與ノ種類、額及率
- 二 支給ヲ受クル船員ノ職務別員數
- 三 支給期
- 四 支給セントスル事由

第五條 船員ノ箇箇ニ對シ給與ノ準則ニ依ラズシテ給與ヲ支給セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ

船員給與統制令施行規則

(昭和十五年十一月 南洋廳令第三十五號)

第一條 船舶所有者ノ所有船舶(借入船舶ヲ含ム)ノ合計

關東州船員給與統制令・船員給與統制令施行規則(南洋)

南洋廳長官ニ提出スベシ

- 一 船員ノ氏名及年齢
- 二 履歴及海技免狀其ノ他ノ資格證明書ノ種類
- 三 職務及雇入期間
- 四 乗組船舶ノ種類、名稱及總噸數
- 五 航行區域及就航航路
- 六 支給セントスル給與ノ種類、額及率
- 七 支給期
- 八 支給セントスル事由
- 九 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第六條 給與ニ關スル協定ヲ爲シ許可ヲ受ケントスル者ハ

- 一 協定ヲ爲シタル者ノ代表者名ヲ以テ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ南洋廳長官ニ提出スベシ
- 二 協定ノ内容
- 三 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第七條 給與ニ關スル協定ヲ變更又ハ廢止セントスル者ハ

其ノ内容(變更ノ場合ニ在リテハ新舊對照ヲ附スベシ)及事由ヲ記載シタル許可申請書ヲ南洋廳長官ニ提出スベシ

第九章 船舶運航技能者養成

船舶運航技能者養成令

(昭和十四年十一月 勅令第七百八十號)

第一條 國家總動員法第二十二條ノ規定ニ基ク船舶ノ運航ニ從事スヘキ技能者ノ養成ハ學校技能者養成令ニ依ルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 遞信大臣ハ船舶運航技能者養成施設ノ管理者又ハ船舶所有者若ハ船舶運航業者ニ對シ技能ノ種類及養成セラルヘキ者ノ員數ヲ定メ技能者ノ養成ヲ命スルコトヲ得 遞信大臣ハ前項ノ規定ニ依ル命令ヲ受ケタル者ニ對シ養成ノ爲必要ナル施設ヲ命スルコトヲ得

第三條 前條ノ規定ニ依リ養成セラルヘキ者ハ命令ノ定ムル資格ヲ具フル者ナルコトヲ要ス 養成期間及養成方法ハ技能ノ種類及養成セラルヘキ者ノ履歴ニ應シ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 第二條第一項ノ規定ニ依リ技能者ノ養成ヲ命セラ 船舶運航技能者養成令

第八條 令第十條ノ規定ニ依ル給與ノ額其ノ他ノ條件ニ關スル南洋廳長官ノ指定ハ告示シテ之ヲ爲ス 令第十條ノ規定ニ依ル特定ノ船舶所有者ニ對スル危險手當、遭難手當其ノ他ノ給與ノ支給ニ關スル命令ハ告知シテ之ヲ爲ス

第九條 令第十條第二項但書ノ規定ニ依ル許可ノ申請ニ付テハ第四條ノ規定ヲ準用ス

第十條 常時百人以上ノ船員ヲ使用スル船舶所有者ハ三月六月、九月及十二月ノ各月ニ支給シタル給與ノ報告書ヲ第一號様式ニ依リ各翌月末日迄ニ南洋廳長官ニ提出スベシ

第十一條 令第十二條第二項ノ證票ハ第二號様式ニ依ル

第十二條 第二條乃至第四條(第九條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル報告書及許可申請書ニハ左ノ事項ヲ附記スベシ
一 會社ニ在リテハ資本金額及拂込資本金額
二 航行區域別船舶ノ隻數及合計總噸數
三 船員ノ職務別員數

附 則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス (様式省略)

レタル者ハ養成計畫ヲ定メ遞信局長ノ認可ヲ受クヘシ其ノ計畫ヲ變更セントスルトキ亦同シ 遞信局長必要アリト認ムルトキハ養成計畫ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第五條 第二條第一項ノ規定ニ依リ技能者ノ養成ヲ命セラレタル船舶所有者又ハ船舶運航業者ハ養成セラルヘキ者ヲシテ授業料其ノ他養成ノ爲必要ナル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得ス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ遞信局長ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 遞信局長ハ船舶運航技能者養成施設ノ管理者ニ對シ左ニ掲クル事項ニ關シ必要ナル變更ヲ命スルコトヲ得
一 講習ノ科目及時間
二 養成スヘキ技能ノ種類及養成セラルヘキ者ノ員數
三 養成セラルヘキ者ノ資格
四 養成期間

第七條 遞信局長ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ 其ノ他養成ニ關シ必要ナル事項

船舶運航技能者養成施設ノ管理者又ハ船舶所有者若ハ船舶運航業者ヨリ技能者ノ養成ニ關シ必要ナル報告ヲ徵スルコトヲ得

第八條 逕信局長ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ當該官吏ヲシテ船舶運航技能者養成施設ニ又ハ第二條第一項ノ規定ニ依リ技能者ノ養成ヲ命セラレタル船舶所有者若ハ船舶運航業者ノ事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢セシメ技能者ノ養成ノ狀況又ハ之ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ヲシテ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムヘシ

第九條 逕信大臣ハ其ノ定ムル所ニ依リ本令ニ依ル命令ヲ受ケタル者ニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付ス逕信大臣ハ本令ニ依ル技能者養成ニ因リ損失ヲ生シタル場合ニ於テハ通常生スヘキ損失ヲ補償ス損失ノ補償ヲ請求セントスル者ハ養成期間ノ終了後之ヲ請求スヘシ但シ逕信大臣ノ定ムル所ニ依リ別段ノ時期ニ之ヲ請求スルコトヲ得

第十條 本令ハ農林大臣ヨリ漁船運航技能者養成ノ爲補助金其ノ他ノ交付金ヲ受クル公共團體其ノ他ノ營利ヲ目的トセサル法人ニ對シ專ラ漁船ニ乗組ムヘキ船舶運航技能

船舶運航技能者養成令施行規則

(昭和十四年十一月 逕信省令第五十五號)

第一條 船舶運航技能者養成令(以下養成令ト稱ス)第一條ニ於テ船舶ノ運航ニ從事スヘキ技能者トハ船舶ニ乗組ミ船舶ノ運航、機關ノ運轉又ハ無線電信若ハ無線電話ノ通信ニ從事スル者ヲ謂フ

第二條 養成令第三條第一項ニ規定スル資格ヲ具フル者ハ養成終了ノ際ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル資格ヲ有シ其ノ體格カ船員トシテノ職務ニ適スト認メラルル者トス
一 技能ノ種類カ海技免狀ノ受有ヲ必要トスル場合ハ船舶職員試驗規程ニ依リ試驗ヲ受クルニ必要ナル資格
二 技能ノ種類カ無線通信士資格檢定合格證書ノ受有ヲ必要トスル場合ハ無線通信士資格檢定規則ニ依リ檢定ヲ受クルニ必要ナル資格
三 前二號ニ掲クル以外ノ場合ハ船員法第四條ノ規定ニ

船舶運航技能者養成令施行規則

者ノ養成ヲ命スルコトニ關シテハ之ヲ適用セス

第十一條 逕信大臣カ漁業者タル漁船所有者ニ對シ第二條ノ命令ヲ爲サントスル場合及前條ノ公共團體其ノ他ノ法人ニ對シ前條ニ掲グル以外ノ船舶運航技能者ノ養成又ハ養成施設ニ關シ第二條ノ命令ヲ爲サントスル場合ニハ豫メ農林大臣ニ議スヘシ

第十二條 本令中逕信大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋羣島ニ在リテハ南洋廳長官トシ逕信局長トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督府逕信局長、臺灣ニ在リテハ臺灣總督府交通局長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋羣島ニ在リテハ南洋廳長官トス

附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

基キ船員トシテ又ハ石炭夫若ハ火夫トシテ使用スルコトヲ得ル年齡

第三條 養成令第三條第二項ニ規定スル養成期間ハ別表ニ依ル

第四條 船舶運航技能者ノ養成ヲ命セラレタル者ハ逕信大臣ヨリ他ノ船舶運航技能者養成施設ニ委託シテ養成ヲ爲スヘキコトヲ命セラレタル場合ヲ除クノ外自己ノ養成施設ニ於テ養成ヲ爲スヘシ但シ船舶所有者又ハ船舶運航業者ハ逕信大臣ノ指定スル船舶運航技能者養成施設ニ委託シテ養成ヲ爲スコトヲ得

第五條 船舶所有者又ハ船舶運航業者養成令第四條第一項ノ規定ニ依リ養成計畫ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ養成ニ關スル事務ヲ行フ事務所ノ所在地ヲ管轄スル逕信局長ニ提出スヘシ
一 養成施設ノ名稱及位置
二 教室、實習設備、教授用備品其ノ他養成ニ關スル設備ノ概要
三 養成スヘキ技能ノ種類及養成セラルヘキ者ノ員數
四 養成セラルヘキ者ノ資格及銓衡方法
五 養成期間及養成開始ノ豫定年月日

六 講習ノ科目及時間
 七 講師ノ氏名及履歴
 八 養成ニ關スル規則
 九 養成ニ關シ養成セラルヘキ者ト爲ス契約ノ内容
 十 養成ニ要スル經費ノ概算
 十一 其ノ他參考ト爲ルヘキ事項
 前項第二號及第六號乃至第八號ニ掲クル事項ハ前條ノ規定ニ依リ委託養成ヲ爲ス場合ニ於テハ之ヲ記載スルコトヲ要セス

第六條 船舶運航技能者養成施設ノ管理者養成令第四條第一項ノ規定ニ依リ養成計畫ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル申請書ヲ養成施設ノ所在地ヲ管轄スル遞信局長ニ提出スヘシ

一 前條第一項第一號乃至第八號ニ掲クル事項
 二 養成ニ關スル收支概算(内譯ニ養成令第二條ノ規定ニ依ル養成ニ關スル收支概算ト其ノ他ノモノトノ區別ヲ明カナラシムルコト)
 三 其ノ他參考ト爲ルヘキ事項

第七條 船舶運航技能者養成施設ノ管理者又ハ船舶所有者若ハ船舶運航業者養成令第四條第一項ニ規定スル養成計畫

書變更ノ認可ヲ受ケントスルトキハ變更セントスル事項及事由ヲ記載シタル申請書ヲ所轄遞信局長ニ提出スヘシ

第八條 船舶所有者又ハ船舶運航業者養成令第五條但書ノ許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル申請書ヲ養成ニ關スル事務ヲ行フ事務所ノ所在地ヲ管轄スル遞信局長ニ提出スヘシ

一 養成施設ノ名稱及位置
 二 負擔セシメントスル費用ノ種目
 三 費用ヲ負擔セシメントスル事由
 四 其ノ他參考ト爲ルヘキ事項

第九條 船舶運航技能者ノ養成ヲ命セラレタル者養成ヲ終了シタルトキハ其ノ都度養成令第七條ノ規定ニ基キ養成ニ關スル概況ヲ遲滞ナク所轄遞信局長ニ報告スヘシ

第十條 養成令第八條ノ證票ハ別記様式ニ依ル

附 則
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別表

技能ノ種類	養成期間
甲種船長、汽船甲種船長、漁船甲種船長、漁汽船甲種船長、甲種一等運轉士、汽船甲種一等運轉士、漁船甲種一等運轉士、汽船甲種二等運轉士、漁汽船甲種二等運轉士、漁船甲種二等運轉士、汽船甲種二等運轉士、漁船甲種二等運轉士	一年以上
乙種船長	八月以上
乙種一等運轉士又ハ漁船乙種一等運轉士	四月以上
乙種二等運轉士又ハ丙種運轉士	六月以上
沿岸乙種二等運轉士、湖川港乙種二等運轉士又ハ沿岸丙種運轉士	二月以上
小形船乙種二等運轉士又ハ小形船丙種運轉士	一月以上
機關長、發動機船機關長、一等機關士、發動機船一等機關士、二等機關士又ハ發動機船二等機關士	三週間以上
機關士	一年以上

船舶運航技能者養成令施行規則

近海汽船二等機關士又ハ近海發動機船二等機關士	汽船三等機關士免狀(發動機船三等機關士免狀)以上ノ航狀(航洋發動機船)ニシテ六月以上乗組ミ機關長又ハ汽船(航洋)ノ職ヲ執リタル者	四月以上
三等機關士、汽船三等機關士又ハ發動機船三等機關士	右ニ該當セサル者	六月以上
湖川港汽船三等機關士又ハ沿岸發動機船三等機關士	湖川港汽船三等機關士免狀(沿岸發動機船三等機關士免狀)ヲ受シ公稱馬力五十馬力以上ノ汽船(發動機船)ニ三月以上乗組ミ機關長ノ職ヲ執リタル者	一月以上
小形發動機船三等機關士	右ニ該當セサル者	二月以上
第一級無線通信士	無線通信士資格檢定規則第三條ニ依リ第一級ノ詮衡檢定申請資格ヲ有スル者	一月以上
第二級無線通信士	無線通信士資格檢定規則第三條ニ依リ第二級ノ詮衡檢定申請資格ヲ有スル者	三週間以上
第三級無線通信士	無線通信士資格檢定規則第三條ニ依リ第三級ノ詮衡檢定申請資格ヲ有スル者又ハ聽守員級資格ヲ有スル者	六月以上
電話級無線通信士	高等小學校卒業程度ノ學力ヲ有スル者	二年以上
聽守員級無線通信士	高等小學校卒業程度ノ學力ヲ有スル者	六月以上
其ノ他ノモノ	三月ノ範圍内ニ於テ遞信大臣ノ定ムル所ニ依ル	一年以上

(別記様式)
(豎八・五種)
(横六)

第 號	官 氏 名
船 舶 運 航 技 能 者 養 成 二 關 ス ル 臨 檢 證 票	遞 信 省
遞 信 省 印	

船舶運航技能者養成令施行規則

國家總動員法第三十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

船舶運航技能者養成令第八條 遞信局長ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ當該官吏ヲシテ船舶運航技能者養成施設ニ又ハ第二條第一項ノ規定ニ依リ技能者ノ養成ヲ命セラレタル船舶所有者若ハ船舶運航業者ノ事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢セシメ技能者ノ養成ノ狀況又ハ之ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ヲシテ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムヘシ

國家總動員法第四十二條 第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ檢査ヲ拒ミ、妨ケ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

(裏)

船舶運航技能者養成令施行規則

(昭和十五年三月 朝鮮總督府令第二十五號)

- 第一條** 船舶運航技能者養成令(以下單ニ養成令ト稱ス)
- 第一條ニ於テ船舶ノ運航ニ從事スベキ技能者トハ船舶ニ乗組ミ船舶ノ運航、機關ノ運轉又ハ無線電信若ハ無線電話ノ通信ニ從事スル者ヲ謂フ
- 第二條** 養成令第三條第一項ニ規定スル資格ヲ具フル者ハ養成終了ノ際ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル資格ヲ有シ其ノ體格ガ船員トシテノ職務ニ適スト認メラルル者トス
- 一 技能ノ種類ガ海技免狀ノ受有ヲ必要トスル場合ハ朝鮮船舶職員試驗規則ニ依リ試驗ヲ受クルニ必要ナル資格
- 二 技能ノ種類ガ無線通信士資格檢定合格證書ノ受有ヲ必要トスル場合ハ無線通信士資格檢定規則ニ依リ檢定ヲ受クルニ必要ナル資格
- 三 前二號ニ掲グル以外ノ場合ハ朝鮮船員令ニ於テ依ルコトヲ定メタル船員法第四條ノ規定ニ基キ船員又ハ石

船舶運航技能者養成令施行規則(朝鮮)

炭夫若ハ火夫トシテ使用スルコトヲ得ル年齡

- 第三條** 養成令第三條第二項ノ養成期間ハ別表ニ依ル
- 第四條** 船舶運航技能者ノ養成ヲ命セラレタル者ハ朝鮮總督ヨリ他ノ船舶運航技能者養成施設ニ委託シテ養成ヲ爲スベキコトヲ命セラレタル場合ヲ除クノ外自己ノ養成施設ニ依リ養成ヲ爲スベシ但シ船舶所有者又ハ船舶運航業者ハ朝鮮總督ノ指定スル船舶運航技能者養成施設ニ委託シテ養成スルコトヲ得
- 第五條** 船舶所有者又ハ船舶運航業者養成令第四條第一項ノ規定ニ依リ養成計畫ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ朝鮮總督府遞信局長(以下單ニ遞信局長ト稱ス)ニ提出スベシ
- 一 養成施設ノ名稱及位置
- 二 教室、實習設備、教授用備品其ノ他養成ニ關スル設備ノ概要
- 三 養成スベキ技能ノ種類及養成セラレベキ者ノ員數
- 四 養成セラレベキ者ノ資格及詮衡方法
- 五 養成期間及養成開始ノ豫定年月日
- 六 講習ノ科目及時間
- 七 講師ノ氏名及履歷

- 八 養成ニ關スル規則
 - 九 養成ニ關シ養成セラルベキ者ト爲ス契約ノ内容
 - 十 養成ニ要スル經費ノ概算
 - 十一 其ノ他參考ト爲ルベキ事項
- 前項第二號及第六號乃至第八號ニ掲グル事項ハ前條ノ規定ニ依リ委託養成ヲ爲ス場合ニ於テハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第六條 船舶運航技能者養成施設ノ管理者養成令第四條第一項ノ規定ニ依リ養成計畫ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ逓信局長ニ提出スベシ

- 一 前條第一項第一號乃至第八號ニ掲グル事項
- 二 養成ニ關スル收支概算（内譯ニ養成令第二條ノ規定ニ依ル養成ニ關スル收支概算ト其ノ他ノモノトノ區別ヲ明カナラシムルコト）
- 三 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第七條 船舶運航技能者養成施設ノ管理者又ハ船舶所有者若ハ船舶運航業者養成令第四條第一項ニ規定スル養成計畫變更ノ認可ヲ受ケントスルトキハ變更セントスル事項及事由ヲ記載シタル申請書ヲ逓信局長ニ提出スベシ

條ニ於テ船舶ノ運航ニ從事スベキ技能者トハ船舶ニ乗組ミ船舶ノ運航、機關ノ運轉又ハ無線電信若ハ無線電話ノ通信ニ從事スル者ヲ謂フ

第二條 養成令第三條第一項ニ規定スル資格ヲ具フル者ハ養成終了ノ際ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル資格ヲ有シ其ノ體格ガ船員トシテ職務ニ適スト認メラル者トス

- 一 技能ノ種類ガ海技免狀ノ受有ヲ必要トスル場合ハ船舶職員試驗規程ニ依リ試験ヲ受クルニ必要ナル資格
- 二 技能ノ種類ガ無線通信上資格檢定合格證書ノ受有ヲ必要トスル場合ハ無線通信士資格檢定規則ニ依リ檢定ヲ受クルニ必要ナル資格
- 三 前二號ニ掲グル以外ノ場合ハ船員法第四條ノ規定ニ基キ船員トシテ又ハ石炭夫若ハ火夫トシテ使用スルコトヲ得ル年齢

第三條 養成令第三條第二項ニ規定スル養成期間ハ別表ニ依ル

第四條 船舶運航技能者ノ養成ヲ命ゼラレタル者ハ臺灣總督ヨリ他ノ船舶運航技能者養成施設ニ委託シテ養成ヲ爲スベキコトヲ命ゼラレタル場合ヲ除クノ外自己ノ養成施設ニ於テ養成ヲ爲スベシ但シ船舶所有者又ハ船舶運航業者

船舶運航技能者養成令施行規則（臺灣）

第八條 船舶所有者又ハ船舶運航業者養成令第五條但書ノ許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ逓信局長ニ提出スベシ

- 一 養成施設ノ名稱及位置
- 二 負擔セシメントスル費用ノ種目
- 三 費用ヲ負擔セシメントスル事由
- 四 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第九條 船舶運航技能者ノ養成ヲ命ゼラレタル者養成ヲ終了シタルトキハ其ノ都度養成令第七條ノ規定ニ基キ養成ニ關スル概況ヲ遲滞ナク逓信局長ニ報告スベシ

第十條 養成令第八條ノ證票ハ別記様式ニ依ル

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（別表等省略）

船舶運航技能者養成令施行規則

（昭和十四年十二月）
臺灣總督府令第三百三十六號

第一條 船舶運航技能者養成令（以下養成令ト稱ス）第一

者ハ臺灣總督ノ指定スル船舶運航技能者養成施設ニ委託シテ養成ヲ爲スコトヲ得

第五條 船舶所有者又ハ船舶運航業者養成令第四條第一項ノ規定ニ依リ養成計畫ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ交通部總長ニ提出スベシ

- 一 養成施設ノ名稱及位置
 - 二 教室、實習設備、教授用備品其ノ他養成ニ關スル設備ノ概要
 - 三 養成スベキ技能ノ種類及養成セラルベキ者ノ員數
 - 四 養成セラルベキ者ノ資格及檢定方法
 - 五 養成期間及養成開始ノ豫定年月日
 - 六 講習ノ科目及時間
 - 七 講師ノ氏名及履歷
 - 八 養成ニ關スル規則
 - 九 養成ニ關シ養成セラルベキ者ト爲ス契約ノ内容
 - 十 養成ニ要スル經費ノ概算
 - 十一 其ノ他參考ト爲ルベキ事項
- 前項第二號及第六號乃至第八號ニ掲グル事項ハ前條ノ規定ニ依リ委託養成ヲ爲ス場合ニ於テハ之ヲ記載スルコト

ヲ要セズ

第六條 船舶運航技能者養成施設ノ管理者養成令第四條第

一項ノ規定ニ依リ養成計畫ノ認可ヲ受ケントスルトキハ
左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ交通局總長ニ提出
スベシ

一 前條第一項第一號乃至第八號ニ掲グル事項

二 養成ニ關スル收支概算(内譯ニ養成令第二條ノ規定

ニ依ル養成ニ關スル收支概算ト其ノ他ノモノトノ區別

ヲ明ナラシムルコト)

三 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第七條 船舶運航技能者養成施設ノ管理者又ハ船舶所有者

若ハ船舶運航業者養成令第四條第一項ニ規定スル養成計
畫變更ノ認可ヲ受ケントスルトキハ變更セントスル事項
及事由ヲ記載シタル申請書ヲ交通局總長ニ提出スベシ

第八條 船舶所有者又ハ船舶運航業者養成令第五條但書ノ

許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル
申請書ヲ交通局總長ニ提出スベシ

一 養成施設ノ名稱及位置

二 負擔セシメントスル費用ノ種目

三 費用ヲ負擔セシメントスル事由

四 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第九條 船舶運航技能者ノ養成ヲ命ゼラレタル者養成ヲ終

了シタルトキハ其ノ都度養成令第七條ノ規定ニ基キ養成
ニ關スル概況ヲ遲滞ナク交通局總長ニ提出スベシ

第十條 養成令第八條ノ證票ハ別記様式ニ依ル

附 則
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(別記様式省略)

船舶運航技能者養成令施行規則

(昭和十五年三月
樺太廳令第十九號)

第一條 船舶運航技能者養成令(以下養成令ト稱ス)第一

條ニ於テ船舶ノ運航ニ從事スベキ技能者トハ船舶ニ乘組

ミ船舶ノ運航、機關ノ運轉又ハ無線電信若ハ無線電話ノ

通信ニ從事スル者ヲ謂フ

第二條 養成令第三條第一項ニ規定スル資格ヲ具フル者ハ

養成終了ノ際ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル資格ヲ有シ其ノ

體格ガ船員トシテノ職務ニ適スト認メラレタル者トス

一 技能ノ種類ガ海技免狀ノ受有ヲ必要トスル場合ハ遞
信省令船舶職員試驗規程ニ依リ試驗ヲ受クルニ必要ナ
ル資格

二 技能ノ種類ガ無線通信士資格檢定合格證書ノ受有ヲ
必要トスル場合ハ遞信省令無線通信士資格檢定規則ニ
依リ檢定ヲ受クルニ必要ナル資格

三 前二號ニ掲グル以外ノ場合ハ船員法第四條ノ規定ニ
基キ船員トシテ又ハ石炭夫若ハ火夫トシテ使用スルコ
トヲ得ル年齢

第三條 養成令第三條第二項ニ規定スル養成期間ハ別表ニ
依ル

第四條 船舶運航技能者ノ養成ヲ命ゼラレタル者ハ樺太廳
長官ノ指定スル船舶運航技能者養成施設ニ委託シテ養成
ヲ爲スベシ

第五條 船舶運航技能者ノ養成ヲ命ゼラレタル者前條ノ規
定ニ依リ養成ヲ爲サントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記
載シタル申請書ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

一 養成施設ノ名稱及位置
二 養成スベキ技能ノ種類及養成セララルベキ者ノ員數

船舶運航技能者養成令施行規則(樺太)

三 養成セララルベキ者ノ資格及詮衡方法

四 養成期間及養成開始ノ豫定年月日

五 養成ニ關シ養成セララルベキ者ト爲ス契約ノ内容

六 養成ニ要スル經費ノ概算

七 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

前項ノ事項ヲ變更セントスルトキハ變更セントスル事項
及事由ヲ記載シタル申請書ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

第六條 船舶運航技能者ノ養成ヲ命ゼラレタル者養成令第

五條但書ノ許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ

記載シタル申請書ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ

一 養成施設ノ名稱及位置

二 負擔セシメントスル費用ノ種目

三 費用ヲ負擔セシメントスル事由

四 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第七條 船舶運航技能者ノ養成ヲ命ゼラレタル者養成ヲ終

了シタルトキハ其ノ都度養成令第七條ノ規定ニ基キ養成

ニ關スル概況ヲ遲滞ナク樺太廳長官ニ報告スベシ

第八條 養成令第八條ノ證票ハ別記様式ニ依ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス(別表等省略)

船舶運航技能者養成令施行規則

(昭和十五年四月
南洋廳令第十四號)

第一條 船舶運航技能者養成令(以下養成令ト稱ス)第一條ニ於テ船舶ノ運航ニ從事スベキ技能者トハ船舶ニ乗組ミ船舶ノ運航、機關ノ運轉又ハ無線電信若ハ無線電話ノ通信ニ從事スル者ヲ謂フ

第二條 養成令第三條第一項ニ規定スル資格ヲ具フル者ハ養成終了ノ際ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル資格ヲ有シ其ノ體格ガ船員トシテノ職務ニ適スト認メラルル者トス

- 一 技能ノ種類ガ海技免狀ノ受有ヲ必要トスル場合ハ船舶職員試驗規程ニ依リ試驗ヲ受クルニ必要ナル資格
- 二 技能ノ種類ガ無線通信士資格檢定合格證書ノ受有ヲ必要トスル場合ハ無線通信士資格檢定規則ニ依リ檢定ヲ受クルニ必要ナル資格
- 三 前二號ニ掲グル以外ノ場合ハ船員法第四條ノ規定ニ基キ船員トシテ又ハ石炭夫若ハ火夫トシテ使用スルコトヲ得ル年齢

八 養成ニ關スル規則

九 養成ニ關シ養成セラルベキ者ト爲ス契約ノ内容

十 養成ニ要スル經費ノ概算

十一 其ノ他參考トナルベキ事項

前項第二號及第六號乃至第八號ニ掲グル事項ハ前條ノ規定ニ依リ委託養成ヲ爲ス場合ニ於テハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第六條 船舶運航技能者養成施設ノ管理者養成令第四條第一項ノ規定ニ依リ養成計畫ノ認可ヲ受ケントスルトキハ

左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ南洋廳長官ニ提出スベシ

- 一 前條第一項第一號乃至第八號ニ掲グル事項
- 二 養成ニ關スル收支概算(内譯ニ養成令第二條ノ規定ニ依ル養成ニ關スル收支概算ト其ノモノトノ區別ヲ明カナラシムルコト)
- 三 其ノ他參考トナルベキ事項

第七條 船舶運航技能者養成施設ノ管理者又ハ船舶所有者

若ハ船舶運航業者養成令第四條第一項ニ規定スル養成計畫變更ノ認可ヲ受ケントスルトキハ變更セントスル事項及事由ヲ記載シタル申請書ヲ南洋廳長官ニ提出スベシ

船舶運航技能者養成令施行規則(南洋)

第三條 養成令第三條第二項ニ規定スル養成期間ハ別表ニ依ル

第四條 船舶運航技能者ノ養成ヲ命ゼラレタル者ハ南洋廳長官ヨリ他ノ船舶運航技能者養成施設ニ委託シテ養成ヲ爲スベキコトヲ命ゼラレタル場合ヲ除クノ外自己ノ養成施設ニ於テ養成ヲ爲スベシ但シ船舶所有者又ハ船舶運航業者ハ南洋廳長官ノ指定スル船舶運航技能者養成施設ニ委託シテ養成ヲ爲スコトヲ得

第五條 船舶所有者又ハ船舶運航業者養成令第四條第一項ノ規定ニ依リ養成計畫ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ南洋廳長官ニ提出スベシ

- 一 養成施設ノ名稱及位置
- 二 教室、實習設備、教授用備品其ノ他養成ニ關スル設備ノ概要
- 三 養成スベキ技能ノ種類及養成セラルベキ者ノ員數
- 四 養成セラルベキ者ノ資格及證衡方法
- 五 養成期間及養成開始ノ豫定年月日
- 六 講習ノ科目及時間
- 七 講師ノ氏名及履歷

第八條 船舶所有者又ハ船舶運航業者養成令第五條但書ノ許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ南洋廳長官ニ提出スベシ

- 一 養成施設ノ名稱及位置
- 二 負擔セシメントスル費用ノ種目
- 三 費用ヲ負擔セシメントスル事由
- 四 其ノ他參考トナルベキ事項

第九條 船舶運航技能者ノ養成ヲ命ゼラレタル者養成ヲ終了シタルトキハ其ノ都度養成令第七條ノ規定ニ基キ養成ニ關スル概況ヲ遲滞ナク南洋廳長官ニ報告スベシ

第十條 養成令第八條ノ證票ハ別記様式ニ依ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別表等省略)

第十章 船員使用等統制

船員使用等統制令

(昭和十五年十一月
勅令第七百四十九號)

第一條 國家總動員法(昭和十三年勅令第三百十七號)於
テ依ル場合ヲ含ム以下同シ)第六條ノ規定ニ基ク船員ノ
使用、雇入及解雇ニ關スル命令ハ本令ノ定ムル所ニ依ル
第二條 遞信大臣必要アリト認ムルトキハ船舶所有者ニ對
シ命令ノ定ムル船舶ノ乗組員數ニ付必要ナル命令ヲ爲ス
コトヲ得
第三條 遞信大臣必要アリト認ムルトキハ船舶所有者又ハ
其ノ組合其ノ他之ニ準スルモノニ對シ豫備員タル船員ノ
保有ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
第四條 遞信大臣必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所
ニ依リ船舶所有者又ハ其ノ組合其ノ他之ニ準スルモノニ
對シ其ノ雇傭スル船員ヲ期間ヲ限リテ他ノ船舶所有者ヲ
シテ使用セシムヘキコトヲ命スルコトヲ得

船員使用等統制令

前項ノ命令ニ依リ船員ヲ使用セシムル場合ニ於テハ之ニ
伴フ費用ノ負擔其ノ他必要ナル事項ニ關シ當事者タル船
舶所有者又ハ其ノ組合其ノ他之ニ準スルモノニ於テ協議
スヘシ協議調ハス又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ遞
信大臣ノ裁定スル所ニ依ルヘシ
第一項ノ船員ニ對スル給與ハ當該船員ヲ使用スル船舶所
有者從前ノ給與ヲ斟酌シテ之ヲ支給スルモノトス
第五條 何人ト雖モ船舶所有者又ハ其ノ組合其ノ他之ニ準
スルモノニ雇傭セララルル船員ニシテ遞信大臣ノ指定スル
モノニ對シ船員以外ノ者トシテ雇傭セララルルコトヲ勸誘
シ又ハ他人ヲシテ勸誘セシムルコトヲ得ス
第六條 遞信局長必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ違
反シ船員ヲ雇傭シタル者ニ對シ其ノ者ノ解雇ヲ命スルコ
トヲ得
第七條 遞信大臣船員ノ移動ヲ防止スル爲必要アリト認ム
ルトキハ船舶所有者ニ對シ船員ノ雇入又ハ解雇ノ制限ニ
關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

六八五

第八條 遞信大臣ノ指定スル船員養成施設ニ於テ本令施行後其ノ課程ヲ修了スル者ヲ雇傭契約ニ基キ使用セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ使用員數ニ付遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依ル認可ノ申請ニ付不正又ハ虚偽ノ事實アリト認ムルトキハ認可ヲ取消スコトヲ得

第十條 遞信大臣必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ船員ノ使用、雇入及解雇ニ關シ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ船舶、事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムヘシ

第十一條 本令ハ國又ハ道府縣ニハ之ヲ適用セス

第十二條 本令及本令ニ基キテ發スル命令中船舶所有者ニ關スル規定ハ船舶共有ノ場合ニ在リテ船舶管理人ヲ置キタルトキハ船舶管理人ニ、船舶貸借ノ場合ニ在リテハ船舶借入人ニ之ヲ適用ス

第十三條 遞信大臣ハ本令ノ定ムル職權ノ一部ヲ遞信局長

爲ス

第三條 令第四條第一項ノ命令ニ依リ船員ヲ使用セシムル場合ニ於テハ當事者タル船舶所有者又ハ其ノ組合其ノ他之三準スルモノハ當該船員ノ處遇ニ關シ從來ノ利益ヲ害スルコトヲ得ス

第四條 令第四條第一項ノ命令アリタル場合ニ於テ使用セシムヘキ船員決定シタルトキ又ハ同條第二項ノ規定スル協議調ヒタルトキハ當事者タル船舶所有者又ハ其ノ組合其ノ他之三準スルモノ連署ノ上遲滞ナク第一號書式ニ依リ報告書又ハ契約書ノ際本ヲ遞信大臣及所轄遞信局長ニ提出スヘシ

第五條 令第四條第二項ノ裁定ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ副本二通ヲ添へ所轄遞信局長ヲ經由シテ遞信大臣ニ之ヲ提出スヘシ
遞信大臣前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ副本ヲ申請者ノ相手方ニ送付シ其ノ指定スル期間内ニ答辯書ヲ差出サシムヘシ

前項ノ期間内ニ答辯書ヲ差出ササルトキハ遞信大臣ハ申請書ノミニ依リテ裁定ヲ爲スコトヲ得
遞信大臣裁定ヲ爲シタルトキハ裁定書ニ理由ヲ附シ之ヲ

船員使用等統制令施行規則

ニ委任スルコトヲ得

第十四條 本令中遞信大臣トアルハ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ南洋廳長官トシ遞信局長トアルハ朝鮮又ハ臺灣ニ在リテハ各朝鮮總督府遞信局長又ハ臺灣總督府交通局總長トシ道府縣トアルハ朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ニ在リテハ各道、州若ハ廳又ハ南洋群島地方費トス

附 則

本令ハ昭和十五年十一月十日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十五年十一月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

船員使用等統制令施行規則

(昭和十五年十一月 遞信省令第六十六號)

第一條 船員使用等統制令(以下令ト稱ス)第二條ノ船舶ハ總噸數百噸以上ノ汽船トス

第二條 令第四條第一項ノ命令ハ船員ノ資格又ハ職務別員數、使用期間、使用スヘキ船舶所有者等ヲ指定シテ之ヲ

當事者雙方ニ送付スヘシ

第六條 令第八條ノ認可ヲ受ケントスル者ハ遞信大臣ノ指定スル期日迄ニ第二號書式ニ依リ申請書ニ副本ヲ添へ所轄遞信局長ヲ經由シテ遞信大臣ニ之ヲ提出スヘシ

前項ノ申請ニ對スル認可ヲ爲シタル後ニ於テ特別ノ必要アリ且使用シ得ヘキ修了者アルトキハ前項ノ期日ニ拘ラス申請書ヲ受理スルコトアルヘシ

第七條 令第八條ノ認可アリタル後一年以内ニ修了者ヲ雇入レサルトキハ其ノ範圍ニ於テ效力ヲ失フ

第八條 令第八條ノ認可ヲ受ケタル者修了者ヲ雇入レタルトキ又ハ解雇シタルトキハ遲滞ナク第三號書式ニ依リ報告書ヲ遞信大臣及所轄遞信局長ニ提出スヘシ

第九條 常時五十人以上ノ船員ヲ使用スル船舶所有者及總噸數百噸以上ノ汽船ノ船舶所有者ハ船員ノ使用狀況ニ關シ第四號書式ニ依リ報告書ヲ各一月、四月、七月及十月ノ末日迄ニ遞信大臣及所轄遞信局長ニ提出スヘシ

附 則

第十條 令第十條第二項ノ證票ハ第五號書式ニ依リ本令ハ船員使用等統制令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第 號

官 氏 名

國家總動員法(船員關係)ニ基ク
當該官廳印

官 吏 臨 檢 證 票

(表)

遞 信 局

(遞 信 局 省)

(裏)

國家總動員法第三十一條 政府ハ國家總動員上必
要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徴シ又
ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀
況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコト
ヲ得

國家總動員法第四十二條 第三十一條ノ規定ニ依
ル當該官吏ノ檢査ヲ拒ミ妨ケ又ハ忌避シタル者ハ
六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

船員使用等統制令第五條ノ船員

(昭和十五年十一月) 遞信省告示第三千八百四號

船舶ニ乗組ミ一月以上船舶ノ運航、機關ノ運轉又ハ無線電信若ハ無線電話ノ通信ニ從事シタル者

船員使用等統制令第八條ノ船員養成施設及船員使用等統制令施行規則第六條ノ期日指定

(昭和十五年十二月) 遞信省告示第三千四百十七號

- 船員養成施設
- 一、高等商船學校 三月、六月、九月及十二月ノ各末日
 - 二、商船學校 同
 - 三、海員養成所 一月、四月、七月及十二月ノ各末日
 - 四、社會團法人電信協同會管理無線電信講習所 本科ニ付テハ十二月末日、選科ニ付テハ七月及十二月ノ各末日

船員使用等統制令第五條ノ船員・船員使用等統制令第八條ノ船員養成施設及船員使用等統制令施行規則第六條ノ期日指定・船員使用等統制令施行規則(朝鮮)

七〇四ノ一

船員使用等統制令施行規則

(昭和十五年十一月) 朝鮮總督府令第二百五十五號

- 第一條 船員使用等統制令(以下令ト稱ス)第二條ノ船舶ハ總噸數百噸以上ノ汽船トス
- 第二條 令第四條第一項ノ規定ニ依ル命令ハ船員ノ資格又ハ職務別員數、使用期間、使用スベキ船舶所有者等ヲ指定シテ之ヲ爲ス
- 第三條 令第四條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ依リ船員ヲ使用セシムル場合ニ於テハ當事者タル船舶所有者又ハ其ノ組合其ノ他之ニ準ズルモノハ當該船員ノ處遇ニ關シ從來ノ利益ヲ害スルコトヲ得ズ
- 第四條 令第四條第一項ノ規定ニ依ル命令アリタル場合ニ於テ使用セシムベキ船員決定シタルトキ又ハ同條第二項ニ規定スル協議調ヒタルトキハ當事者タル船舶所有者又ハ其ノ組合其ノ他之ニ準ズルモノノ連署ノ上遲滞ナク第一號様式ニ依ル報告書又ハ契約書ノ謄本ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ
- 第五條 令第四條第二項ノ裁定ヲ受ケントスル者ハ請申書

ニ副本ヲ添へ朝鮮總督ニ提出スベシ
 朝鮮總督前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ副本ヲ申請者ノ相手方ニ送付シ其ノ指定スル期間内ニ答辯書ヲ差出サシムベシ
 前項ノ期間内ニ答辯書ヲ差出サザルトキハ朝鮮總督ハ申請書ノミニ依リテ裁定ヲ爲スコトヲ得
 朝鮮總督裁定ヲ爲シタルトキハ裁定書ニ理由ヲ附シ之ヲ當事者雙方ニ送付スベシ

第六條 令第八條ノ認可ヲ受ケントスル者ハ朝鮮總督ノ指定スル期日迄ニ第二號様式ニ依ル申請書ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ
 前項ノ申請ニ對スル認可ヲ爲シタル後ニ於テ特別ノ必要アリ且使用シ得ベキ修了者アルトキハ前項ノ期日ニ拘ラズ申請書ヲ受理スルコトアルベシ

第七條 令第八條ノ認可ハ認可アリタル後一年以内ニ修了者ヲ雇入レザルトキハ其ノ範圍ニ於テ效力ヲ失フ
第八條 令第八條ノ認可ヲ受ケタル者修了者ヲ雇入レタルトキ又ハ解雇シタルトキハ遲滞ナク第三號様式ニ依ル報告書ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

第九條 常時五十人以上ノ船員ヲ使用スル船舶所有者及總
 場合ニ於テハ當事者タル船舶所有者又ハ其ノ組合其ノ他之ニ準ズルモノハ當該船員ノ處遇ニ關シ從來ノ利益ヲ害スルコトヲ得ズ

第四條 令第四條第一項ノ命令トリタル場合ニ於テ使用セシムベキ船員決定シタルトキ又ハ同條第二項ニ規定スル協議調ヒタルトキハ當事者タル船舶所有者又ハ其ノ組合其ノ他之ニ準ズルモノ連署ノ上遲滞ナク別記第一號様式ニ依ル報告書ニ副本ヲ添へ又ハ契約書ノ謄本二通ヲ臺灣總督ニ提出スベシ

第五條 令第四條第二項ノ裁定ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ副本二通ヲ添へ臺灣總督ニ之ヲ提出スベシ
 臺灣總督前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ副本ヲ申請者ノ相手方ニ送付シ其ノ指定スル期間内ニ答辯書ヲ差出サシムベシ
 前項ノ期間内ニ答辯書ヲ差出サザルトキハ臺灣總督ハ申請書ノミニ依リテ裁定ヲ爲スコトヲ得
 臺灣總督裁定ヲ爲シタルトキハ裁定書ニ理由ヲ附シ之ヲ當事者雙方ニ送付スベシ

第六條 令第八條ノ認可ヲ受ケントスル者ハ臺灣總督ノ指定スル期日迄ニ別記第二號様式ニ依ル申請書ニ副本ヲ添へ臺灣總督ニ之ヲ提出スベシ
 前項ノ申請ニ對スル認可ヲ爲シタル後ニ於テ特別ノ必要アリ且使用シ得ベキ修了者アルトキハ前項ノ期日ニ拘ラズ申請書ヲ受理スルコトアルベシ

船員使用等統制令施行規則(臺灣)

噸數百噸以上ノ汽船ノ船舶所有者ハ船員ノ使用狀況ニ關シ第四號様式ニ依ル報告書ヲ各一月、四月、七月及十月ノ末日迄ニ朝鮮總督ニ提出スベシ
第十條 令第十條第二項ノ證票ハ第五號様式ニ依ル
第十一條 令及本令ノ規定ニ依リ朝鮮總督ニ提出スベキ書類ハ明治四十三年朝鮮總督府令第五號ノ規定ニ拘ラズ朝鮮總督府通信局長ヲ經由スベシ

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 (様式省略)

船員使用等統制令施行規則

(昭和十五年十一月)
 (臺灣總督府令第百七十號)

第一條 船員使用統制令(以下令ト稱ス)第二條ノ船舶ハ船員法第一條第一項各號ニ掲グル船舶以外ノ船舶トス
第二條 令第四條第一項ノ命令ハ船員ノ資格又ハ職務別員數、使用期間、使用スベキ船舶所有者等ヲ指定シテ之ヲ爲ス
第三條 令第四條第一項ノ命令ニ依リ船員ヲ使用セシムル

臺灣總督ニ之ヲ提出スベシ
 前項ノ申請ニ對スル認可ヲ爲シタル後ニ於テ特別ノ必要アリ且使用シ得ベキ修了者アルトキハ前項ノ期日ニ拘ラズ申請書ヲ受理スルコトアルベシ

第七條 令第八條ノ認可ハ認可アリタル後一年以内ニ修了者ヲ雇入レザルトキハ其ノ範圍ニ於テ效力ヲ失フ
第八條 令第八條ノ認可ヲ受ケタル者修了者ヲ雇入レタルトキ又ハ解雇シタルトキハ遲滞ナク別記第三號様式ニ依ル報告書ニ副本ヲ添へ臺灣總督ニ提出スベシ

第九條 常時三十人以上ノ船員ヲ使用スル船舶所有者及船員法第一條第一項各號ニ掲グル船舶以外ノ船舶ノ船舶所有者ハ船員ノ使用狀況ニ關シ別記第四號様式ニ依ル報告書ニ副本ヲ添へ各一月、四月、七月及十月ノ末日迄ニ臺灣總督ニ提出スベシ

第十條 本令ニ依リ臺灣總督ニ提出スベキ書類ハ所轄管海官廳ヲ經由スベシ

第十一條 令第十條第二項ノ證票ハ別記第五號様式ニ依ル

本令ハ昭和十五年十一月二十五日ヨリ之ヲ施行ス
 (別記様式省略)

船員使用等統制令第五條ノ船員

(昭和十五年十一月)
臺灣總督府告示第五百二號

船舶ニ乗組ミ一月以上船舶ノ運航、機關ノ運轉又ハ無線電信若ハ無線電話ノ通信ニ從事シタル者

船員使用等統制令施行規則

(昭和十五年十二月)
樺太廳令第百二十四號

- 第一條 船員使用等統制令(以下令ト稱ス)
- 第二條 船舶ハ總噸數百噸以上ノ汽船トス
- 第二條 令第四條第一項ノ命令ハ船員ノ資格又ハ職務別員數、使用期間、使用スベキ船舶所有者等ヲ指定シテ之ヲ爲ス
- 第三條 令第四條第一項ノ命令ニ依リ船員ヲ使用セシムル場合ニ於テハ當事者タル船舶所有者又ハ其ノ組合其ノ他之ニ準ズルモノハ當該船員ノ處遇ニ關シ從來ノ利益ヲ害

スルコトヲ得ズ

- 第四條 令第四條第一項ノ命令アリタル場合ニ於テ使用セシムベキ船員決定シタルトキ又ハ同條第二項ニ規定スル協議調ヒタルトキハ當事者タル船舶所有者又ハ其ノ組合其ノ他之ニ準ズルモノ連署ノ上遲滞ナク第一號書式ニ依ル報告書又ハ契約書ノ謄本ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ
- 第五條 令第四條第二項ノ裁定ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ副本ヲ添ヘ樺太廳長官ニ之ヲ提出スベシ
- 樺太廳長官前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ副本ヲ申請者ノ相手方ニ送付シ其ノ指定スル期間内ニ答辯書ヲ差出サシムベシ
- 前項ノ期間内ニ答辯書ヲ差出サザルトキハ樺太廳長官ハ申請書ニノミ依リテ裁定ヲ爲スコトヲ得
- 樺太廳長官裁定ヲ爲シタルトキハ裁定書ニ理由ヲ附シ之ヲ當事者雙方ニ送付スベシ
- 第六條 令第八條ノ認可ヲ受ケントスル者ハ樺太廳長官ノ指定スル期日迄ニ第二號書式ニ依ル申請書ヲ樺太廳長官ニ之ヲ提出スベシ
- 前項ノ申請ニ對スル認可ヲ爲シタル後ニ於テ特別ノ必要アリ且使用シ得ベキ修了者アルトキハ前項ノ期日ニ拘ラ

ズ申請書ヲ受理スルコトアルベシ

- 第七條 令第八條ノ認可アリタル後一年以内ニ修了者ヲ雇入レザルトキハ其ノ範圍ニ於テ效力ヲ失フ
- 第八條 令第八條ノ認可ヲ受ケタル者修了者ヲ雇入レタルトキ又ハ解雇シタルトキハ遲滞ナク第三號樣式ニ依ル報告書ヲ樺太廳長官ニ提出スベシ
- 第九條 常時五十人以上ノ船員ヲ使用スル船舶所有者及總噸數百噸以上ノ汽船ノ船舶所有者ハ船員ノ使用狀況ニ關シ第四號樣式ニ依ル報告書ヲ各一月、四月、七月及十月ノ末日迄ニ樺太廳長官ニ提出スベシ
- 第十條 令第十條第二項ノ證票ハ第五號樣式ニ依ル

附 則

本令ハ船員使用等統制令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(樣式省略)

第十一章 船員職業能力申告

船員職業能力申告令

(昭和十四年一月
勅令第二十三號)

第一條 國家總動員法第二十一條ノ規定ニ基ク船員ノ職業能力ニ關スル事項ノ申告及其ノ職業能力ニ關スル検査ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 本令ニ於テ船員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

- 一 船員法第一條(朝鮮船員令及關東州船員令ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同シ)ニ規定スル船員
- 二 海技免狀ヲ有スル者
- 三 遞信大臣ノ指定スル船員養成施設ニ於テ其ノ課程ヲ修了シタル者ニシテ修了後三年ヲ經過セサルモノ及該期間内ニ船員法第一條ニ規定スル船員トシテ船舶ニ乗組ミ最後ノ雇止ノ公認後三年ヲ經過セサルモノ
- 四 船員法第一條ニ規定スル船員トシテ一年以上船舶ニ乗組ミタル者ニシテ最後ノ雇止ノ公認後三年ヲ經過セサルモノ

船員職業能力申告令

第三條 船員ノ職業能力ニ關スル事項ノ申告ハ毎年一回之ヲ爲サシムルモノトス

前項ノ申告ハ七月一日現在ニ依リ同月十五日迄ニ之ヲ爲スヘシ

第四條 船員ハ左ニ掲クル事項ヲ居住地ヲ管轄スル管海官

廳ニ申告スヘシ

- 一 氏名
- 二 男女ノ別
- 三 出生ノ年月日
- 四 本籍
- 五 居住ノ場所
- 六 兵役關係
- 七 學歴
- 八 船員手帳ヲ有スルトキハ其ノ管海官廳略號及番號
- 九 海技免狀ヲ有スルトキハ其ノ種類及番號
- 十 無線通信士資格檢定合格證書ヲ有スルトキハ其ノ等級及番號
- 十一 救命艇手適任證書其ノ他ノ海技ニ關スル資格證明

七〇五

書ヲ有スルトキハ其ノ旨

十二 乗船履歷

十三 現ニ從事スル業務

十四 俸給、給料等ヲ受クル者ナルトキハ其ノ額

十五 健康狀況殊ニ船内勤務ニ關スル支障ノ有無

十六 配偶者ノ有無及現ニ扶養スル者ノ數

十七 船内勤務ニ關スル希望

十八 其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項

船員手帳ヲ有スル者ハ前項第十二號ノ申告ヲ爲スコトヲ要セス

船員第一項ノ申告ヲ爲シタル後同項第一號、第四號乃至

第六號及第十三號ニ掲クル事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ

第六條ノ規定ニ該當スル場合ヲ除クノ外三十日以内ニ居

住地ヲ管轄スル管海官廳ニ其ノ旨ヲ申告スヘシ

第五條 船員法第一條ニ規定スル船員ハ本令ニ依ル申告ヲ

爲スコトヲ要セス但シ遞信大臣必要アリト認ムルトキハ

船員法第一條ニ規定スル船員ノ全部又ハ一部ニ對シ命令

ノ定ムル所ニ依リ前條第一項ニ掲クル事項ノ一部ヲ申告

セシムルコトヲ得

第六條 船員第三條及第四條ノ規定ニ依ル申告ヲ爲シタル

後左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ遲滞ナク前ニ申告ヲ爲シタル管海官廳ニ其ノ旨ヲ申告スヘシ

一 第九條ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキ

二 本令施行地外ニ居住ノ場所ヲ移シタルトキ

第七條 管海官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該官吏ヲシテ

本令ノ申告ヲ爲シタル者ニ就キ其ノ職業能力ニ關シ検査

ヲ爲サシムルコトヲ得

第八條 管海官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本令ノ申告ニ關

シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基ク報告ヲ徵スルコトヲ得

第九條 本令ハ第六條第一號ノ規定ニ依ル申告ニ關スル規

定ヲ除クノ外陸海軍軍人ニシテ現役中ノモノ（歸休下士

官兵ヲ除ク）及戰時若ハ事變ニ際シ又ハ兵役法第五十五

條第二項ノ規定（志願ニ依リ兵籍ニ編入セラレタル者ニ

付テハ之ニ該當スル勅令ノ規定ヲ含ム）ニ依リ召集中ノ

モノ、兵籍ニ編入セラレタル陸海軍學生生徒（海軍豫備

練習生及海軍豫備補習生ヲ含ム）、陸海軍軍屬、國家總動

員法第四條ノ規定ニ依リ徵用中ノ者並ニ醫療關係者職業

能力申告令ニ依リ申告ヲ爲スヘキ者ニ對シテ之ヲ適用セス

第十條 船員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノノ申告ニ

關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ申告期限ヲ延長スルコトヲ得

一 陸海軍軍人ニシテ召集中ノモノ（前條ニ規定スル召集中ノ者ヲ除ク）

二 外國旅行中ノ者

三 其ノ他命令ヲ以テ定ムル者

第十一條 本令中遞信大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總

督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長

官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ管海官廳トアル

ハ樺太ニ在リテハ樺太廳長官ノ指定スル行政官廳、南洋

群島ニ在リテハ南洋廳長官ノ指定スル行政官廳トス

第十二條 本令ニ規定スルモノノ外申告ニ關シ必要ナル事

項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム。

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十四年ニ限リ第三條第二項中七月一日現在ニ依リ同月

十五日迄トアルハ四月一日現在ニ依リ同月十五日迄トス

船員職業能力申告令施行規則

（昭和十四年一月 遞信省令第二號）

第一條 船員職業能力申告令（以下申告令ト稱ス）第三條

ノ規定ニ依ル申告ハ第一號書式ニ依ル船員職業能力申告

書用紙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ船員職業能力申告書用紙ハ管海官廳其ノ他遞信大

臣ノ告示ヲ以テ指定スル者ニ申出テ其ノ交付ヲ受クヘシ

第二條 申告令第四條第三項ノ規定ニ依ル申告ハ書面ヲ以

テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ書面ニハ變更ニ係ル新舊事項及變更ヲ生シタル年

月日ヲ記載シ記名捺印スヘシ

第三條 申告令第六條ノ規定ニ依ル申告ハ書面ヲ以テ之ヲ

爲スヘシ

前項ノ書面ニハ申告令第六條各號ニ該當スル事項及其ノ

該當スルニ至リタル年月日ヲ記載シ記名捺印スヘシ

第四條 申告令第五條ノ規定ニ依リ船員法第一條ニ規定ス

(五) 健康狀況	强健	普通	病弱	(六) 配偶者	有	現に扶養する者の數	人
	支船内勤務障	無	(理)		無		
(七) 船内勤務に希望に	航行區域	船種	其他				
(六) 乗船履歴							
船種	用途	船名	總噸數	職務	給料	乗船年月日	下船年月日
			公稱馬力		手當	年月日	
		丸	馬力	考	圓錢	年月日	年月日
		(九) 國民職業能力申告令に依る要申告者なりや否		(二) 備考			
		要申告者なり					
		要申告者に非ず					

省

右之通相違無之候也
年 月 日

御中
申告者
氏名印

記載心得

- 一 一般の注意事項
- (イ) 文字は明瞭に墨又は青インクを以て記載すること

- (ロ) 誤記した事項は其の上に線を引いて之を抹消し其の傍に正しい文字を記載すること
- (ハ) 該当しない事項及不要な箇所は其の上に線を引いて之を抹消すること

二 各項目の記載方

- (一) 氏名
氏名には其の右側に振假名を附けること
- (五) 居住の場所
平常居住する場所を記載すること
- (七) 海技免状の種類及番號
效力に制限を加へた海技免状は其の種類及番號を記載すること
海技免状を併有する者は其の種類及番號を全部併記すること
- (十三) 學歷
船員としての學歷には商船學校、水産學校其の他養成所等を記載すること
其の他の學歷には右以外の最高學歷を記載し、尙試験に依り資格を得たる者は夫れに相當する學校(例へば専檢、實檢、高檢合格者は甲種中等學校卒業とするが如し)を記載すること
- (十四) 現に従事する業務
- (イ) 種類
勤務者に付ては勤務先及職務名又獨立して業務を営む者に付ては其の種類を記載し、尙無職の者は無職と記載し又汽船會社の豫備員は何々會社豫備員と記載すること
- (ロ) 報酬
獨立して業務を営む者は其の平均月收額を記載すること

船員職業能力申告令施行規則

手當は職務手當、勤続手當等の如く支給額が確定せるもの、合金額を記載し、尙俸給又は給料の何割と記載するも妨げないこと

(五) 健康狀況

急性傳染病等の如き一時的疾患に因る故障は船内勤務支障の理由とならないこと
船内勤務支障の理由ある場合は疾病に在りては其の病名を、不具又は精神身體の障害に在りては其の不具又は障害の箇所を記載すること

(六) 配偶者の有無及現に扶養する者の數

配偶者は内縁關係をも含み、現に扶養する者の數」には自己の家計に依存して生活を營む者の數を記載すること

(七) 船内勤務に關する希望

船種は汽船、發動機船、旅客船、貨物船等を記載すること

特に希望する事項(例へば北米航路、上海航路等)又は特に希望しない事項があれば「其の他」に記載すること

(八) 乗船履歷

海技免狀を有し船員法の適用を受けない船舶に乗船した者は最後に乗船した船舶に付又海技免狀を有し船員法の適用を受けない船舶に乗船中の者は現に乗船し居る船舶に付記載すること

船員手帳受有者は下船後三年間は乗船履歷を記載することを要しないこと

(九) 備考

特に熟知して居る外國航路又は外國港灣あるときは之を本欄に記載すること

特殊技能ある者は之を本欄に記載して差支ないこと

三 本申告を怠りたる者は國家總動員法に依り處罰されることがあるから注意すること

第二號書式(整八・五種)

(表)

第	號
船員職業能力検査證票	
官職	氏名
逕信省印	

船員職業能力申告令施行規則

(裏)

國家總動員法第二十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民及帝國臣民ヲ雇備若ハ使用スル者ヲシテ帝國臣民ノ職業能力ニ關スル事項ヲ申告セシメ又ハ帝國臣民ノ職業能力ニ關シ検査スルコトヲ得

國家總動員法第四十三條 第二十一條ノ規定ニ違反シテ申告ヲ怠リ又ハ検査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

船員職業能力申告令第七條 管海官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該官吏ヲシテ本令ノ申告ヲ爲シタル者ニ就キ其ノ職業能力ニ關シ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

船員職業能力申告令施行規則第五條 管海官廳ハ當該官吏ヲシテ申告令ニ依ル申告ヲ爲シタル者ニ就キ身體、技能其ノ他必要ト認ムル事項ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ在リテハ當該官吏ハ第二號書式ニ依ル證票ヲ携帯スヘシ

船員職業能力申告令第二 條第三號ノ規定ニ依ル船 員養成施設指定ノ件

(昭和十四年二月
遞信省告示第五百四十號)

改正 昭和十六年四月
遞信省告示第九十六號

船員職業能力申告令第二條第三號ノ規定ニ依ル船員養成施設左ノ如ク指定シ本日ヨリ之ヲ施行ス

名 稱	位 置
一 社團法人日本海員救濟會	橫濱市中區吉濱町十四番地ノ一
二 社團法人日本海員救濟會	大阪府港區出崎町一丁目八番地
三 社團法人日本海員救濟會	福岡縣若松市北湊町三丁目地先
四 社團法人電信協會管理無線電信講習所	東京市目黒區下目黒一丁目五番地
五 兒島海員養成所	岡山縣兒島郡味野町
六 小樽海員養成所	北海道小樽市
七 唐津海員養成所	佐賀縣唐津市
八 宮古海員養成所	岩手縣宮古市

船員職業能力申告令事務 取扱ニ關スル件

(昭和十四年二月
海第五百一號通牒)

船員職業能力申告令(以下申告令ト稱ス)事務ハ左記ニ依リ取扱相成度此段及通牒候

記

- 一 申告令事務ノ取扱ニ付テハ懇切丁寧ヲ旨トシ、特ニ申告義務者ヲシテ申告ノ重要性ヲ充分了解セシメ、進ンテ申告ヲ勵行スル様之カ指導ニ萬全ヲ期スルコト
- 二 船員職業能力申告書用紙ニ付テハ單ニ申告義務者ノ請求ヲ俟ツテ之ヲ交付スルノミナラズ、可成申告義務者ノ探知ニ努メ、進ンテ之カ交付ノ方途ヲ講スルコト
- 三 申告書ノ提出方法ハ使者又ハ郵便等申告者ノ便宜ニ依ラシメテ可ナルコト
- 四 申告書提出アリタルトキハ直ニ其ノ内容ヲ檢シ、不備ノ箇所アルトキハ之ヲ補正スル爲適宜ノ方法ヲ講スルコト

五 申告令施行規則第一條ノ船員職業能力申告書ハ「海技免狀ヲ有スル者」ト「其ノ他ノ者」トノ二種ニ分別シテ取纏メ、其ノ各々ニ其ノ種類及葉數ヲ記載シタル表紙ヲ附シテ、昭和十四年ハ同年四月二十五日迄ニ、昭和十五年以後ハ毎年七月二十五日迄ニ之ヲ書留便ニテ管船局ニ送付スルコト

前項ノ期限後ニ到着シタル申告書ハ一月毎ニ取纏メ、翌月七日迄ニ之ヲ書留便ニテ管船局ニ送付スルコト
申告令施行規則第十條ニ該當スル者ヨリ提出シタル申告書ハ遲滞ナク之ヲ書留便ニテ管船局ニ送付スルコト

六 申告令施行規則第二條及第三條ノ申告書ハ提出アリタル都度遲滞ナク之ヲ管船局ニ送付スルコト
七 申告令施行規則第七條ノ報告ヲ除クノ外同第八條及第九條ノ報告ハ書面ニ依ラシムルコトヲ要セサルコト

八 申告令施行規則第七條乃至第九條ノ報告アリタルトキハ其ノ都度遲滞ナク之ヲ管船局ニ報告スルコト
九 申告令第四條第二項ニ「船員手帳ヲ有スル者」トアル

ハ船員法施行規則第十九條ニ依リ期間經過無効ニ非サル船員手帳ヲ受有スル者及該船員手帳ヲ滅失又ハ毀損シテ未タ再交付ヲ受ケサル者ヲ指稱スルモノナルコト

船員職業能力申告令第二條第三號ノ規定ニ依ル船員養成施設指定ノ件
船員職業能力申告令事務取扱ニ關スル件・船員職業能力申告令施行規則(朝鮮)
依ル管海官廳ノ検査ニ關スル件・朝鮮船員職業能力申告令施行規則(朝鮮)

十 船員法施行令第一條第二號ニ掲クル者ニシテ申告令施行規則ノ適用區域外ニ在ルモノハ、同規則第十條第二號ニ該當スル者トシテ之ヲ處理スルコト

船員職業能力申告令第七 條ニ依ル管海官廳ノ検査 ニ關スル件

(昭和十四年四月
海第五百四十三號通牒)

船員職業能力申告令第七條ニ依ル管海官廳ノ検査ハ追テ當局ヨリ指示スル迄之ヲ行フノ要無之候條了知相成度

朝鮮船員職業能力申告令 施行規則

(昭和十四年三月
朝鮮總督府令第二十三號)

改正 昭和十五年六月
朝鮮總督府令第四百四十四號

第一條 船員職業能力申告令(以下單ニ申告令ト稱ス)第一條ニ依ル管海官廳ノ検査ニ關スル件
七 一五

三條ノ規定ニ依ル申告ハ第一號書式ニ依ル船員職業能力申告書用紙ヲ以テ之ヲ爲スベシ

前項ノ船員職業能力申告書用紙ハ管海官廳其ノ他朝鮮總督ノ告示ヲ以テ指定スル者ニ申出テ其ノ交付ヲ受クベシ

第二條 申告令第四條第三項ノ規定ニ依ル申告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スベシ

前項ノ書面ニハ變更ニ係ル新舊事項及變更ヲ生ジタル年月日ヲ記載シ記名捺印スベシ

第三條 申告令第六條ノ規定ニ依ル申告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スベシ

前項ノ書面ニハ申告令第六條各號ニ該當スル事項及其ノ該當スルニ至リタル年月日ヲ記載シ記名捺印スベシ

第四條 申告令第五條ノ規定ニ依リ朝鮮船員令ニ於テ依ルコトヲ定メタル船員法(以下船員法ト稱ス)第一條ニ規定スル船員ニ對シ申告ヲ爲サシムル場合ニ於テハ左ニ掲グル事項ヲ定メ之ヲ告示ス

- 一 申告ヲ爲スベキ船員ノ範圍
- 二 申告ヲ爲スベキ事項
- 三 申告ノ時期
- 四 申告ノ方法

第五條 管海官廳ハ當該官吏ヲシテ申告令ニ依ル申告ヲ爲シタル者ニ就キ身體、技能其ノ他必要ト認ムル事項ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ在リテハ當該官吏ハ第二號書式ニ依ル證書ヲ携帶スベシ

第六條 申告令第二條第三號ノ規定ニ依リ朝鮮總督ノ指定シタル船員養成施設ハ之ヲ告示ス

第七條 申告令第二條第三號ノ規定ニ依リ朝鮮總督ノ指定シタル船員養成施設ノ管理者ハ其ノ養成ノ課程ヲ修了シタル者ニ付左ニ掲グル事項ヲ遲滞ナク船員養成施設ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ報告スベシ但シ朝鮮總督ノ指定前ニ養成ノ課程ヲ修了シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 氏名
- 二 出生ノ年月日
- 三 本籍
- 四 居住ノ場所
- 五 養成ノ課程ヲ修了シタル年月日

第八條 管海官廳ハ必要アリト認ムル場合船長ノ退職認證ノ申請又ハ海員ノ雇止公認ノ申請アリタル際當該船員ヲ

船員職業能力申告令施行

ニ關スル件

シテ申告令第四條第一項各號ニ掲グル事項ニ關シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第九條 申告令第二條第二號乃至第四號ニ掲グル船員ガ死亡シタルトキハ死亡ノ際其ノ者ト同居ノ戸主又ハ家族ノ關係ニ在リタル者ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ最寄管海官廳ニ報告スベシ

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ申告期限ハ朝鮮ニ歸來シタル日ヨリ十五日迄之ヲ延長ス

- 一 申告令第十條第一號ニ該當スル者ニシテ朝鮮ニ居住セザルモノ
- 二 申告令第十條第二號ニ該當スル者
- 三 内地、臺灣、樺太、南洋群島又ハ關東州ニ旅行中ノ者
- 四 船員法第一條ニ規定スル船員以外ノ者トシテ船舶ニ乗組ミ航行中ノモノ

第十一條 朝鮮船員令施行規則ニ依ルコトヲ定メタル船員法施行規則第六十一條第一項第一號乃至第三號ニ掲グル船員ニ付テハ下船届ノ提出アリタルトキ雇止ノ公認アリタルモノト看做ス

附 則 (昭和十四年三月) 朝鮮總督府令第二十三號

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和十五年六月) 朝鮮總督府令第四百四十四號

本令ハ昭和十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

(書式省略)

船員職業能力申告令施行ニ關スル件(臺灣)

第一條 船員職業能力申告令ノ施行ニ關シテハ昭和十四年遞信省令第二號船員職業能力申告令施行規則ニ依ル但シ同規則第一條ノ規定ニ依ル申告書ハ別記書式ニ依ル

第二條 前條ノ遞信省令中遞信大臣トアルハ臺灣總督、遞信省トアルハ臺灣總督府交通局、内地トアルハ臺灣、臺灣トアルハ内地トス

附 則 (昭和十四年二月) 臺灣總督府令第十九號

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和十五年六月) 臺灣總督府令第八十五號

本令ハ昭和十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別記書式省略)

船員職業能力申告令施行規則ニ依リ船員職業能力申告書用紙ノ交付ヲ行フ者ニ關スル件

(昭和十四年三月)
臺灣總督府告示第九十號
改正 昭和十五年十月
臺灣總督府告示第四百十號

- 臺北州 淡水街長、蘇澳庄長
- 新竹州 後龍庄長
- 臺中州 鹿港街長
- 臺南州 臺南市尹、布袋庄長、東石庄長
- 高雄州 東港街長、恒春街長、東城庄長
- 臺東廳 臺東街長、新港庄長
- 澎湖廳 馬公街長
- 社團法人臺灣海務協會

船員職業能力申告令施行規則

(昭和十四年四月)
樺太廳令第十五號
改正 昭和十五年七月
樺太廳令第八十五號

- 第一條 船員職業能力申告令(以下申告令ト稱ス)第三條ノ規定ニ依ル申告ハ第一號書式ニ依ル船員職業能力申告書用紙ヲ以テ之ヲ爲スベシ
- 前項ノ船員職業能力申告書用紙ハ居住地ヲ管轄スル支廳長ニ申出デ其ノ交付ヲ受クベシ
- 第二條 申告令第四條第三項ノ規定ニ依ル申告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スベシ
- 前項ノ書面ニハ變更ニ係ル新舊事項及變更ヲ生ジタル年月日ヲ記載シ記名捺印スベシ
- 第三條 申告令第六條ノ規定ニ依ル申告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スベシ
- 前項ノ書面ニハ申告令第六條各號ニ該當スル事項及其ノ

該當スルニ至リタル年月日ヲ記載シ記名捺印スベシ

第四條 申告令第五條ノ規定ニ依リ船員法第一條ニ規定スル船員ニ對シ申告ヲ爲サシムル場合ニ於テハ左ニ掲グル事項ヲ定メ之ヲ告示ス

- 一 申告ヲ爲スベキ船員ノ範圍
- 二 申告ヲ爲スベキ事項
- 三 申告ノ時期
- 四 申告ノ方法

第五條 支廳長ハ當該官吏ヲシテ申告令ニ依ル申告ヲ爲シタル者ニ就キ身體、技能其ノ他必要ト認ムル事項ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ在リテハ當該官吏ハ第二號書式ニ依ル證票ヲ携帶スベシ

第六條 申告令第二條第三號ノ規定ニ依リ樺太廳長官ノ指定シタル船員養成施設ハ之ヲ告示ス

第七條 申告令第二條第三號ノ規定ニ依リ樺太廳長官ノ指定シタル船員養成施設ノ管理者ハ其ノ養成ノ課程ヲ修了シタル者ニ付左ニ掲グル事項ヲ遲滞ナク船員養成施設ノ所在地ヲ管轄スル支廳長ニ報告スベシ

一 氏名

船員職業能力申告令施行規則ニ依リ船員職業能力申告書用紙ノ交付ヲ行フ者ニ關スル件(臺灣)・船員職業能力申告令施行規則(樺太)

七一五ノ四

二 出生ノ年月日

三 本籍

四 居住ノ場所

五 養成ノ課程ヲ修了シタル年月日

第八條 申告令第二條第二號乃至第四號ニ掲グル船員ガ死亡シタルトキハ死亡ノ際其ノ者ト同居ノ戶主又ハ家族ノ關係ニ在リタル者ハ遲滞ナク其ノ旨最寄支廳長ニ報告スベシ但シ船員法第一條ニ規定スル船員ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ申告期限ハ樺太ニ歸來シタル日ヨリ十五日迄之ヲ延長ス

一 申告令第十條第一號ニ該當スル者ニシテ樺太ニ居住セザル者

二 申告令第十條第二號ニ該當スル者

三 内地、朝鮮、臺灣、南洋群島又ハ關東州ニ旅行中ノ者

四 船員法第一條ニ規定スル船員以外ノ者トシテ船舶ニ

乗組ミ航行中ノ者

第十條 支廳長ハ必要アリト認ムル場合ハ船舶所有者ヲシテ其ノ履倘若ハ使用ニ係ル船員ノ職業能力ニ關シ報告ヲ

爲サシムルコトヲ得

附 則

(昭和十四年四月
樺太廳令第十五號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

(昭和十五年七月
樺太廳令第八十五號)

本令ハ昭和十五年七月一日ヨリ之ヲ適用ス

(書式省略)

船員職業能力申告令施行規則

規則

(昭和十四年三月
南洋廳令第十號)

第一條 船員職業能力申告令(以下申告令ト稱ス)第三條ノ規定ニ依ル申告ハ第一號書式ニ依ル船員職業能力申告書用紙ヲ以テ之ヲ爲スベシ

前項ノ船員職業能力申告書用紙ハ所轄支廳ニ申出デ其ノ交付ヲ受クベシ

第二條 申告令第四條第三項ノ規定ニ依ル申告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スベシ

前項ノ書面ニハ變更ニ係ル新舊事項及變更ヲ生ジタル年

月日ヲ記載シ記名捺印スベシ

第三條 申告令第六條ノ規定ニ依ル申告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スベシ

前項ノ書面ニハ申告令第六條各號ニ該當スル事項及其ノ該當スルニ至リタル年月日ヲ記載シ記名捺印スベシ

第四條 申告令第五條ノ規定ニ依リ船員法第一條ニ規定スル船員ニ對シ申告ヲ爲サシムル場合ニ於テハ左ニ掲グル事項ヲ定メ之ヲ告示ス

- 一 申告ヲ爲スベキ船員ノ範圍
- 二 申告ヲ爲スベキ事項
- 三 申告ノ時期
- 四 申告ノ方法

第五條 支廳長ハ當該官吏ヲシテ申告令ニ依ル申告ヲ爲シタル者ニ就キ身體、技能其ノ他必要ト認ムル事項ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ在リテハ當該官吏ハ第二號書式ニ依ル證書ヲ携帶スベシ

第六條 申告令第二條第三號ノ規定ニ依リ南洋廳長官ノ指定シタル船員養成施設ハ之ヲ告示ス

第七條 申告令第二條第三號ノ規定ニ依リ南洋廳長官ノ指

定シタル船員養成施設ノ管理者ハ養成ノ課程ヲ修了シタル者ニ付左ニ掲グル事項ヲ遲滞ナク船員養成施設ノ所在地ヲ管轄スル支廳長ニ報告スベシ但シ南洋廳長官ノ指定前ニ養成ノ課程ヲ修了シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 氏 名
- 二 出生ノ年月日
- 三 本 籍
- 四 居住ノ場所
- 五 養成ノ課程ヲ修了シタル年月日

第八條 支廳長ハ必要アリト認ムル場合船長ノ退職認證ノ申請又ハ海員ノ雇止公認ノ申請アリタル際當該船員ヲシテ申告令第四條各號ニ掲グル事項ニ關シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第九條 申告令第二條第二號乃至第四號ニ掲グル船員ガ死亡シタルトキハ死亡ノ際其ノ者ト同居ノ戸主又ハ家族ノ關係ニ在リタル者ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ最寄支廳長ニ報告スベシ但シ船員法第一條ニ規定スル船員ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ申告期限ハ南洋群島船員職業能力申告令施行規則(南洋)・關東州船員職業能力申告規則

關東州國家總動員令ニ於テ依ルコトヲ定メタル國家總動員法第二十一條ノ規定ニ基ク船員ノ職業能力ニ關スル事項ノ

關東州國家總動員令ニ於テ依ルコトヲ定メタル國家總動員法第二十一條ノ規定ニ基ク船員ノ職業能力ニ關スル事項ノ

七一五ノ六

(様式省略)

關東州船員職業能力申告規則

規則

(昭和十四年十二月
關東局令第九號)

關東州國家總動員令ニ於テ依ルコトヲ定メタル國家總動員法第二十一條ノ規定ニ基ク船員ノ職業能力ニ關スル事項ノ

七一五ノ六

(九) 國民職業能力申告令に依る要申告者なりや否

要申告者なり
要申告者に非ず

(三) 備

考

右之通相違無之候也

年 月 日

御 中

申 告 者 氏 名

(裏)

記 載 心 得

一 一般ノ注意事項

(イ) 文字ハ明瞭ニ墨又ハ青インクヲ以テ記載スルコト

(ロ) 誤記シタ事項ハ其ノ上ニ線ヲ引イテ之ヲ抹消シ其ノ傍ニ正シイ文字ヲ記載スルコト

(ハ) 該當シナイ事項及不要ナ箇所ハ其ノ上ニ線ヲ引イテ之ヲ抹消スルコト

二 各項目ノ記載方

(一) 氏 名

氏名ニハ其ノ右側ニ振假名ヲ附ケルコト

(四) 帝國臣民ニ非サルモノニ於テハ民籍又ハ國籍ヲ記入スルコト

(五) 居住ノ場所

平常居住スル場所ヲ記載スルコト

(七) 海技免狀ノ種類及番號

效力ノ制限ヲ加ヘタ海技免狀ハ其ノ種類及番號ヲ記載スルコト

海技免狀ヲ併有スル者ハ其ノ種類及番號ヲ全部併記スルコト

(十三) 學 歴

船員トシテノ學歷ニハ商船學校、水産學校其ノ他養成所等ヲ記載スルコト

其ノ他ノ學歷ニハ右以外ノ最高學歷ヲ記載シ尙試験ニ依リ資格ヲ得タル者ハ夫レニ相當スル學校(例ヘハ專檢、實檢、高檢合格者ハ甲種中等學校卒業トスルカ如シ)ヲ記載スルコト

(十四) 現ニ從業スル業務

(イ) 種 類

勤務者ニ付テハ勤務先及職務名又獨立シテ業務ヲ營ム者ニ付テハ其ノ種類ヲ記載シ尙無職ノ者ハ無職ト記載シ又汽船會社ノ豫備員ハ何々會社豫備員ト記載スルコト

(ロ) 報 酬

獨立シテ業務ヲ營ム者ハ其ノ平均月收額ヲ記載スルコト

手當ハ職務手當、勤続手當ノ如ク支給額ヲ確定セルモノノ合計金額ヲ記載シ尙俸給又ハ給料ノ何割ト記載スルモ妨ケナイコト

(十五) 健 康 狀 況

急性傳染病等ノ如キ一時的疾患ニ因ル故障ハ船内勤務支障ノ理由トナラナイコト

船内勤務支障ノ理由アル場合ハ疾病ニ在リテハ其ノ病名ヲ、不具又ハ精神身體ノ障害ニ在リテハ其ノ不具又ハ障害ノ箇所ヲ記載スルコト

(十六) 配偶者ノ有無及現ニ扶養スル者ノ數

配偶者ハ内縁關係ヲモ含ミ、現ニ扶養スル者ノ數ニハ自己ノ家計ニ依存シテ生活ヲ營ム者ノ數ヲ記載スルコト

(十七) 船内勤務ニ關スル希望

船種ハ汽船、發動機船、旅客船、貨物船等ヲ記載スルコト

特ニ希望スル事項(例ヘハ北米航路、上海航路等)又ハ特ニ希望シナイ事項カアレハ「其ノ他」ニ記載スルコト

(十八) 乘 船 履 歷

海技免狀ヲ有シ船員法ノ適用ヲ受ケナイ船舶ニ乗船シタ者ハ最後ニ乗船シタ船舶ニ付又海技免狀ヲ有シ船員法ノ適用ヲ受ケナイ船舶ニ乗船中ノ者ハ現ニ乗船シ居ル船舶ニ付記載スルコト

關東州船員職業能力申告規則(關東州)

船員手帳受有者ハ下船後三年間ハ乗船履歴ヲ記載スルコトヲ要シナイコト

考

特ニ熟知シテ居ル外國航路又ハ外國港灣アルトキハ之ヲ本欄ニ記載スルコト特殊技能アル者ハ之ヲ本欄ニ記載シテ差支ナイコト

三 本申告ヲ怠リタル者ハ國家總動員法ニ依リ處罰サレルコトカアルカラ注意スルコト

第二號書式 (豎八・五種 横六)

第 號

(表)

船員職業能力検査證票

官職

關東局印
氏

名

(裏)

關東州國家總動員令第一條 關東州ニ於ケル國家總動員ニ關シテハ本令ニ規定スルモノヲ除クノ外國國家總動員法ニ依ル但シ同法第五十條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

國家總動員法第二十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民及帝國臣民ヲ雇傭若ハ使用スル者ヲシテ帝國臣民ノ職業能力ニ關スル事項ヲ申告セシメ又ハ帝國臣民ノ職業能力ニ關シ検査スルコトヲ得

國家總動員法第四十三條 第二十一條ノ規定ニ違反シテ申告ヲ怠リ又ハ検査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

(關東州船員職業能力申告規則ニ於テ依ルコトヲ定メタル船員職業能力申告令及同施行規則抄)

船員職業能力申告令第七條 管海官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該官吏ヲシテ本令ノ申告ヲ爲シタル者ニ就キ其ノ職業能力ニ關シ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

船員職業能力申告令施行規則第五條 管海官廳ハ當該官吏ヲシテ申告令ニ依ル申告ヲ爲シタル者ニ就キ身體、技能其ノ他必要ト認ムル事項ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ在リテハ當該官吏ハ第二號書式ニ依ル證票ヲ携帯スヘシ

第十二章 船員徵用

船員徵用令

(昭和十五年十月
勅令第六百八十七號)

第一條 國家總動員法(昭和十三年勅令第三百十七號)ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同シ) 第四條ノ規定ニ基キ船員職業能力申告令第二條ニ掲クル者(醫療關係者職業能力申告令ニ依リ申告ヲ爲スヘキ者ヲ除ク)ヲ船員トシテ總動員業務タル船舶ノ運航ニ從事セシムル爲ニ徵用シ及國家總動員法第六條ノ規定ニ基キ被徵用者ノ使用又ハ給與其ノ他ノ勞働條件ニ付命令ヲ爲スハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 徵用ハ特別ノ事由アル場合ノ外船員職業紹介所ノ職業紹介其ノ他募集ノ方法ニ依リ所要ノ人員ヲ得ラレサル場合ニ限り之ヲ行フモノトス

第三條 本令ニ依リ徵用スル者ハ命令ヲ以テ定ムル船舶ニ配置セラルルモノトス

第四條 徵用及徵用ノ解除ハ遞信大臣之ヲ行フ

船員徵用令

第五條 船舶所有者ハ徵用ニ依ル船員ノ配置ヲ必要トスルトキハ遞信大臣ニ之ヲ請求又ハ申請スヘシ

第六條 遞信大臣前條ノ規定ニ依ル請求又ハ申請アリタル場合ニ於テ徵用ノ必要アリト認ムルトキハ徵用令書ヲ發シ徵用セラルヘキ者ニ之ヲ交付スヘシ

第七條 徵用令書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ但シ軍機保護上特ニ必要アルトキハ第二號又ハ第三號ニ掲クル事項ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

一 徵用セラルヘキ者ノ氏名、出生ノ年月日、本籍及居住ノ場所(現ニ乗組中ノ者ニ付テハ居住ノ場所ニ代ヘ乗組船舶ノ船名及船舶所有者ノ氏名又ハ名稱)

二 配置セラルル船舶ノ船名及船舶所有者ノ氏名又ハ名稱

三 従事スヘキ職務

四 徵用ノ期間

五 出頭スヘキ日時及場所

六 其ノ他必要ト認ムル事項

第八條 遞信大臣ハ徵用ノ適否其ノ他ヲ判定スル爲必要ナルトキハ徵用セラルヘキ者ニ出頭ヲ求ムルコトヲ得

第九條 徵用令書ノ交付ヲ受ケタル者疾病其ノ他避クヘカラル事故ニ因リ指定ノ日時及場所ニ出頭スルコト能ハサル場合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ遞信大臣ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

前項ノ規定ニ依ル届出アリタル場合ニ於テ遞信大臣必要アリト認ムルトキハ出頭ノ日時若ハ場所ヲ變更シ又ハ其ノ者徵用ニ適セスト認ムルトキハ徵用ヲ取消スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ出頭變更令書又ハ徵用取消令書ヲ發シ其ノ者ニ之ヲ交付スヘシ

第十條 被徵用者ノ配置セラルル船舶ノ船舶所有者被徵用者ノ配置セラルル船舶、從事スル職務又ハ徵用ノ期間ニ付變更ヲ必要トスルトキハ遞信大臣ニ之ヲ請求又ハ申請スヘシ

第十一條 遞信大臣前條ノ規定ニ依ル請求又ハ申請アリタル場合ニ於テ被徵用者ノ配置セラルル船舶、從事スル職務又ハ徵用ノ期間ニ付變更ノ必要アリト認ムルトキハ徵用ノ變更令書ヲ發シ被徵用者ニ之ヲ交付スヘシ同條ノ規定ニ依ル請求又ハ申請ナキ場合ト雖モ遞信大臣被徵用者

ノ配置セラルル船舶、從事スル職務又ハ徵用ノ期間ニ付變更ノ必要アリト認ムルトキ亦同シ

前項後段ノ規定ニ依リ遞信大臣官衙ニ使用セラルル者ニ付徵用變更令書ヲ發セントスルトキハ當該官衙ノ所管大臣ニ協議スヘシ

第十二條 被徵用者ノ配置セラルル船舶ノ船舶所有者被徵用者カ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ職務ニ從事スルニ適セスト認ムルトキ又ハ其ノ者ノ配置ヲ必要トセサルニ至リタルトキハ遞信大臣ニ徵用ノ解除ヲ請求又ハ申請スヘシ被徵用者疾病其ノ他ノ事由ニ因リ職務ニ從事シ難キ場合ニ於テハ官衙ニ使用セラルル者ニ在リテハ當該官衙ノ所管大臣ニ、其ノ他ノ者ニ在リテハ遞信大臣ニ、其ノ旨ヲ届出ツルコトヲ得

第十三條 遞信大臣前條第一項ノ規定ニ依ル請求又ハ申請アリタル場合ニ於テ徵用ノ解除ノ必要アリト認ムルトキハ徵用解除令書ヲ發シ被徵用者ニ之ヲ交付スヘシ同項ノ規定ニ依ル請求又ハ申請ナキ場合ト雖モ遞信大臣徵用ノ解除ノ必要アリト認ムルトキ亦同シ

第十一條第二項ノ規定ハ前項後段ノ規定ニ依リ遞信大臣カ官衙ニ使用セラルル者ニ付徵用解除令書ヲ發セントス

ル場合ニ之ヲ準用ス

第十四條 被徵用者總動員業務タル船舶ノ運航ニ從事スル場合ニ於テハ官衙ニ使用セラルル者ニ在リテハ當該官衙ノ長ノ指揮ヲ受ケ其ノ他ノ者ニ在リテハ船舶所有者ノ指示ニ從フヘシ

第十五條 被徵用者ニ對スル給與ハ其ノ者ノ乘船履歷、技能及職務並ニ配置セラルル船舶ノ航路又ハ就航區域ノ狀況等ニ應シ且從前ノ給料其ノ他ニ之準スヘキ收入ヲ斟酌シテ被徵用者ノ配置セラルル船舶ノ船舶所有者之ヲ支給スルモノトス

被徵用者ニ對スル給與ニ關シ必要ナル事項ハ官衙ニ使用セラルル者ニ關シテハ當該官衙ノ所管大臣遞信大臣ニ協議シテ之ヲ定メ其ノ他ノ者ニ關シテハ船舶所有者遞信大臣ノ認可ヲ受ケテ之ヲ定ムヘシ

第十六條 徵用セラルヘキ者第八條ノ規定ニ依リ出頭スル場合、被徵用者徵用令書ノ交付ヲ受ケ出頭スル場合又ハ徵用ヲ解除セラレ歸郷スル場合ニ於ケル旅費ハ被徵用者ノ配置セラルル船舶ノ船舶所有者之ヲ支給スルモノトス

船員徵用令

前項ノ旅費ニ關シ必要ナル事項ハ官衙ニ使用セラルル者

ニ關シテハ當該官衙ノ所管大臣遞信大臣ニ協議シテ之ヲ定メ其ノ他ノ者ニ關シテハ遞信大臣之ヲ定ム

第十七條 遞信大臣必要アリト認ムルトキハ被徵用者カ官衙ニ使用セラルル場合ヲ除クノ外國家總動員法第六條ノ規定ニ基キ被徵用者ヲ使用スル船舶所有者ニ對シ被徵用者ノ使用又ハ給與其ノ他ノ勞働條件ニ關シ命令ヲ爲スコトヲ得

第十八條 遞信大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ徵用ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基ク報告ヲ徵スルコトヲ得

遞信大臣徵用ニ關シ必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ當該官吏ヲシテ船舶、事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ヲシテ其ノ身分ヲ示ス證據ヲ携帯セシムヘシ

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ徵用セス
一 陸海軍軍人ニシテ現役中ノモノ（未タ入營セサル者ヲ除ク）及召集中ノモノ（召集中ノ身分取扱ヲ受ケル者ヲ含ム）
二 陸海軍學生生徒（海軍豫備練習生及海軍豫備補習生

ヲ含ム)

三 陸海軍軍屬(被徵用者ニシテ之ニ該當スルニ至リタルモノヲ除ク)

四 法令ニ依リ拘禁中ノ者

第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ特別ノ必要アル場合ヲ除クノ外之ヲ徵用セス

一 餘人ヲ以テ代フヘカラサル職ニ在ル官吏、待遇官吏又ハ公吏

二 帝國議會、道府縣會、市町村會其ノ他之ニ準スヘキモノノ議員

三 總動員業務ニ從事スル者ニシテ餘人ヲ以テ代フヘカラサルモノ

第二十一條 本令及本令ニ基キテ發スル命令中船舶所有者ニ關スル規定ハ船舶共有ノ場合ニ在リテ船舶管理人ヲ置キタルトキハ船舶管理人ニ、船舶貸借ノ場合ニ在リテハ船舶借入人ニ之ヲ適用ス

第二十二條 遞信大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ遞信局長ヲシテ徵用ニ關スル事務ノ一部ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十三條 遞信大臣ハ本令ノ施行ニ關スル重要事項ニ付内閣總理大臣ニ協議スヘシ

船員徵用令施行規則

(昭和十五年十月 遞信省令第五十五號)

第一條 船員徵用令(以下令ト稱ス)第三條ノ船舶ハ總噸數五百噸以上ノ船舶トス

第二條 令第五條、令第十條又ハ令第十二條ノ規定ニ依リ國以外ノ船舶所有者ノ爲ス申請ハ第一號書式ニ依リ申請書ヲ遞信大臣ニ提出シテ之ヲ爲スヘシ

第三條 遞信大臣必要アリト認ムルトキハ遞信局長ヲシテ徵用セラルヘキ者ニ出頭ヲ求メシメ徵用ノ適否其ノ他ヲ判定セシムルコトヲ得

第四條 遞信大臣又ハ遞信局長徵用セラルヘキ者ニ出頭ヲ求ムル場合ハ第二號書式ニ依リ出頭要求書ヲ發シ其ノ者ニ之ヲ交付スヘシ

第五條 徵用令書、出頭變更令書、徵用取消令書、徵用變更令書及徵用解除令書ハ第三號書式ニ依ル

第六條 令第九條第一項ノ規定ニ依リ届出ハ左ノ書類ヲ添附シ遞信大臣ニ遲滞ナク之ヲ爲スヘシ

一 疾病傷痕ニ因リ出頭シ難キ場合ニ在リテハ醫師ノ診

船員徵用令施行規則

第二十四條 第二十二條ノ規定ハ樺太及南洋群島ニハ之ヲ適用セス

本令中遞信大臣又ハ當該官衙ノ所管大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ遞信局長トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督府遞信局長、臺灣ニ在リテハ臺灣總督府交通局總長トス

第二十五條 本令ニ規定スルモノノ外本令ニ依ル徵用ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本令ハ昭和十五年十月二十二日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十五年十一月十日ヨリ之ヲ施行ス

斷書(已ムヲ得サル事情ニ因リ醫師ノ診斷書ヲ得ルコト能ハサルトキハ警察官吏ノ證明書)

二 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ出頭シ難キ場合ニ在リテハ其ノ地ノ市町村長(東京市、京都市、大阪市、名古屋市、横濱市及神戸市ニ在リテハ區長)若ハ之ニ準スヘキモノ又ハ警察官吏、船長若ハ驛長ノ證明書

第七條 徵用セラルヘキ者又ハ被徵用者出頭要求書、徵用令書又ハ出頭變更令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ出頭要求書、徵用令書又ハ出頭變更令書ヲ携ヘ指定ノ日時及場所ニ出頭シ當該官吏ニ届出ツヘシ

第八條 遞信大臣徵用變更令書又ハ徵用解除令書ヲ發スル場合ハ被徵用者ノ配置セラルル船舶ノ船舶所有者ニ其ノ旨ヲ通知ス

第九條 令第十五條第二項ノ規定ニ依リ認可ハ第四號書式ニ依リ申請書ヲ遞信大臣ニ提出シテ之ヲ爲スヘシ

第十條 遞信大臣又ハ遞信局長必要アリト認ムルトキハ徵用ニ關シ徵用セラルヘキ者又ハ其ノ者ヲ使用シ若ハ使用シタル者ヨリ報告ヲ徵スルコトヲ得

第十一條 令第十八條第二項ノ證票ハ第五號書式ニ依ル

附 則

本令ハ船員徵用令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

選信大臣宛		船員徵用配置申請書		申請者住所及氏名	
昭和	年	月	日		
船舶番號	第	號	航行區域又ハ從業制限		
船舶種名	船	丸	關機種		
總噸數	噸		公稱馬力		
船舶ノ用途			關機種		
職務員數	數	配置ヲ必要トスル期間	給與ニ關スル事項(豫定)		
計	人				
申請事由			備考		

記載心得
 一 船舶ノ用途欄ニハ旅客船、貨物船、貨客船、油槽船、漁船等ノ區別ヲ記載スルコト
 二 機關ノ種類欄ニハ汽機又ハ發動機ノ別ヲ記載スルコト
 三 給與ニ關スル事項(豫定)欄ニハ配置セラルル被徵用者ヲ處遇セントスル給與ニ關スル事項ヲ成ル可ク詳細ニ記載スルコト
 四 申請事由欄ニハ配置ヲ必要トスル事由ヲ具體的ニ詳細ニ記載スルコト

第一號書式ノ二(用紙ノ大サハ日本標準規格B5)

選信大臣宛		船員徵用變更申請書		申請者住所及氏名	
昭和	年	月	日		
被徵用者氏名	第	號	職		
徵用令書發付番號	第	號	船種船名		
變更更	ノ	内	容		
船舶番號	第	號	船舶ノ用途		
總噸數	噸		關機種		
航行區域又ハ從業制限			公稱馬力		
職務			徵用期間		
申請事由			備考		

記載心得

申請事由欄ニハ配置變更ヲ必要トスル事由ヲ具體的ニ詳細ニ記載スルコト

船員徵用令施行規則

第一號書式ノ三(用紙ノ大サハ日本標準規格B5)

昭和 年 月 日

逓信大臣宛

船員徵用解除申請書

申請者住所及氏名

名 印

第 第 第 第 第 第 第	徵用令書發付番號	船 船 番 號	第	船 員 氏 名	徵 用 年 月 日	職	船 種 船 名	務	申 請 事 由	船 丸
號 號 號 號 號 號 號										
年 年 年 年 年 年 年										
月 月 月 月 月 月 月										
日 日 日 日 日 日 日										

第二號書式(用紙ハ白色、大サハ日本標準規格B5)(表 面)

第 號	出頭要求書發付番號
出頭要求書	
本 籍	
居住ノ場所	
(乗組船舶ノ船名及船舶所有者ノ氏名又ハ名稱)	
氏 名	年 月 日 生
右ノ者船員徵用令第八條ニ依リ左ノ日時及場所ニ出頭ヲ求ム	
出頭スヘキ日時	
出頭スヘキ場所	
備 考	
昭和 年 月 日	
逓信大臣 氏 印	
(逓信局長 氏 印)	

船員徵用令施行規則

(裏面)

出頭要求書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得

出頭要求書ノ交付ヲ受ケタル者ハ該要求書及印章ヲ携ヘ指定ノ日時及場所ニ出頭シ當該官吏ニ届出ツヘシ

(参照)

船員徵用令第八條 遞信大臣ハ徵用ノ適否其ノ他ヲ判定スル爲必要アルトキハ徵用セラルヘキ者ニ出頭ヲ求ムルコトヲ得

船員徵用令施行規則第三條 遞信大臣必要アリト認ムルトキハ遞信局長ヲシテ徵用セラルヘキ者ニ出頭ヲ求メシメ徵用ノ適否其ノ他ヲ判定セシムルコトヲ得

記載心得

- 一 出頭スヘキ場所ハ詳細ニ記載スルモノトス
- 二 備考ハ遞信大臣又ハ遞信局長ニ於テ必要ト認ムル事項ヲ記載スルモノトス
- 三 文字ハ楷書ヲ以テ明瞭ニ記載スルモノトス

第三號書式ノ一 (用紙ハ白色、大サハ日本標準規格B5) (表面)

號 第		號番付發書令用徵				
昭和	年	月	日	備考	徵用令書	右ノ者左ノ通徵用ス
				出頭スヘキ場所	本籍	
				出頭スヘキ日時	居住ノ場所	
				徵用ノ期間	(乗組船舶ノ船名及船舶所有者ノ氏名又ハ名稱)	
				從事スヘキ職務	氏名	
配置セララル船舶ノ船名及船舶所有者ノ氏名又ハ名稱	年	月	日	生	名	

船員徵用令施行規則

(裏面)

徵用令書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得

- 一 徵用令書ノ交付ヲ受ケタル者ハ本令書ヲ携ヘ指定ノ日時及場所ニ出頭シ當該官吏ニ届出ツヘシ
- 二 徵用令書ノ交付ヲ受ケタル者傷痕疾病ニ因リ指定ノ日時及場所ニ出頭シ難キ場合ニ在リテハ醫師ノ診斷書(已ムヲ得サル事情ニ因リ醫師ノ診斷書ヲ得ルコト能ハサルトキハ警察官吏ノ證明書)ヲ添ヘ逕信大臣ニ遅滞ナク届出ツヘシ
- 三 徵用令書ノ交付ヲ受ケタル者天災其ノ他避クヘカサル事故ニ因リ指定ノ日時及場所ニ出頭シ難キ場合ニ在リテハ其ノ地ノ市町村長(東京市、京都市、大阪市、名古屋市、横濱市及神戸市ニ在リテハ區長)ヨリハ之ニ準スヘキモノ又ハ警察官吏、船長若ハ驛長ノ證明書ヲ添ヘ逕信大臣ニ遅滞ナク届出ツヘシ

記載心得

- 一 出頭スヘキ場所ハ詳細ニ記載スルモノトス
- 二 備考ハ逕信大臣ニ於テ必要ト認ムル事項ヲ記載スルモノトス
- 三 文字ハ楷書ヲ以テ明瞭ニ記載スルモノトス

第三號書式ノ二(用紙ハ白色、大サハ日本標準規格B5)
(表面)

日 月 年	徵用令書 日 月 年 付 發	第 號	出頭變更令 號 番 付 發 書	
昭和 年 月 日	備 考	出 頭 變 更 令 書	本 籍	(乗組船舶ノ船名及船舶所有者ノ氏名又ハ名稱)
逕信大臣 氏	名 圖	氏	年 月 日 生	居住ノ場所

右ノ者其ノ出頭スヘキ日時及場所ヲ左ノ通變更ス

船員徵用令施行規則

(裏 面)

出頭變更令書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得

出頭變更令書ノ交付ヲ受ケタル者ハ徵用令書ト共ニ本令書ヲ携ヘ指定ノ日時及場所ニ出頭シ當該官吏ニ届出ツ
ヘシ

記載心得

- 一 本籍及居住ノ場所ハ徵用令書ニ記載シタル本籍及居住ノ場所ヲ記載スルモノトス
- 二 出頭スヘキ場所ハ其ノ所在地及名稱ヲ詳細ニ記載スルモノトス
- 三 備考ハ遞信大臣ニ於テ必要ト認ムル事項ヲ記載スルモノトス
- 四 文字ハ楷書ヲ以テ明瞭ニ記載スルモノトス

第三號書式ノ三 (用紙ハ白色、大サハ日本標準規格B5)

日 月 年	徵 用 令 書 取 番 號	第 號	第 號	徵 用 取 消 令 書	本 籍	氏 名	年 月 日 生 名
昭和 年 月 日	右ノ者其ノ徵用ヲ取消ス		本 籍 居住ノ場所 (乗組船舶ノ船名及船舶所有者ノ氏名又ハ名稱)			氏	年 月 日 生 名
						遞信大臣 氏	
							名 印

記載心得

- 一 本籍及居住ノ場所ハ徵用令書ニ記載シタル本籍及居住ノ場所ヲ記載スルモノトス
- 二 文字ハ楷書ヲ以テ明瞭ニ記載スルモノトス

船員徵用令施行規則

日 月 年	書 令 用 徵 日 月 年 付 發	號 第	令 更 變 用 徵 號 番 付 發 書
昭 和 年 月 日	徵 用 ノ 期 間	從 事 ス ヘ キ 職 務	配 置 セ ラ ル ル 船 舶 ノ 船 名
選 信 大 臣 氏			
名 匱			

右ノ者其ノ何々ヲ左ノ通變更ス

徵 用 變 更 令 書

現ニ配置セラルル船舶
本 籍
居住ノ場所

氏

年 月 日 生 名

記載心得

- 一 本籍及居住ノ場所ハ被徵用者カ指定ノ場所ニ出頭スル前又ハ指定ノ場所ニ出頭シタル場合ニ發スル徵用變更令書ニ限リ之ヲ記載スルモノトシ此ノ場合ハ「現ニ配置セラルル船舶」ハ記載ヲ要セサルモノトス
- 二 不要文字ハ抹消スルモノトス
- 三 備考ハ遞信大臣ニ於テ必要ト認ムル事項ヲ記載スルモノトス
- 四 文字ハ楷書ヲ以テ明瞭ニ記載スルモノトス

第三號書式ノ五(用紙ハ白色、大サハ日本標準規格B5)

徵令付 用書番 除發號	第 號	徵書年 用發月 令付日	日 月 年
徵 用 解 除 令 書		右ノ者 年 月 日 日限り徵用ヲ解除ス	昭和 年 月 日
現ニ配置セラルル船舶			
	氏		氏
			年 月 日 生 名
	遞信大臣 氏		名 印

記載心得
文字ハ楷書ヲ以テ明瞭ニ記載スルモノトス

第四號書式(用紙ノ大サハ日本標準規格B5)

初任給ニ關スル事項	昇給ニ關スル事項	手當ニ關スル事項	賞與ニ關スル事項	其ノ他給與ニ關スル事項	備 考
船員徵用令第十五條第二項ニ依ル給與認可申請書					
遞 信 大 臣 宛		申 請 者 住 所 及 氏 名 印			
昭和 年 月 日					

(表)

第 號	官 氏 名
國家總動員法(船員關係)ニ基ク	
當該官廳印	
官吏臨檢證票	
遞 信 省	
(遞信局又ハ廳府縣)	

(裏)

國家總動員法第三十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

國家總動員法第四十二條 第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ檢査ヲ拒ミ妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

船員徵用旅費規則

(昭和十五年十二月 遞信省令第八十六號)

- 第一條** 船員徵用令第十六條第一項ノ旅費ハ官衙ニ使用セラルル者ニ支給スベキ場合ヲ除クノ外本令ニ依リ之ヲ支給スベシ
- 第二條** 出頭旅費ハ居住地(現ニ乗組中ノ者ニ付テハ出頭要求書、徵用令書又ハ出頭變更令書ノ交付ヲ受ケタルトキノ乗組船舶ノ碇泊港所在地) 出頭ノ場所所在地間ニ付歸郷旅費ハ解除令書ノ交付ヲ受ケタルトキノ乗組船舶ノ碇泊港所在地(現ニ乗組中ニ非ザル者ニ付テハ現ニ居住スル場所所在地) 徵用セラレタルトキノ居住地間ニ付順路ニ依リ之ヲ計算ス但シ已ムヲ得ザル事由ノ爲順路ニ依リ難キ場合ニ於テハ其ノ現ニ經過シタル通路ニ依ル
- 第三條** 旅費ハ鐵道賃、軌道賃、自動車賃、船賃、車馬賃日當、宿泊料及食卓料ノ八種トス
- 鐵道旅行ニハ鐵道賃、軌道旅行ニハ軌道賃、省營自動車旅行ニハ自動車賃、水路旅行ニハ船賃、陸路旅行ニハ車

船員徵用旅費規則

馬賃ヲ支給スベシ

鐵道、軌道、省營自動車又ハ水路ニ依ラザル旅行ハ之ヲ陸路旅行トス

- 第四條** 鐵道賃ハ左ノ區別ニ從ヒ旅客運賃(通行稅ヲ含ム)及急行料金(通行稅ヲ含ム)ニ依リ之ヲ計算ス
- 一 徵用セラレベキ者ニ在リテハ三等ノ運賃
 - 二 被徵用者ニシテ船舶職員ノ職務ニ從事スル者其ノ他之ニ準ズル者ニ在リテハ二等ノ運賃但シ二等車ノ連結ナキ線ニ依ル旅行ニ在リテハ三等ノ運賃
 - 三 被徵用者ニシテ前號ニ掲グル以外ノ者ニ在リテハ三等ノ運賃
 - 四 八十五料以上ノ旅行ニ在リテハ普通急行料金但シ急行料金ヲ徵セザル線路ニ依リ旅行スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ
 - 五 運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分スルモノニ在リテハ第一號及第三號ニ該當スル者ハ下級ノ運賃、第二號ニ該當スル者ハ上級ノ運賃
 - 六 運賃ノ等級ヲ設ケザルモノニ在リテハ其ノ乘車ニ要スル運賃

- 第五條 軌道賃及自動車賃ハ其ノ乗車ニ要スル運賃(通行税ヲ含ム)ニ依リ之ヲ計算ス
- 第六條 船賃ハ旅客運賃(通行税、艀船賃及棧橋賃ヲ含ム)ニ依リ鐵道賃ノ例ニ準ジ之ヲ計算ス
- 第七條 車馬賃、日當、宿泊料及食卓料ハ別表ノ定ムル所ニ從ヒ定額ニ依リ之ヲ計算ス
- 第八條 車馬賃ハ其ノ路程ヲ合算シテ之ヲ計算ス但シ通算上一里未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ切捨トス
- 第九條 日當ハ日數ニ應ジ宿泊料ハ夜數ニ應ジテ之ヲ支給スベシ但シ水路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セズ此ノ場合ニ於テ別ニ食費ヲ要スルトキハ食卓料ヲ支給スベシ
- 第十條 旅費ノ支給ニ關シテハ旅行日數ハ已ムヲ得ザル事由ノ爲要シタル日數ヲ除クノ外鐵道旅行ハ四百料、軌道旅行ハ三百料、省營自動車旅行及水路旅行ハ二百料、陸路旅行ハ十里ニ付一日ノ割當ヲ以テ通算シタル日數ヲ超過スルトコトヲ得ズ但シ一日未滿ノ端數ハ之ヲ一日トス
- 第十一條 旅行中死亡シタルトキハ其ノ居住地ニ到ル旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給スベシ
- 第十二條 旅費ノ支給ヲ受ケントスル者ハ出頭要求書、徵用令書、出頭變更令書又ハ徵用解除令書ヲ提示シテ之ヲ

請求スベシ
第十三條 旅費ヲ請求スルニ當リテハ請求ノ事由ヲ詳具スルノ外必要ナル證明書ヲ添附スベシ
順路ニ依ラザリシ場合、旅行日數ヲ増加シタル場合等ニ於テハ其ノ事由ヲ詳具スルノ外市町村長(東京市、京都市、大阪市、名古屋市、横濱市及神戸市ニ在リテハ區長)若ハ之ニ準ズベキモノ又ハ警察官吏、驛長、船長若ハ醫師等ノ證明書ヲ添附スベシ

附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

旅 費 額	區 別	目 目
車馬賃日當 一里ニ付一日ニ付一夜ニ付	一 二 三	一 二 三
七十五錢	二圓二錢	四圓
九十錢	四圓	六圓
七十五錢	二圓廿錢	四圓二錢
九十錢	四圓	六圓
七十五錢	二圓廿錢	四圓
九十錢	四圓	六圓

船員徵用令施行規則

(昭和十五年十一月)
朝鮮總督府令第二百三十七號

- 第一條 船員徵用令(以下令ト稱ス)第三條ノ船舶ハ總噸數五百噸以上ノ船舶トス
- 第二條 令第五條、令第十條又ハ令第十二條ノ規定ニ依リ圖以外ノ船舶所有者ノ爲ス申請ハ第一號様式ニ依リ申請書ヲ朝鮮總督ニ提出シテ之ヲ爲スベシ
- 第三條 朝鮮總督徵用セラルベキ者ニ出頭ヲ求ムル場合ハ第二號様式ニ依リ出頭要求書ヲ發シ其ノ者ニ之ヲ交付スベシ
- 第四條 徵用令書、出頭變更令書、徵用取消令書、徵用變更令書及徵用解除令書ハ第三號様式ニ依ル
- 第五條 令第九條第一項ノ規定ニ依リ届出ハ左ノ書類ヲ添附シ朝鮮總督ニ送附ナク之ヲ爲スベシ
一 疾病傷痍ニ因リ出頭シ難キ場合ニ在リテハ醫師ノ診斷書(已ムヲ得ザル事情ニ因リ醫師ノ診斷書ヲ得ルコト能ハザルトキハ警察官吏ノ證明書)

船員徵用令施行規則(朝鮮)

二 天災其ノ他避クベカラザル事故ニ因リ出頭シ難キ場合ニ在リテハ其ノ他ノ府尹若ハ邑面長又ハ警察官吏、船長若ハ驛長ノ證明書

- 第六條 徵用セラルベキ者又ハ被徵用者出頭要求書、徵用令書又ハ出頭變更令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ出頭要求書、徵用令書又ハ出頭變更令書ヲ携ヘ指定ノ日時及場所ニ出頭シ當該官吏ニ届出ツベシ
- 第七條 朝鮮總督徵用變更令書又ハ徵用解除令書ヲ發スル場合ハ被徵用者ノ配置セラルル船舶ノ船舶所有者ニ其ノ旨ヲ通知ス
- 第八條 令第十五條第二項ノ規定ニ依リ認可申請ハ第四號様式ニ依リ申請書ヲ朝鮮總督ニ提出シテ之ヲ爲スベシ
- 第九條 朝鮮總督又ハ朝鮮總督府逓信局長必要アリト認ムルトキハ徵用ニ關シ徵用セラルベキ者又ハ其ノ者ヲ使用シ若ハ使用シタル者ヨリ報告ヲ徵スルトコトヲ得
- 第十條 令第十八條第二項ノ證明書ハ第五號様式ニ依ル
- 第十一條 令及本令ノ規定ニ依リ朝鮮總督ニ提出スベキ書類ハ明治四十三年朝鮮總督府令第五號ノ規定ニ拘ラズ朝鮮總督府逓信局長ヲ經由スベシ

附 則

本令ハ昭和十五年十一月十日ヨリ之ヲ施行ス

(様式省略)

船員徴用令施行規則

(昭和十五年十一月 臺灣總督府令第六十四號)

- 第一條 船員徴用令(以下令ト稱ス)第三條ノ船舶ハ總噸數五百噸以下ノ船舶トス
- 第二條 令第五條、令第十條又ハ令第十二條ノ規定ニ依リ國以外ノ船舶所有者ノ爲メ申請ハ別記第一號様式ニ依リ申請書ヲ臺灣總督ニ提出シテ之ヲ爲スベシ
- 第三條 臺灣總督必要アリト認ムルトキハ交通局總長ヲシテ徴用セラルベキ者ニ出頭ヲ求メシメ徴用ノ適否其ノ他ヲ判定セシムルコトヲ得
- 第四條 臺灣總督又ハ交通局總長徴用セラルベキ者ニ出頭ヲ求ムル場合ハ別記第二號様式ニ依リ出頭要求書ヲ發シ其ノ者ニ之ヲ交付スベシ
- 第五條 徴用令書、出頭變更令書、徴用取消令書、徴用變

更令書及徴用解除令書ハ別記第三號様式ニ依ル

- 第六條 令第九條第一項ノ規定ニ依リ届出ハ左ニ掲グル書類ヲ添附シ臺灣總督ニ遲滞ナク之ヲ爲スベシ
 - 一 疾病傷痕ニ因リ出頭シ難キ場合ニ在リテハ醫師ノ診斷書(已ムヲ得ザル事情ニ因リ醫師ノ診斷書ヲ得ルコト能ハザルトキハ警察官吏ノ證明書)
 - 二 天災其ノ他避クベカラザル事故ニ因リ出頭シ難キ場合ニ在リテハ其ノ地ノ市街庄長、警察官吏又ハ船長若ハ驛長ノ證明書
- 第七條 徴用セラルベキ者又ハ被徴用者出頭要求書、徴用令書又ハ出頭變更令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ出頭要求書、徴用令書又ハ出頭變更令書ヲ携ヘ指定ノ日時及場所ニ出頭シ當該官吏ニ届出ヅベシ
- 第八條 臺灣總督徴用變更令書又ハ徴用解除令書ヲ發スル場合ハ被徴用者ノ配置セラルル船舶ノ船舶所有者ニ其ノ旨ヲ通知ス
- 第九條 令第十五條第二項ノ規定ニ依リ認可ハ別記第四號様式ニ依リ申請書ヲ臺灣總督ニ提出シテ之ヲ爲スベシ
- 第十條 臺灣總督又ハ交通局總長必要アリト認ムルトキハ徴用ニ關シ徴用セラルベキ者又ハ其ノ者ヲ使用シ若ハ使

用シタル者ヨリ報告ヲ徵スルコトヲ得

- 第十一條 本令ニ依リ臺灣總督ニ提出スベキ書類ハ交通局總長ヲ經山スベシ
- 第十二條 令第十八條第二項ノ證票ハ別記第五號様式ニ依ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記様式省略)

船員徴用令施行規則

(昭和十五年十一月 樺太廳令第二百一十一號)

- 第一條 船員徴用令(以下令ト稱ス)第三條ノ船舶ハ總噸數五百噸以上ノ船舶トス
- 第二條 令第五條、第十條又ハ第十二條ノ規定ニ依リ國以外ノ船舶所有者ノ爲メ申請ハ第一號様式ニ依リ申請書ヲ樺太廳長官ニ提出シテ之ヲ爲スベシ
- 第三條 樺太廳長官徴用セラルベキ者ニ出頭ヲ求ムル場合ハ第二號様式ニ依リ出頭要求書ヲ發シ其ノ者ニ之ヲ交付

船員徴用令施行規則(臺灣)・船員徴用令施行規則(樺太)

スベシ

- 第四條 徴用令書、出頭變更令書、徴用取消令書、徴用變更令書及徴用解除令書ハ第三號様式ニ依ル
- 第五條 令第九條第一項ノ規定ニ依リ届出ハ左ノ書類ヲ添附シ樺太廳長官ニ遲滞ナク之ヲ爲スベシ
 - 一 疾病傷痕ニ因リ出頭シ難キ場合ニ在リテハ醫師ノ診斷書(已ムヲ得ザル事情ニ因リ醫師ノ診斷書ヲ得ルコト能ハザルトキハ警察官吏ノ證明書)
 - 二 天災其ノ他避クベカラザル事故ニ因リ出頭シ難キ場合ニ在リテハ其ノ地ノ市町村長又ハ警察官吏、船長若ハ驛長ノ證明書
- 第六條 徴用セラルベキモノ又ハ被徴用者出頭要求書、徴用令書又ハ出頭變更令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ出頭要求書徴用令書又ハ出頭變更令書ヲ携ヘ指定ノ日時及場所ニ出頭シ當該官吏ニ届出ヅベシ
- 第七條 樺太廳長官徴用變更令書又ハ徴用解除令書ヲ發スル場合ハ被徴用者ノ配置セラルル船舶ノ船舶所有者ニ其ノ旨ヲ通知ス
- 第八條 令第十五條第二項ノ規定ニ依リ認可ハ第四號様式ニ依リ申請書ヲ樺太廳長官ニ提出シテ之ヲ爲スベシ

第九條 樺太廳長官必要アリト認ムルトキハ徵用ニ關シ徵用セラルベキ者又ハ其ノ者ヲ使用シ若ハ使用シタル者ヨリ報告ヲ徵スルコトヲ得

第十條 令第十八條第二項ノ證票ハ第五號様式ニ依ル

附 則

本令ハ船員徵用令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(様式省略)

第十三章 國際條約

海員ニ對スル職業紹介所 設置ニ關スル條約

(大正十一年十一月二十三日
條約 第七號)

國際聯盟ノ國際勞働機關ノ總會ハ

國際勞働事務局ノ理事會ニ依リ千九百二十年六月十五日

「ゼノア」ニ招集セラレ

右「ゼノア」總會ノ會議事項ノ第二項目タル「雇入契約ノ監督、海員ニ對スル職業紹介、客年十一月華盛頓ニ於テ採擇セラレタル失業及失業保險ニ關スル條約及勸告ノ海員ニ對スル適用」ニ關スル提案ノ採擇ヲ決議シ且該提案ハ國際條約案ノ形式ニ依ルヘキモノナルコトヲ決定シ

國際勞働機關ノ締盟國ニ依リ批准セララルルカ爲千九百十九年六月二十八日ノ「ヴェルサイユ」條約、千九百十九年九月十日ノ「サン、ジェルマン」條約、千九百十九年十一月

海員ニ對スル職業紹介所設置ニ關スル條約

二十七日ノ「マイイール」條約及千九百二十年六月四日ノ「グラン、トリアノン」條約ノ勞働編ノ規定ニ從ヒ左ノ條約案ヲ採擇ス

第一條 (海員ノ定義)

本條約ニ於テ「海員」ト稱スルハ海洋航行ニ從事スル船舶ノ乗組員トシテ使用セラルル一切ノ者ヲ包含ス但シ職員ハ之ヲ除ク

第二條 (海員職業紹介)

海員ニ對スル職業紹介業ハ個人、會社其ノ他ノ紹介所ニ依リ營利ヲ目的トスル業務トシテ經營セラルルコトヲ得ス又個人、會社其ノ他ノ紹介所ハ船舶ノ海員ノ職業紹介ニ付直接ニ又ハ間接ニ何等ノ手数料ヲ課スルコトヲ得ス各國ハ法令ヲ以テ本條ノ規定ノ違反ニ對スル罰則ヲ定ムヘシ

第三條 (營利目的ノ職業紹介廢止)

營利ヲ目的トスル業務トシテ海員ノ職業紹介業ヲ現ニ經營スル個人、會社其ノ他ノ紹介所ハ第二條ノ規定ニ拘ラス政

府ノ免許ノ下ニ其ノ業務ヲ一時繼續スルコトヲ得但シ右ノ
事業ハ一切ノ關係人ノ權利ヲ保護スル爲政府ノ監督ノ下ニ
經營セラルモノトス

本條約ヲ批准スル各締盟國ハ營利ヲ目的トスル業務タル海
員職業紹介業ヲ能ク限リ速ニ廢止スル爲實行シ得ヘキ一切
ノ措置ヲ執ルコトヲ約ス

第四條 (無料職業紹介所)

本條約ヲ批准スル各締盟國ハ海員ニ對スル公ノ無料職業紹
介所ノ有效且適切ナル制度ヲ組織シ且維持スヘキコトヲ約
ス右ノ制度ハ

(一) 中央官廳ノ監督ノ下ニ協同スル船舶所有者及海員
ノ代表團體ニ依リ又ハ

(二) 右ノ協同行爲ナキトキハ國自身ニ依リ
組織シ且維持セラルルコトヲ得

一切ノ右職業紹介所ノ事業ハ海事ノ實地經驗ヲ有スル者ニ
依リ管理セラルヘシ

右ノ各種ノ職業紹介所併存スル場合ニ於テハ國ノ基底ニ於
テ之ヲ調整スル爲ノ措置ヲ執ルヘシ

第五條 (職業紹介委員會)

前記紹介所ノ經營ニ關スル事項ニ付助言セシムル爲船舶所

有者及海員ノ同數ノ代表者ヨリ成ル委員會ヲ組織スヘシ各
國政府ハ右委員會ノ權能ヲ明確ニスル爲殊ニ右ノ委員外ヨ
リノ議長ノ選定、國ノ監督ノ程度及右委員會カ海員ノ幸福
ニ付利害關係ヲ有スル者ヨリ得ヘキ助力ニ關シ規定ヲ設ク
ルコトヲ得

第六條 (船舶並乗組員選擇ノ自由)

海員ノ職業紹介ニ關シ海員ハ船舶選擇ノ自由ヲ確保セラル
ヘク船舶所有者ハ乗組員選擇ノ自由ヲ確保セラルヘシ

第七條 (雇入契約)

雇入契約中ニハ一切ノ關係當事者ヲ保護スルカ爲必要ナル
保障ヲ包含スヘク且海員ハ署名ノ前及後ニ於テ右契約ヲ查
閱スル爲相當ノ便宜ヲ確保セラルヘシ

第八條 (他國海員)

本條約ヲ批准スル各締盟國ハ本條約ヲ批准シタル一切ノ國
ニシテ其ノ産業狀態ノ略同様ナルモノニ屬スル海員ヲシテ
本條約所定ノ海員職業紹介施設ヲ(必要アルトキハ官公署
ヲ介シテ)利用セシムル爲ノ措置ヲ執ルヘシ

第九條 (職員)

各國ハ甲板部職員及機關部職員ニ關シ本條約ノ規定ト同様
ノ規定ヲ採用スルヤ否ヤ各自決定スヘシ

第十條 (統計及情報)

本條約ヲ批准スル各締盟國ハ海員ノ失業及職業紹介所ノ事
業ニ關スル統計其ノ他ノ調達シ得ヘキ一切ノ情報ヲ國際勞
働事務局ニ通告スヘシ

國際労働事務局ハ各國ノ政府又ハ關係團體ト協定ノ上各種
ノ各國海員職業紹介所ノ調整ヲ確保スルノ措置ヲ執ルヘシ

第十一條 (殖民地等ニ適用スル場合)

本條約ヲ批准スル國際労働機關ノ各締盟國ハ其ノ殖民地、
保護國及屬地ニシテ完全ナル自治ヲ有セサルモノニ左ノ條
件ノ下ニ適用スルコトヲ約ス

(イ) 其ノ規定カ土地ノ狀況ニ照シ適用不可能ニ非サル
コト

(ロ) 其ノ規定ヲ土地ノ狀況ニ適應セシムル爲必要ナル
變更ヲ加フルコト

各締盟國ハ其ノ殖民地、保護國及屬地ニシテ完全ナル自治
ヲ有セサルモノニ付其ノ執リタル措置ヲ國際労働事務局ニ
通告スヘシ

第十二條 (批准登錄)

千九百十九年六月二十八日ノ「ヴェルサイユ」條約、千九
百十九年九月十日ノ「サンジェルマン」條約、千九百十九

海員ニ對スル職業紹介所設置ニ關スル條約

年十一月二十七日ノ「ヌイイー」條約及千九百二十年六月
四日ノ「グラン、トリアノン」條約ノ第十三編ニ定ムル條
件ニ依ル本條約ノ正式批准ハ登錄ノ爲國際聯盟事務局ニ
之ヲ通告スヘシ

第十三條 (批准登錄ノ通告)

國際労働機關ノ締盟國中ノ二國カ國際聯盟事務局ニ本條約
ノ批准ノ登錄ヲ爲シタルトキハ事務局總長ハ國際労働機關ノ
一切ノ締盟國ニ右ノ旨ヲ通告スヘシ

第十四條 (本條約ノ效力發生期)

本條約ハ國際聯盟事務局總長カ前條ノ通告ヲ發シタル日ヨリ
效力ヲ發生スヘク且該事務局ニ其ノ批准ヲ登錄シタル締盟
國ノミヲ拘束スヘシ爾後本條約ハ他ノ何レノ締盟國ニ付テ
モ右事務局ニ其ノ批准ヲ登錄シタル日ヨリ效力ヲ發生スル
モノトス

第十五條 (各締盟國ノ執ルヘキ措置)

本條約ヲ批准スル各締盟國ハ千九百二十二年七月一日迄ニ
其ノ規定ヲ實施シ且右規定ヲ實施スルニ必要ナルヘキ措置
ヲ執ルコトヲ約ス尤モ第十四條ノ規定ニ從フモノトス

第十六條 (本條約ノ廢棄)

本條約ヲ批准シタル締盟國ハ本條約ノ最初ノ效力發生ノ日

ヨリ五年ノ期間満了後ニ於テ國際聯盟事務總長宛登錄ノ爲
ニスル通告ニ依リ之ヲ廢棄スルコトヲ得右ノ廢棄ハ該事務
局ニ登錄アリタル日以後一年間ハ其ノ效力ヲ生セス

第十七條 (本條約實施ニ關スル報告)

國際勞働事務局ノ理事會ハ少クトモ十年ニ一回本條約ノ施
行ニ關スル報告ヲ總會ニ提出スヘク且其ノ改正又ハ變更ニ
關スル問題ヲ總會ノ會議事項ニ掲クヘキヤ否ヤヲ審議スヘ
シ

第十八條 (用語)

本條約ハ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ共ニ正文トス

海上ニ使用シ得ル兒童ノ
最低年齢ヲ定ムル條約

(大正十三年八月
條約第七號)

國際聯盟ノ國際勞働機關ノ總會ハ

國際勞働事務局ノ理事會ニ依リ千九百二十年六月十五日

「ゼノア」ニ招集セラレ

右「ゼノア」總會ノ會議事項ノ第三項目タル「客年十一

月華盛頓ニ於テ採擇セラレタル十四歳未満ノ兒童ノ使用
ヲ禁止スル條約案ノ海員ニ對スル適用」ニ關スル提案ノ
採擇ヲ決議シ且
該提案ハ國際條約案ノ形式ニ依ルヘキモノナルコトヲ決
定シ

國際勞働機關ノ締盟國ニ依リ批准セラルルカ爲千九百十九
年六月二十八日ノ「ヴェルサイユ」條約、千九百十九年九
月十日ノ「サン、ジェルマン」條約、千九百十九年十一月
二十七日ノ「マイイー」條約及千九百二十年六月四日ノ「
گران、トリアノン」條約ノ勞働編ノ規定ニ從ヒ左ノ條約
案ヲ採擇ス

第一條 本條約ニ於テ「船舶」ト稱スルハ其ノ公有タルト
私有タルトヲ問ハス海洋航行ニ從事スル各種ノ船舶舟艇
總テ包含ス但シ軍艦ハ之ヲ除ク

第二條 十四歳未満ノ兒童ハ同一ノ家ニ屬スル者ノミヲ使
用スル船舶ヲ除クノ外船舶ニ於テ使用セラレ又ハ勞働ス
ルコトヲ得ス

第三條 第二條ノ規定ハ學校船又ハ練習船ニ於ケル兒童ノ
爲ス勞働ニ之ヲ適用セス但シ此ノ種ノ勞働ハ公ノ機關ノ
承認ヲ得且其ノ監督ヲ受クヘキモノトス

第四條 本條約ノ規定ノ實行ヲ容易ナラシムル爲各船長ハ

其ノ船舶ニ於テ使用スル十六歳未満ノ一切ノ者及其ノ出
生ノ日ヲ記載シタル帳簿又ハ海員名簿ヲ備付クルコトヲ
要ス

第五條 本條約ヲ批准スル國際勞働機關ノ各締盟國ハ其ノ
殖民地、保護國及屬地ニシテ完全ナル自治ヲ有セサルモ
ノニ左ノ條件ノ下ニ之ヲ適用スルコトヲ約ス

(イ) 其ノ規定カ土地ノ狀況ニ照シ適用不可能ニ非サル
コト
(ロ) 其ノ規定ヲ土地ノ狀況ニ適應セシムル爲必要ナル
變更ヲ加フルコト

各締盟國ハ其ノ殖民地、保護國及屬地ニシテ完全ナル自
治ヲ有セサルモノニ付其ノ執リタル措置ヲ國際勞働事務
局ニ通告スヘシ

第六條 千九百十九年六月二十八日ノ「ヴェルサイユ」條
約、千九百十九年九月十日ノ「サン、ジェルマン」條約
千九百十九年十一月二十七日ノ「マイイー」條約及千九
百二十年六月四日ノ「گران、トリアノン」條約ノ第十
三編ニ定ムル條件ニ依ル本條約ノ正式批准ハ登錄ノ爲國
際聯盟事務總長ニ之ヲ通告スヘシ

海上ニ使用シ得ル兒童ノ最低年齢ヲ定ムル條約

第七條 國際勞働機關ノ締盟國中ノ二國カ國際聯盟事務局

ニ本條約ノ批准ノ登錄ヲ爲シタルトキハ事務總長ハ國際
勞働機關ノ一切ノ締盟國ニ右ノ旨ヲ通告スヘシ

第八條 本條約ハ國際聯盟事務總長カ前條ノ通告ヲ發シタ
ル日ヨリ效力ヲ發生スヘク且該事務局ニ其ノ批准ヲ登錄
シタル締盟國ノミヲ拘束スヘシ爾後本條約ハ他ノ何レノ
締盟國ニ付テモ右事務局ニ其ノ批准ヲ登錄シタル日ヨリ
效力ヲ發生スルモノトス

第九條 本條約ヲ批准スル各締盟國ハ千九百二十二年七月
一日迄ニ其ノ規定ヲ實施シ且右規定ヲ實施スルニ必要ナ
ルヘキ措置ヲ執ルコトヲ約ス尤モ第八條ノ規定ニ從フモ
ノトス

第十條 本條約ヲ批准シタル締盟國ハ本條約ノ最初ノ效力
發生ノ日ヨリ十年ノ期間満了後ニ於テ國際聯盟事務總長
宛登錄ノ爲ニスル通告ニ依リ之ヲ廢棄スルコトヲ得右ノ
廢棄ハ該事務局ニ登錄アリタル日以後一年間ハ其效力ヲ
生セス

第十一條 國際勞働事務局ノ理事會ハ少クトモ十年ニ一回
本條約ノ施行ニ關スル報告ヲ總會ニ提出スヘク且其ノ改
正又ハ變更ニ關スル問題ヲ總會ノ會議事項ニ掲クヘキヤ

否ヤヲ審議スヘシ
第十二條 本條約ハ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ共ニ
正文トス

海上ニ使用セラルル兒童 及年少者ノ強制體格検査 ニ關スル條約

(大正十三年八月)
條約第八號

國際聯盟ノ國際勞働機關ノ總會ハ

國際勞働事務局ノ理事會ニ依リ「ジュネーヴ」ニ招集セ
ラレ千九百二十一年十月二十五日ヲ以テ其ノ第三回會議
ヲ開催シ
右會議ノ會議事項ノ第八項目ノ一部タル海上ニ使用セラ
ルル兒童及年少者ノ強制體格検査ニ關スル提案ノ採擇ヲ
決議シ且
該提案ハ國際條約案ノ形式ニ依ルヘキモノナルコトヲ決
定シ

國際勞働機關ノ締盟國ニ依リ批准セラルル爲「ヴェルサイ
ユ」條約ノ第十三編及他ノ平和諸條約ノ對當編ノ規定ニ從
ヒ左ノ條約案ヲ採擇ス

第一條 本條約ニ於テ「船舶」ト稱スルハ其ノ公有タルト
私有タルトヲ問ハス海洋航行ニ從事スル各種ノ船舶舟艇
ヲ總テ包含ス但シ軍艦ハ之ヲ除ク
第二條 同一ノ家ニ屬スル者ノミヲ使用スル船舶ニ於ケル
場合ヲ除クノ外兒童又ハ十八歳未満ノ年少者ハ其ノ船舶
内勞働ニ適スルコトヲ證明シ且權限アル機關ノ承認スル
醫師ノ署名シタル健康證明書ヲ提出アルニ非サレハ之ヲ
斯ル勞働ニ使用スルコトヲ得ス
第三條 右ノ兒童又ハ年少者ハ一年ヲ超エサル期間内ニ右
體格検査ノ更新アリ且新検査毎ニ其ノ海上勞働ニ適スル
コトヲ證明スル健康證明書ヲ提出スルニ非サレハ之ヲ斯
ル勞働ニ繼續使用スルコトヲ得ス健康證明書ノ有効期間
カ航海中滿了スルトキハ右證明書ハ該航海ノ終了迄效力
ヲ存スヘシ
第四條 緊急ナル場合ニ於テハ權限アル機關ハ十八歳未満
ノ年少者カ第二條及第三條ノ定ムル検査ヲ受ケスシテ乘
組ムコトヲ許容スルコトヲ得但シ當該船舶ノ寄港スル最

初ノ港ニ於テ右検査ヲ受クルコトヲ要ス

第五條 「ヴェルサイユ」條約ノ第十三編及他ノ平和諸條
約ノ對當編ニ定ムル條件ニ依ル本條約ノ正式批准ハ登録
ノ爲國際聯盟事務總長ニ之ヲ通告スヘシ

第六條 本條約ハ事務總長カ國際勞働機關ノ締盟國中ノ二
國ノ批准ヲ登録シタル日ヨリ效力ヲ發生スヘシ
本條約ハ該事務局ニ其ノ批准ヲ登録シタル締盟國ノミヲ
拘束スヘシ
爾後本條約ハ他ノ何レノ締盟國ニ付テモ右事務局ニ其ノ
批准ヲ登録シタル日ヨリ效力ヲ發生スルモノトス

第七條 國際勞働機關ノ締盟國中ノ二國カ國際聯盟事務局
ニ本條約ノ批准ヲ登録ヲ爲シタルトキハ事務總長ハ國際
勞働機關ノ一切ノ締盟國ニ右ノ旨ヲ通告スヘシ事務總長
ハ爾後該機關ノ他ノ締盟國ノ通告シタル批准ノ登録ヲ一
切ノ締盟國ニ同様ニ通告スヘシ

第八條 本條約ヲ批准スル各締盟國ハ千九百二十四年一月
一日迄ニ第一條、第二條、第三條及第四條ノ規定ヲ實施
シ且右規定ヲ實施スルニ必要ナルヘキ措置ヲ執ルコトヲ
約ス尤モ第六條ノ規定ニ從フモノトス

第九條 本條約ヲ批准スル國際勞働機關ノ各締盟國ハ「ヴ
海上ニ使用セラルル兒童及年少者ノ強制體格検査ニ關スル條約

エルサイユ」條約ノ第四百二十一條ノ規定及他ノ平和諸
條約ノ對當條項ノ規定ニ依リ其ノ殖民地、屬地及保護國
ニ之ヲ適用スルコトヲ約ス

第十條 本條約ヲ批准シタル締盟國ハ本條約ノ最初ノ效力
發生ノ日ヨリ十年ノ期間滿了後ニ於テ國際聯盟事務總長
宛登録ノ爲ニスル通告ニ依リ之ヲ廢棄スルコトヲ得右ノ
廢棄ハ該事務局ニ登録アリタリ日以後一年間ハ其ノ效力
ヲ生セス

第十一條 國際勞働事務局ノ理事會ハ少クトモ十年ニ一回
本條約ノ施行ニ關スル報告ヲ總會ニ提出スヘク且其ノ改
正又ハ變更ニ關スル問題ヲ總會ノ會議事項ニ掲クヘキヤ
否ヤヲ審議スヘシ

第十二條 本條約ハ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ共ニ
正文トス

石炭夫又ハ火夫トシテ使 用シ得ル年少者ノ最低年 齡ヲ定ムル條約

(昭和五年十二月
條約第十號)

國際聯盟ノ國際勞働機關ノ總會ハ

國際勞働事務局ノ理事會ニ依リ「ジュネーヴ」ニ招集セ
ラレ千九百二十一年十月二十五日ヲ以テ其ノ第三回會議
ヲ開催シ

右會議ノ會議事項ノ第八項目ノ一部タル十八歳未満ノ者
ノ石炭夫又ハ火夫トシテノ使用ノ禁止ニ關スル提案ノ採
擇ヲ決議シ且

該提案ハ國際條約案ノ形式ニ依ルヘキモノナルコトヲ決
定シ

國際勞働機關ノ締盟國ニ依リ批准セララルルカ爲「ヴェルサ
イユ」條約ノ第十三編及他ノ平和諸條約ノ對當編ノ規定ニ
從ヒ左ノ條約案ヲ採擇ス

ヲ要ス右年少者ハ少クトモ十六歳タルヘシ

第五條 本條約ノ規定ノ實行ヲ容易ナラシムル爲各船長ハ
其ノ船舶ニ於テ使用スル十八歳未満ノ一切ノ者及其ノ出
生ノ日ヲ記載シタル帳簿又ハ海員名簿ヲ備付クルコトヲ
要ス

第六條 乗組員ノ雇入契約ニハ本條約ノ規定ノ要綱ヲ記載
スヘシ

第七條 「ヴェルサイユ」條約ノ第十三編及他ノ平和諸條
約ノ對當編ニ定ムル條件ニ依ル本條約ノ正式批准ハ登錄
ノ爲國際聯盟事務總長ニ之ヲ通告スヘシ

第八條 本條約ハ事務總長カ國際勞働機關ノ締盟國中ノ二
國ノ批准ヲ登錄シタル日ヨリ效力ヲ發生スヘシ
本條約ハ該事務局ニ其ノ批准ヲ登錄シタル締盟國ノミヲ
拘束スヘシ

爾後本條約ハ他ノ何レノ締盟國ニ付テモ右事務局ニ其ノ
批准ヲ登錄シタル日ヨリ效力ヲ發生スルモノトス

第九條 國際勞働機關ノ締盟國中ノ二國カ國際聯盟事務局
ニ本條約ノ批准ノ登錄ヲ爲シタルトキハ事務總長ハ國際
勞働機關ノ一切ノ締盟國ニ右ノ旨ヲ通告スヘシ事務總長
ハ爾後該機關ノ他ノ締盟國ノ通告シタル批准ノ登錄ヲ一

石炭夫又ハ火夫トシテ使用シ得ル年少者ノ最低年齡ヲ定ムル條約

第一條 本條約ニ於テ「船舶」ト稱スルハ其ノ公有タルト
私有タルトヲ問ハス海洋航行ニ從事スル各種ノ船舶舟艇
ヲ總テ包含ス但シ軍艦ハ之ヲ除ク

第二條 十八歳未満ノ年少者ハ船舶ニ於テ石炭夫又ハ火夫
トシテ使用セラレ又ハ勞働スルコトヲ得ス

第三條 第二條ノ規定ハ左ニ付之ヲ適用セス

(イ) 學校船又ハ練習船ニ於ケル年少者ノ爲ス勞働但シ
此ノ種ノ勞働ハ公ノ機關ノ承認ヲ得且其ノ監督ヲ受ク
ヘキモノトス

(ロ) 蒸汽以外ノモノニ依リ主トシテ推進スル船舶ニ於
ケル年少者ノ使用

(ハ) 十六歳以上ノ年少者ニシテ體格検査ニ合格シ印度
及日本ノ沿岸貿易ニ専ラ從事スル船舶ニ石炭夫又ハ火
夫トシテ使用セララルモノ尤モ右二國ニ於ケル最代表
的ナル使用者團體及勞働者團體ト協議ノ上定メラルル
規則ニ從フヘキモノトス

第四條 十八歳未満ノ年少者ニ非サレハ石炭夫又ハ火夫ト
シテ雇入レ難キ港ニ於テ之ヲ必要トスルトキハ右年少者
ト雖使用スルコトヲ得ヘク且右ノ場合ニ於テハ必要ナル
石炭夫又ハ火夫一名ニ代ヘテ年少者二名ヲ雇備スルコト

切ノ締盟國ニ同様ニ通告スヘシ

第十條 本條約ヲ批准スル締盟國ハ千九百二十四年一月一
日迄ニ第一條、第二條、第三條、第四條、第五條及第六
條ノ規定ヲ實施シ且右規定ヲ實施スルニ必要ナルヘキ措
置ヲ執ルコトヲ約ス尤モ第八條ノ規定ニ從フモノトス

第十一條 本條約ヲ批准スル國際勞働機關ノ各締盟國ハ「
ヴェルサイユ」條約ノ第四百二十一條ノ規定及他ノ平和
諸條約ノ對當條項ノ規定ニ依リ其ノ殖民地、屬地及保護
國ニ之ヲ適用スルコトヲ約ス

第十二條 本條約ヲ批准シタル締盟國ハ本條約ノ最初ノ效
力發生ノ日ヨリ十年ノ期間滿了後ニ於テ國際聯盟事務局
長宛登錄ノ爲ニスル通告ニ依リ之ヲ廢棄スルコトヲ得右
ノ廢棄ハ該事務局ニ登錄アリタル日以後一年間ハ其ノ效
力ヲ生セス

第十三條 國際勞働事務局ノ理事會ハ少クトモ十年ニ一回
本條約ノ施行ニ關スル報告ヲ總會ニ提出スヘク且其ノ改
正又ハ變更ニ關スル問題ヲ總會ノ會議事項ニ掲クヘキヤ
否ヤヲ審議スヘシ

第十四條 本條約ハ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ共ニ
正文トス

船舶ノ減失又ハ沈没ノ場合ニ於ケル失業ノ補償ニ關スル條約案

(大正九年第二回國際勞働總會採擇未批准)

第一條 本條約ニ於テ「海員」ト稱スルハ海洋航行ニ從事スル船舶ニ使用セラレル一切ノ者ヲ包含ス
本條約ニ於テ「船舶」ト稱スルハ其ノ公有タルト私有タルトヲ問ハス海洋航行ニ從事スル各種ノ船舶舟艇ヲ總テ包含ス但シ軍艦ハ之ヲ除ク

第二條 船舶ノ減失又ハ沈没ノ場合ニ於テハ船舶所有者其ノ他ノ者ニシテ海員カ之ト船舶内ノ服役ヲ契約シタルモノハ當該船舶ノ減失又ハ沈没ヨリ生スル失業ニ對シ右船舶ニ使用セラレタル各海員ニ補償金ヲ支拂フヘシ
右ノ補償金ハ契約ニ依リ支拂ハルヘキ實銀ト同率ヲ以テ海員實際ノ失業中ノ日數ニ付之ヲ支拂フヘシ尤モ一人ノ海員ニ對シ本條約ニ基キ支拂ハルヘキ全補償金額ハ二月

海員ノ雇入契約ニ關スル條約案

(大正十五年第九回國際勞働總會採擇未批准)

第一條 本條約ハ本條約ヲ批准スル締盟國ニ於テ登録セラレタル一切ノ航海船舶並ニ右船舶ノ所有者、船長及海員ニ之ヲ適用ス
本條約ハ左ニ之ヲ適用セス

軍艦

商業ニ從事セサル政府ノ船舶

沿岸貿易ニ從事スル船舶

娛樂用「ヨット」

「インディアン、カントリ、クラフト」

漁船

總噸數百噸未滿若ハ三百立方メートル未滿ノ船舶又ハ「ホーム、トレード」ニ從事スル船舶ニシテ本條約採擇ノ日ニ於テ右船舶ノ特別規律ノ爲國內法ニ依リ定メラルル制限噸數未滿ノモノ

船舶ノ減失又ハ沈没ノ場合ニ於ケル失業ノ補償ニ關スル條約案・海員ノ雇入契約ニ關スル條約案

分ノ賃銀ニ之ヲ制限スルコトヲ得

第三條 海員ハ右補償金ノ請求ニ付テハ其ノ服役期間ニ對スル賃銀ノ延滞額ノ請求ニ付有スルト同一ノ救済ヲ有スヘシ

第四條 本條約ヲ批准スル國際勞働機關ノ各締盟國ハ其ノ殖民地、保護國及屬地ニシテ完全ナル自治ヲ有セサルモノニ左ノ條件ノ下ニ之ヲ適用スルコトヲ約ス
(イ) 其ノ規定カ土地ノ狀況ニ照シ適用不可能ニ非サルコト

(ロ) 其ノ規定ヲ土地ノ狀況ニ適應セシムル爲必要ナル變更ヲ加フルコト

各締盟國ハ其ノ殖民地、保護國及屬地ニシテ完全ナル自治ヲ有セサルモノニ付其ノ執リタル措置ヲ國際勞働事務局ニ通告スヘシ

第五條 千九百十九年六月二十八日ノ「ヴェルサイユ」條約、千九百十九年九月十日ノ「サン、ジェルマン」條約、千九百十九年十一月二十七日ノ「ヌイイー」條約及千九百二十年六月四日「گران、トリアノン」條約ノ第十三編ニ定ムル條件ニ依ル本條約ノ正式批准ハ登録ノ爲國際聯盟事務總長ニ之ヲ通告スヘシ (以下略)

第二條 本條約ニ於テ左ノ用語ハ左ノ意義ヲ有ス

(イ) 「船舶」ト稱スルハ其ノ公有タルト私有タルトヲ問ハス通常海洋航行ニ從事スル一切ノ船舶舟艇ヲ包含ス

(ロ) 「海員」ト稱スルハ其ノ資格ノ如何ヲ問ハス船中ニ於テ使用セラレ又ハ從業シ且海員名簿ニ記載セララル一切ノ者ヲ包含ス但シ船長、水先人、練習船ニ於ケル候補生及生徒、正式ニ見習契約ヲ爲シタル見習並ニ軍艦乘組員其ノ他政府ノ繼續的勤務ニ服スル者ヲ除ク

(ハ) 「船長」ト稱スルハ船舶ノ指揮及監督ニ任スル一切ノ者ヲ包含ス但シ水先人ヲ除ク

(ニ) 「ホーム、トレード」ト稱スルハ一國ト國內法ニ依リ定メラルル地理上ノ制限内ニ於ケル隣接國ノ諸港トノ間ノ商業ニ從事スル船舶ヲ謂フ

第三條 雇入契約ハ船舶所有者又ハ其ノ代理人及海員ノ雙方ニ依リ署名セララルモノトス雇入契約ノ署名セララルニ先チ右契約ヲ檢スル爲相當ノ便宜ヲ海員及必要アルトキハ其ノ補佐者ニ與フヘシ
海員ハ權限アル公ノ機關ノ適當ナル監督ヲ確保スル爲國內法ノ定ムル條件ニ從ヒ契約ニ署名スヘシ

契約ノ條項カ書面ヲ以テ權限アル機關ニ提出セラレ且船舶所有者又ハ其ノ代理人及海員ノ雙方ニ依リ確認セラレタルコトヲ右機關ニ於テ證明スルトキハ前各項ノ規定ハ履行セラレタルモノト看做ス

海員カ契約ヲ諒解スルコトヲ確保スル爲メ國內法ニ適當ナル規定ヲ設クヘシ

契約ハ國內法又ハ本條約ノ規定ニ反スル事項ヲ包含スルコトヲ得ス

船舶所有者及海員ノ利益保護ノ爲必要ト認メラルル契約ノ締結ニ關スル其ノ他ノ形式及保障ヲ國內法ニ定ムヘシ

第四條 當事者雙方カ契約ニ關スル裁判管轄ニ付通常ノ規定ニ依ラサル旨ヲ豫メ約スル條項ヲ契約ニ包含セシメサルヘキコトヲ確保スル爲メ國內法ニ從ヒ適當ナル措置ヲ執ルヘシ

本條ハ仲裁ニ付スルコトヲ排除スルモノト之ヲ解釋スルコトヲ得ス

第五條 總テノ海員ニハ船中ニ於ケル其ノ勤務ノ事項ヲ掲載スル文書ヲ交付スヘシ右文書ノ様式、記録スヘキ事項及之カ記載ノ方法ハ國內法ニ依リ定メラルヘシ

右ノ文書ハ海員ノ勤務ノ成績又ハ其ノ給料ニ關スル何等

ノ記述ヲモ包含スルコトヲ得ス

第六條 契約ハ一定期間若ハ一航海ニ付又ハ國內法ニ依リ許容セラルトキハ期間ヲ定メシテ締結スルコトヲ得

契約書ニハ當事者各自ノ權利及義務ヲ明瞭ニ記載スヘシ

右ハ一切ノ場合ニ於テ左ノ事項ヲ包含スヘシ

(一) 海員ノ氏名、其ノ出生ノ日又ハ年齢及其ノ出生地

(二) 契約締結ノ地及日

(三) 海員カ船中勤務ヲ約シタル船舶ノ名稱

(四) 國內法ニ規定アルトキハ船舶乗組員ノ數

(五) 契約締結ニ際シ豫メ定メ得ヘキトキハ其ノ爲メサントスル航海

(六) 海員ノ從事スヘキ勤務ノ種類

(七) 可能ナルトキハ海員カ勤務ノ爲上船スルコトヲ要スル場所及日

(八) 海員ニ給與セラルヘキ食糧ノ標準但シ國內法ニ依リ別種ノ制度ヲ定ムル場合ヲ除ク

(九) 給料ノ額

(十) 契約ノ終了及其ノ條件即チ

(イ) 契約カ一定期間ニ付締結セラレタルトキハ契約終了ノ日

(ロ) 契約カ一航海ニ付締結セラレタルトキハ目的港及之ニ到着シタル後海員ノ雇止メラル迄ニ經過スベキ期間

(ハ) 契約カ期間ヲ定メシテ締結セラレタルトキハ當事者ノ一方カ之ヲ解除シ得ヘキ條件及解除ノ爲必要ナル豫告期間但シ船舶所有者ニ付定ムル右期間ハ海員ニ付定ムルモノヨリ短期ナルコトヲ得ス

(ニ) 同一ノ船舶業者ニ付一年ノ勤務ヲ終ヘタル海員ニ有給ノ年休ヲ與フルコトカ國內法ニ規定セララルトキハ右年休

(士) 國內法ノ要求スル其ノ他ノ事項

第七條 國內法カ海員名簿ヲ船中ニ備置クヘキコトヲ定ムル場合ニ於テハ右國內法ハ契約ヲ海員名簿ニ記載シ又ハ添附スヘキコトヲ定ムヘシ

第八條 海員ヲシテ其ノ權利及義務ノ性質及範圍ヲ會得スルヲ得シムル爲メ國內法ハ船員室ヨリ容易ニ近ツキ得ル場所ニ契約ノ條項ヲ揭示シ又ハ其ノ他適當ナル方法ニ依リ船中ニ於テ雇傭條件ニ關スル明瞭ナル智識ヲ得シムル爲メ執ルヘキ措置ヲ定ムヘシ

第九條 期間ノ定ナキ契約ハ船舶カ船積又ハ陸揚ヲ爲ス港海員ノ雇入契約ニ關スル條約案

ノ記述ヲモ包含スルコトヲ得ス

第六條 契約ハ一定期間若ハ一航海ニ付又ハ國內法ニ依リ許容セラルトキハ期間ヲ定メシテ締結スルコトヲ得

契約書ニハ當事者各自ノ權利及義務ヲ明瞭ニ記載スヘシ

右ハ一切ノ場合ニ於テ左ノ事項ヲ包含スヘシ

(一) 海員ノ氏名、其ノ出生ノ日又ハ年齢及其ノ出生地

(二) 契約締結ノ地及日

(三) 海員カ船中勤務ヲ約シタル船舶ノ名稱

(四) 國內法ニ規定アルトキハ船舶乗組員ノ數

(五) 契約締結ニ際シ豫メ定メ得ヘキトキハ其ノ爲メサントスル航海

(六) 海員ノ從事スヘキ勤務ノ種類

(七) 可能ナルトキハ海員カ勤務ノ爲上船スルコトヲ要スル場所及日

(八) 海員ニ給與セラルヘキ食糧ノ標準但シ國內法ニ依リ別種ノ制度ヲ定ムル場合ヲ除ク

(九) 給料ノ額

(十) 契約ノ終了及其ノ條件即チ

(イ) 契約カ一定期間ニ付締結セラレタルトキハ契約終了ノ日

(ロ) 契約カ一航海ニ付締結セラレタルトキハ目的港及之ニ到着シタル後海員ノ雇止メラル迄ニ經過スベキ期間

(ハ) 契約カ期間ヲ定メシテ締結セラレタルトキハ當事者ノ一方カ之ヲ解除シ得ヘキ條件及解除ノ爲必要ナル豫告期間但シ船舶所有者ニ付定ムル右期間ハ海員ニ付定ムルモノヨリ短期ナルコトヲ得ス

(ニ) 同一ノ船舶業者ニ付一年ノ勤務ヲ終ヘタル海員ニ有給ノ年休ヲ與フルコトカ國內法ニ規定セララルトキハ右年休

(士) 國內法ノ要求スル其ノ他ノ事項

第十條 國內法カ海員名簿ヲ船中ニ備置クヘキコトヲ定ムル場合ニ於テハ右國內法ハ契約ヲ海員名簿ニ記載シ又ハ添附スヘキコトヲ定ムヘシ

第十一條 海員ヲシテ其ノ權利及義務ノ性質及範圍ヲ會得スルヲ得シムル爲メ國內法ハ船員室ヨリ容易ニ近ツキ得ル場所ニ契約ノ條項ヲ揭示シ又ハ其ノ他適當ナル方法ニ依リ船中ニ於テ雇傭條件ニ關スル明瞭ナル智識ヲ得シムル爲メ執ルヘキ措置ヲ定ムヘシ

第十二條 期間ノ定ナキ契約ハ船舶カ船積又ハ陸揚ヲ爲ス港海員ノ雇入契約ニ關スル條約案

第十三條 海員カ船舶ヲ指揮スル者、運轉士、機關士其ノ

ノ記述ヲモ包含スルコトヲ得ス

第六條 契約ハ一定期間若ハ一航海ニ付又ハ國內法ニ依リ許容セラルトキハ期間ヲ定メシテ締結スルコトヲ得

契約書ニハ當事者各自ノ權利及義務ヲ明瞭ニ記載スヘシ

右ハ一切ノ場合ニ於テ左ノ事項ヲ包含スヘシ

(一) 海員ノ氏名、其ノ出生ノ日又ハ年齢及其ノ出生地

(二) 契約締結ノ地及日

(三) 海員カ船中勤務ヲ約シタル船舶ノ名稱

他現在以上ノ地位ニ就キ得ルコト又ハ其ノ他自己ノ利益ノ爲雇止メラルルコトヲ必要トスル事情其ノ雇入レラレタル後生シタルコトヲ船舶所有者又ハ其ノ代理人ニ證明シタルトキハ右海員ハ其ノ雇止ヲ請求スルコトヲ得但シ右海員カ船舶所有者ノ費用ヲ増加スルコトナクシテ船舶所有者又ハ其ノ代理人ノ満足スル適當ナル後任者ヲ提供シタル場合ニ限ル

前項ノ場合ニ於テハ海員ハ其ノ雇止ノ時ニ至ル迄ノ給料ヲ受クル權利ヲ有スヘシ

第十四條 契約ノ終了又ハ解除ノ事由ノ如何ヲ問ハス第五條ニ從ヒ海員ニ交付セラルル文書及海員名簿ニ當該海員ノ雇止メラレタルコトヲ示ス記入ヲ爲スヘク且右ノ記入ハ當事者一方ノ要求アルトキハ權限アル公ノ機關ニ依リ證明セラルヘシ

海員ハ一切ノ場合ニ於テ第五條ニ掲ケラルル記録ノ外其ノ勤務ノ成績ニ關スル別箇ノ證明書又ハ少クトモ其ノ契約ニ基ク義務ヲ充分果シタルカ否カヲ指示スル證明書ヲ船長ヨリ受クル權利ヲ有ス

第十五條 國內法ハ本條約ノ條項ノ遵守ヲ確保スルノ措置ヲ定ムヘシ

日ニ於テ右船舶ノ特別規律ノ爲國內法ニ依リ定メララルル制限噸數未滿ノモノ

第二條 本條約ニ於テ左ノ用語ハ左ノ意義ヲ有ス

(イ) 「船舶」ト稱スルハ其ノ公有タルト私有タルトヲ問ハス通常海洋航行ニ從事スル一切ノ船舶艇ヲ包含ス

(ロ) 「海員」ト稱スルハ其ノ資格ノ如何ヲ問ハス船中ニ於テ使用セラレ又ハ從業シ且海員名簿ニ記載セラルル一切ノ者ヲ包含ス但シ船長、水先人、練習船ニ於ケル候補生及生徒、正式ニ見習契約ヲ爲シタル見習並ニ軍艦乗組員其ノ他政府ノ繼續的勤務ニ服スル者ヲ除ク

(ハ) 「船長」ト稱スルハ船舶ノ指揮及監督ニ任スル一切ノ者ヲ包含ス但シ水先人ヲ除ク

(ニ) 「ホーム、トレイド」船舶ト稱スルハ一國ト國內法ニ依リ定メララルル地理上ノ制限内ニ於ケル隣接國ノ諸港トノ間ノ商業ニ從事スル船舶ヲ謂フ

海員ノ送還ニ關スル條約案

第十六條 「ヴェルサイユ」條約ノ第十三編及他ノ平和諸條約ノ對當編ニ定ムル條件ニ依ル本條約ノ正式批准ハ登錄ノ爲國際聯盟事務總長ニ之ヲ通告スヘシ (以下略)

海員ノ送還ニ關スル條約案

(大正十五年第九回國際勞働總會採擇未批准)

第一條 本條約ハ本條約ヲ批准スル締盟國ニ於テ登錄セラレタル一切ノ航海船並ニ右船舶ノ所有者、船長及海員ニ之ヲ適用ス

本條約ハ左ニ之ヲ適用セス

軍艦

商業ニ從事セサル政府ノ船舶

沿岸貿易ニ從事スル船舶

娛樂用「ヨット」

「インデイアン、カントリ、クラフト」

漁船

總噸數百噸未滿若ハ三百立方メートル未滿ノ船舶又ハ「ホーム、トレイド」ニ從事スル船舶ニシテ本條約採擇ノ

定ヲ包含スヘシ

海員カ前項ニ從ヒ定メララルル目的地ノ一二向フ船中ニ於テ適當ナル職務ヲ與ヘラレタルトキハ右海員ハ適法ニ送還セラレタルモノト看做ス

海員カ其ノ本國、雇入港若ハ其ノ隣接港又ハ發航港ニ於テ下船シタルトキハ右海員ハ送還セラレタルモノト看做ス

本國以外ノ國ニ於テ雇入レラレタル外國人海員カ送還セラルル權利ヲ有スル條件ハ國內法又ハ國內法ノ規定ナキトキハ雇入契約ノ定ムル所ニ依ルヘシ但シ本國ノ港ニ於テ雇入レラレタル海員ニハ前各項ノ規定ノ適用アルモノトス

第四條 送還ノ費用ハ海員カ左ノ事由ニ因リ取殘サレタルトキハ其ノ負擔ト爲スコトヲ得ス

(イ) 船舶勤務中ニ受ケタル傷痕

(ロ) 難破

(ハ) 自己ノ故意又ハ過失ニ因ラサル疾病

(ニ) 自己ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因ル雇止

第五條 送還ノ費用ハ旅行中ニ於ケル海員ノ運送、宿泊及食糧ニ關スル一切ノ費用ヲ包含スヘシ右ハ其ノ所定ノ出

七五七

發ノ時ニ至ル迄ノ生活費ヲモ包含ス
海員ハ乗組員ノ一員トシテ送還セララルトキハ航海中ニ
爲シタル勤務ニ對シ報酬ヲ請求スル權利ヲ有ス

第六條 船籍國ノ公ノ機關ハ本條約ノ適用アル場合ニ於テ
ハ乗組員ノ國籍ノ如何ヲ問ハス其ノ送還ニ付監督ノ責ニ
任スヘク且必要アルトキハ其ノ費用ノ前貸ノ責ニ任スヘ
シ

第七條 「ヴェルサイユ」條約ノ第十三編及他ノ平和諸條
約ノ對當編ニ定ムル條件ニ依ル本條約ノ正式批准ハ登錄
ノ爲國際聯盟事務總長ニ之ヲ通告スヘシ (以下略)

商船ニ於ケル船長及當直 士官ニ必要ナル職業上ノ 最低資格ニ關スル條約案

(昭和十一年第二十一回)
國際勞働總會採擇未批准

第一條 本條約ハ本條約カ實施セララル領域ニ船籍ヲ有シ
且海上航行ニ從事スル一切ノ船舶ニ之ヲ適用ス但シ左ノ

當直運轉士、機關長又ハ當直機關士ノ業務ヲ行フ者ハ
船舶カ船籍ヲ有スル領域ノ官廳カ下付又ハ承認シ其ノ
業務ヲ行フニ付テノ資格ヲ證明セル海技免狀ヲ受有ス
ルコトヲ要ス

二、本條ノ規定ニ對スル例外ハ不可抗力ノ場合ニ限り之
ヲ認ム

第四條

一、何人モ左ノ主要條件ヲ充足スルニ非レハ海技免狀ヲ
下付セララルコトヲ得ス

(イ) 當該海技免狀下付ニ付テノ所定最低年齢ニ達シ
タルコト

(ロ) 當該海技免狀下付ニ付テノ所定期間ノ職業上ノ
經驗ヲ有スルコト

(ハ) 受ケントスル海技免狀ニ相當スル業務ノ遂行ニ
必要ナル資格要件ノ有無ヲ考査スル爲權限アル機關
カ組織シ監督スル試験ニ合格シタルコト

二、國內法ハ

(イ) 海技免狀ヲ受ケントスル者カ必要ナル最低年齢
及職業上ノ經驗ニ付テノ最短期間ヲ規定スヘシ

(ロ) 受ケントスル海技免狀ニ相當スル業務ノ遂行ニ

商船ニ於ケル船長及當直士官ニ必要ナル職業上ノ最低資格ニ關スル條約案

船舶ハ之ヲ除ク

(イ) 軍艦

(ロ) 商業ニ從事セサル場合ニ於ケル政府所有船舶又ハ
公用船舶

(ハ) 「ドウル」及「ジャンク」ノ如キ原始的建造ノ木製
船舶

登錄總噸數二百噸以下ノ船舶ニ關シテハ前項ノ規定ニ拘
ラス國內法令ニ依リ除外又ハ例外ヲ認ムルコトヲ得

第二條 本條約ニ於テ左ニ掲クル用語ノ意義ニ關シテハ次
ノ如ク定ム

(イ) 「船長又ハ漁船船長」船舶ヲ指揮又ハ監督スル一
切ノ者

(ロ) 「當直運轉士」水先案内人ヲ除キ現ニ船舶ノ運航
ヲ管理スル一切ノ者

(ハ) 「機關長」船舶ノ機關ノ推進ニ付常ニ責任ヲ有ス
ル一切ノ者

(ニ) 「當直機關士」現ニ船舶ノ機關ノ運轉ニ當ル一切
ノ者

第三條

一、條約ノ適用ヲ受クル船内ニ於テ船長若ハ漁船船長、

必要ナル資格要件ノ有無ヲ考査スル爲ノ一又ハ二以
上ノ試験ノ權限アル機關ニ依ル組織及監督ヲ規定ス
ヘシ

三、國際勞働機關ノ締盟國ハ其ノ批准ノ時ヨリ三年以内
ハ本條(ロ)ニ依リ組織セララル試験ニ合格セサルモ左
記ニ該當スル者ニ海技免狀ヲ下付スルコトヲ得

(イ) 當該海技免狀ニ相當スル業務ニ付十分ナル實際
上ノ經驗ヲ事實上有スル者

(ロ) 重大ナル技術的過失ヲ爲シタルコトナキ者

第五條

一、本條約ヲ批准スル各締盟國ハ有效ナル監督組織ニ依
リ其ノ有效ナル實施ヲ確實ナラシムヘシ

二、國內法ハ締盟國ノ官憲カ其ノ領域内ニ船籍ヲ有スル
船舶ヲ本條約ノ規定ニ違背スルノ故ヲ以テ抑留シ得ル
場合ヲ規定スヘシ

三、本條約ヲ批准セル締盟國ノ當局カ本條約ヲ批准セル
他ノ締盟國ノ領域ニ船籍ヲ有スル船舶ニ於テ本條約ノ
規定ノ違反ヲ發見セルトキハ船舶カ船籍ヲ有スル領域
ニ於ケル締盟國ノ領事ニ之ヲ通知スヘシ

第六條 國內法ハ本條約ノ規定ヲ遵守セラレサル場合ニ適

用スヘキ刑罰又ハ懲戒的措置ヲ規定スヘシ右ノ刑罰又ハ懲戒的措置ハ特ニ左ニ掲クル場合ニ付之ヲ定ムヘシ

(イ) 本條約ノ必要トスル海技免狀ヲ有セサル者ヲ使用セル船主若ハ其ノ代理人、船長又ハ漁船船長

(ロ) 本條約第二條ニ定メラレタル業務ヲ夫々其ニ相當スル又ハ夫レ以上ノ海技免狀ヲ有セサル者ヲシテ行ハシメタル船長又ハ漁船船長

(ハ) 第二條ニ定メラレタル業務ニ關シ必要ナル海技免狀ヲ有セスシテ詐欺又ハ偽造文書ニ依リ其ノ業務ニ雇傭セラレタル者

有給休日ニ關スル條約案

(昭和十一年第二十一回) 國際勞働總會採擇未批准

第一條

一、本條約ハ本條約カ實施セララルル領域ニ船籍ヲ有シ商業ノ目的ヲ以テ貨物若ハ船客ノ運送ニ從事スル公私ノ一切ノ海洋航行船舶ノ船長、士官及船員(無線電信會社ノ無線通信士ヲモ含ム)ニ適用ス

第二條

二、國內法ハ船舶カ本條約ノ適用上海洋航行船舶ト看做サル場合ヲ定ムヘシ

三、本條約ハ左記ノ者ニ對シテハ適用セス

(イ) 漁業、捕鯨又ハ之ニ類似ノ目的又ハ之ト直接關係アル作業ニ従業スル船舶ニ使用セララルル者

(ロ) 船員カ國內法規ノ定ムル規定ニ從ヒ船主ノ家族ノミヨリナル船舶ニ使用セララルル者

(ハ) 自己ノ勞務ニ付報酬ヲ受ケス又ハ唯名目ノミノ賃銀ヲ受クル者又ハ専ラ利潤分配ニ依ル配當ノミヲ受クル者

(ニ) 専ラ又ハ主トシテ自己ノ計算ニ於テ働ク者

(ホ) 「ドウ」及「ジャンク」ノ如キ原始的建造ノ木製船ニ使用セララルル者

(ヘ) 勞務カ船内ノ貨物ニ専ラ關係シ且事實上船主又ハ船長ニ使用セラレサル者

(ト) 巡廻荷役勞働者

一、本條約ノ適用ヲ受クル者ハ同一企業ニ於ケル一年間ノ繼續勤務ノ後左記ノ期間有給休暇ヲ受クル權利ヲ有ス

(イ) 船長、士官及無線通信士ニ付テハ平日十二日以上

(ロ) 他ノ船員ニ付テハ平日九日以上

二、休日ノ計算ニ當リテハ

(イ) 雇傭條款外ノ勞務ハ繼續勤務ノ計算ニ加算ス

(ロ) 被傭員ノ行爲又ハ過失ニ基カス且全部ニテ六週間ヲ超エサル短期ノ勤務ノ中絶ハ右中絶ニ前後スル勤務期間ノ繼續性ヲ中斷スルモノト認ムルコトヲ得ス

(ハ) 勤務ノ繼續性ハ關係者カ勤務ニ服セル船舶ノ管理者又ハ所有者ノ變更ニ依リ中斷セララルルモノト認ムルコトヲ得ス

三、次ノモノハ毎年ノ有給休日ニ加算セス

(イ) 公祭日及慣習上ノ祭日

(ロ) 疾病ニ基ク勤務ノ中斷

(ハ) 海上ニ於テ週休日及祭日ニ於テ勤務セル補償トシテ許可セラレタル休ミ

四、國內法規又ハ團體協約ニ依リテ之等ノ法規又ハ協約ノ規定スル條件ノ下ニ左ノ特別ノ場合ヲ規定スルコトヲ得ヘシ

有給休日ニ關スル條約案

第三條

(イ) 本條約ニ基ク毎年ノ有給休日ヲ分割シテ附與シ又ハ翌年ノ有給休日ト加算シテ附與シ得ヘキ場合

(ロ) 特別ノ事情ニ於テ勤務カ要求スルトキハ有給休日ニ代フルニ本條約第三條所定ノ報酬ヲ下ラサル現金拂ヲ以テスルコトヲ得ヘキ場合

一、年次休日ハ船舶カ船籍ヲ有スル領域ニ於ケル左ノ港ノ一ニ於テ之ヲ與フヘシ

(イ) 出航港

(ロ) 休日ヲ受クル權利アル者カ雇傭セラレタル港又ハ

(ハ) 船舶ノ最終目的港

二、尤モ休日ハ相互ノ同意ニ依リ他ノ港ニ於テ之ヲ與フルコトヲ得

三、年次休日カ與ヘラルヘキトキハ右ハ勤務上ノ要件カ許ス最初ノ機會ニ於テ相互協定ニ依リ與ヘラルヘシ

第四條

一、本條約第一條ノ規定ニ依リ休日ヲトル凡テノ者ニハ休日ノ全期間中平常ノ報酬ヲ支給スヘシ

二、前項ノ規定ニ依リ支拂ヲ受クル平常報酬ニハ適當ナ

ル食事手當ヲ包含シ其ノ計算法ハ國內法規又ハ團體協約ノ定ムル所ニ從フヘシ

第五條 次有給休日請求權ヲ放棄シ又ハ斯ル休日ヲ廢棄スルカ如キ協定ハ何レモ無効トス

第六條 有給休日中報酬ヲ受ケテ勞務ニ從事スル者ニ付テハ有給休日期間中ノ報酬支拂請求權ヲ剝奪スル規定ヲ國內法規ニ依リテ設クルコトヲ得

第七條 有給休日ヲ受クル前ニ其ノ雇傭主ニ對スル勤務ヲ離レ又ハ解雇セララル者ハ本條約ノ規定ニ依リ權利ヲ有スル有給休日ノ各日ニ對シ第四條ニ規定セラレタル報酬ヲ受クヘシ

第八條 本條約ノ批准ヲ爲ス締盟國ハ何レモ傭主ニ對シ本條約ヲ有效ニ實施スルコトヲ援クル爲帳簿ノ備付ヲ要求スヘシ

第九條 本條約ノ批准ヲ爲ス締盟國ハ何レモ本條約ノ規定ノ適用ヲ確保スル爲制裁制度ヲ設クヘシ

第十條 本條約ハ法律、判決、慣習又ハ船主及海員間ノ協定ニシテ本條約ノ規定ヨリモ有利ナル勞働條件ヲ確保スルモノニ影響ヲ及ホササルモノトス

第十一條

港ニ於ケル海員ノ福利増進ニ關スル勸告案

(昭和十一年第二十一回 國際勞働總會採擇)

海員ハ其ノ職業ノ性質上屢長期間ニ亘リ家庭生活ノ利益ヲ奪ハレ、港特ニ外國ノ港ニ在ルトキ特殊ノ危險及困難ニ遭遇スルノ虞アルニ鑑ミ且一般勞働者ノ餘暇ヲ組織的ナラシメ、福利ヲ増進シ、健康ヲ保全スル爲ニ設ケラレタル施設ヲ利用スルコト必スシモ常ニ可能ナラサルニ鑑ミ或政府及各種私立團體ハ港ニ於ケル海員ノ特殊援助及保護ニ付諸種ノ手段ヲ講シ成功シタルニ鑑ミ且此ノ種ノ保護ハ能フル限り多數ノ海員ニ擴張セララルヘキニ鑑ミ且國家的地方的ニ必要及慣習ニ相違アルニ拘ラス海員間ノ人種ノ區別ヲ設ケサル方法ヲ以テ國家的國際的ニ主要ナル措置ヲ發展セシメ整備スルノ重要ナルニ鑑ミ國際勞働總會ハ國際勞働機關ノ各締盟國ニ對シ港ニ於ケル國內人及外國人海員ノ福利増進ニ付左ニ掲クル原則及方法ヲ考慮スヘキコトヲ勸告ス

港ニ於ケル海員ノ福利増進ニ關スル勸告案

一、國際勞働機關憲章第三十五條ニ掲クル地域ニ關シテハ本條約ヲ批准スル國際勞働機關ノ各締盟國ハ其ノ批准ニ左記ヲ示ス宣言ヲ附加スヘシ

(イ) 右締盟國カ變更ヲ加ヘスシテ本條約ヲ適用セントスル地域

(ロ) 右締盟國カ變更ヲ加ヘテ本條約ノ規定ヲ適用セントスル地域

(ハ) 本條約ヲ適用シ得サル地域及斯ル場合ニ於テハ之ヲ適用シ得サル理由

(ニ) 右締盟國カ其ノ決定ヲ留保スル地域

二、本條約第一項(イ)及(ロ)ニ掲クル約定ハ批准ノ一部ト看做サルヘク且批准ノ效力ヲ有スヘシ

三、何レノ締盟國モ原宣言ニ於テ本條約第一項(ロ)、(ハ)又ハ(ニ)ニ依リ爲サレタル留保ノ全部又ハ一部ヲ爾後ノ宣言ニ依リ取消スコトヲ得

第十二條 本條約ハ總噸數百萬以上ノ海洋航行商船ヲ有スル國際勞働機關ノ五締盟國ノ批准カ國際聯盟事務總長ニ依リ登錄セラレタル日ノ後六月ニシテ效力ヲ發生スヘシ

第一 一般組織

一、左ニ掲クル目的ノ爲ニ船主、海員、國及地方官廳並ニ主要關係團體ノ代表者ヲ包含セル公立又ハ公認機關ヲ各主要港ニ設置スルコト望マシトス

(イ) 各種官廳又ハ關係團體及海運國領事館ト能フル限リ提携シ、港ニ於ケル海員ノ狀態ニ關スル一切ノ有用ナル報告及提案ヲ蒐集スルコト

(ロ) 右ノ狀態ノ改善手段ノ採用、適用及整備ニ關シ制限アル部局、官廳及團體ヘ助言スルコト

(ハ) 右ノ手段ヲ行フニ付必要アル場合ニ於テ他ノ權限アル團體ト協力スルコト

二、國際勞働事務局ヲシテ海運國政府ニ報告ヲ爲シ其ノ活動ノ整備ヲ援助スルコトヲ得シムル爲、各政府ハ事務局ト提携ヲ保チ、港ニ於ケル海員ノ福利増進ニ付得タル經驗及此ノ領域ニ於テ爲サレタル進歩ニ付テノ一切ノ有用ナル報告ヲ三年毎ニ事務局ニ提出スルコト望マシトス

第二 規律

三、左ノ如キ手段ニ依リ或種ノ施設又ハ碇泊所自體ニ於テ生スヘキ危險ヨリ海員ヲ保護スル爲法令ヲ設クヘシ

(イ) 「アルコール」飲料ノ販賣ノ取締

(ロ) 一定年齢ニ達セサル男女少年ノ居酒屋ニ於ケル使用ノ禁止

(ハ) 國籍ノ如何ヲ問ハス一切ノ海員ニ對スル麻醉劑ノ販賣及使用制限ニ關スル國際協約ノ規定ノ適用

(ニ) 望マシカラサル者ノ碇泊所及一般ニ港内區域ニ入ルコトノ禁止

(ホ) 可能ナル一切ノ場合ニ於テ船渠區域ノ限界ヲ設ケ且固定又ハ可動柵欄ニ依リ埠頭及波止場ノ縁邊並ニ碇泊所ノ其ノ他ノ危險ナル部分ヲ保護スルコト

(ヘ) 十分ナル照明並ニ必要ナル場合ニ船渠及入路ノ示標ヲ設クルコト

四、右ニ示シタル手段ノ嚴重ナル實施ヲ確實ナラシメ其ノ效果ヲ増大スル目的ヲ以テ左ノ事項ヲ包含セル監督方法ヲ講スヘシ

(イ) 「アルコール」飲料ノ販賣セラルル施設並ニ必要ニシテ實行シ得ル場合ニ於テ港内區域ニ存スル宿屋、「カフェ」、下宿屋又ハ之ニ類スル施設ヲ監督スルコト

(ロ) 「アルコール」飲料又ハ麻醉劑ヲ不當ニ船内ニ入レ又ハ其ノ他ノ一切ノ不法ナル目的ヲ遂行スル爲ニ乘

療ノ便宜ヲ受クヘキモノトス

(イ) 例ヘハ一千九百二十四年十二月一日「ブラッセル」ニ於テ調印セラレタル花柳病治療ノ爲商船海員ニ與ヘラルヘキ便宜ニ關スル協定ニ規定セラレタル如ク特ニ港内區域ニ於テ花柳病ニ對スル無料ニシテ繼續ナル治療ヲ能フ限リ擴大スルコト

(ロ) 容易ニ且國籍及信教ニ區別ナク、港ニ於ケル病院又ハ治療所ヘ海員ヲ收容スルコト

(ハ) 國民ノ結核豫防ニ付爲サレタル施設ヲ外國海員ニ對シ能フ限リ擴大スルコト

(ニ) 海員ノ利用シ得ヘキ醫療上ノ便宜ヲ補足スル目的ヲ以テ必要ナルトキハ治療ノ繼續ヲ確保スル爲ノ施設ヲ能フ限リ採用スルコト

第四 宿泊及娛樂

九、少クトモ大ナル港ニ於テ海員ノ海ニ在ル間其ノ物質的及一般的扶助ヲ與フル爲施設ヲ設クヘク且斯ル施設ハ特ニ左記ヲ包含スヘシ

(イ) 充分ニ完備シ且合理的ナル價格ニテ食糧及宿泊ヲ提供スル海員宿泊所ノ設置又ハ發展

(ロ) 集會及娛樂室(酒保、遊戲室、圖書室等)ヲ備ヘ

港ニ於ケル海員ノ福利増進ニ關スル勸告案

船スルコトヲ防止スル目的ヲ以テ行ハルル船舶訪問者(船舶海岸間ヲ往復スル船頭ヲモ含ム)ヲ船長及官廳カ合同シテ監督スルコト

(ハ) 特別ニ訓練裝備セラレ他ノ監督機關ト聯携セル適當ナル警察力ヲ港内區域ニ維持スルコト

五、外國海員ノ保護ヲ更ニ良好ナラシムル爲ニ左記ヲ容易ナラシムル措置ヲ講スヘシ

(イ) 當該海員ト其ノ領事トノ關係

(ロ) 領事及地方又ハ國ノ官廳トノ有效ナル協力

第三 保 健

六、港ノ近接地及海員ノ出入多キ地域ニ於ケル直接又ハ間接ノ勸誘及誘惑ハ斷然之ヲ抑壓スヘシ

七、國籍ノ如何ヲ問ハス港内ニ入ル海員ニ左ノ事項ヲ知ラシムル爲ニ一切ノ適當ナル手段ヲ講スヘシ

(イ) 罹病ノ虞アル疾病、特ニ結核、熱帶病及花柳病ノ危險及豫防方法

(ロ) 罹病者ニ對シ治療ヲ受クルノ必要及此ノ治療ニ付利用シ得ル便宜

八、罹病海員ハ左ノ事項ヲ包含セル適當ナル手段ニ依リ治

タル會館ノ設置又ハ發展、此ノ會館ハ海員宿泊所ト別個ノモノトシテ差支ナキモ能フ限リ之ト聯携スヘキモノトス

(ハ) 海員集會所ト協力可能ノ場合ニハ此ノ協力ノ下ニ運動、遠足等ノ如キ健康ノ爲ノ娛樂ノ組織

(ニ) 一切ノ可能ナル手段ヲ以テスル海員ノ家庭生活ノ向上

第五 賃銀ノ貯蓄及送付

十、海員ノ貯金及其貯金ノ家族ヘノ送付ヲ援助スル爲

(イ) 海員特ニ外國ニ在ル海員ニ對シ其ノ賃銀ノ全額又ハ一部ノ預金又ハ送金ヲ可能ナラシムル爲ニ領事、船長、船主ノ代理人又ハ信用スヘキ私立團體ノ援助ノ下ニ運用セラルル簡易、迅速且安全ナル組織ヲ採用スヘシ

(ロ) 海員ノ雇傭契約署名ノ時又ハ航海中ニ其ノ希望ニ依リ海員ヲシテ其ノ家族ヘノ定期的送金ニ賃銀ノ一部ヲ充ツルコトヲ得シムル組織ヲ設ケ又ハ之ヲ更ニ普及スヘシ

第六 海員ニ對スル報道

十一、以上ニ勸告セル各種手段ノ多數ニ付テハ其ノ成功如

何ハ多クハ海員間ニ適當ニ周知セラレルヤ否ヤニ依存スヘキモノナルニ鑑ミ

斯カル周知方法ハ官廳、本勸告第一ニ掲ケタル機關及權限アル團體ニ於テ能フ限り船舶士官、船醫及海員集會所ノ援助ノ下ニ之ヲ組織シ實施スヘシ

十二、右ノ周知方法ハ左ノモノヲ包含スルヲ可トス

(イ) 最モ適當ナル言語ニテ刊行セラレ當該寄留港又ハ次ノ寄留港ニ於テ海員ノ利用シ得ヘキ便宜ニ關シ明確ナル報道ヲ與フル小冊子ヲ陸上及船上(船長ノ同意ヲ條件トシテ)ニテ配布スルコト

(ロ) 海員ノ利用容易ニシテ有用ナル説明又ハ案内ヲ直接與フルコトヲ得ル所員ヲ有セル案内所(船舶事務所其ノ他ノ場所ニ)ヲ大ナル港ニ於テ創設スルコト

(ハ) 海員ノ健康及一般保護ノ爲有用ナル揭示事項ヲ其ノ海員手帳、解雇手帳若ハ其ノ他海員ノ通常携帯スル書類又ハ乗組員本部ノ見易キ場所ニ掲ケル揭示中ニ記載スルコト

(ニ) 専門的興味ト一般の興味トヲ兼ヌル海員ノ爲ノ定期刊行物ニ一般の興味及教育上ノ興味ヲ有スル記事ヲ頻繁ニ掲載シ又此ノ目的ニ映畫ヲモ使用スルコト

(ホ) 各地ニ於ケル交通及娯樂場ノ料金ニ關スル情報ヲ配布スルコト

第七 均等待遇

十三、海員ノ福祉ノ爲ノ基金ヲ管理スヘキ各國政府、機關及團體ニ對シ單ニ專ヲ特定國籍ノ海員ニ付テノミ關與スルコトナク國際的連帶ノ精神ニ基キ能フ限り寛大ニ行動スルコトヲ要簿ス

海員疾病保險ニ關スル條約案

(昭和十一年第二十一回 國際勞働總會採擇未批准)

第一條

一、本條約カ實施セラレル領域内ニ船籍ヲ有シ且海洋航行又ハ漁業ニ從事スル一切ノ船舶(軍艦ヲ除ク)内ニ於テ船長若ハ乗組員トシテ又ハ其ノ他船舶内勞務ニ使役セララル一切ノ者ハ強制疾病保險制度ノ下ニ保險ニ付セララルヘキモノトス

二、尤モ國際勞働機關ノ締盟國ハ其ノ國內法ヲ以テ左記

ニ關シ必要ト認ムル除外例ヲ設ケルコトヲ得

(イ) 商業ニ從事セサル場合ニ於ケル公有船舶ニ使用セラルル者

(ロ) 賃銀又ハ所得カ所定額ヲ超ユル者

(ハ) 金錢賃銀ヲ受ケサル者

(ニ) 締盟國ノ領域内ニ居住セサル者

(ホ) 所定年齢制限ヲ超ニ又ハ之ニ達セサル者

(ヘ) 使用者ノ家族

(ト) 水先案内人

第二條

一、疾病ニ因リ勞務不能ト爲リ賃銀ヲ得ルコト能ハサルニ至リタル被保險者ハ給付ヲ受クヘキ第一日ヲ算入シ勞務不能ノ最初ノ少クトモ二十六週間又ハ百八十日間金錢給付ヲ受クル權利ヲ有ス

二、給付ヲ受クル權利ハ被保險者ニ於テ資格期間及勞務不能ノ開始ヨリ計算セララルヘキ數日ノ待期ヲ完了シタルコトヲ條件トスルコトヲ得

三、被保險者ニ支給セララルル金錢給付ヲ定ムルニ當リテハ海員ニ適用ナキ一般強制疾病保險制度存スル場合ニ於テ之ニ規定セララルル率ヲ下ルコトヲ得

海員疾病保險ニ關スル條約案

四、金錢給付ハ左ノ場合之ヲ停止ス

(イ) 被保險者船上又ハ外國ニ在ル場合

(ロ) 被保險者カ保險機關又ハ公ノ基金ニ依リ扶助セラルル場合、但シ此ノ場合ニ於テ被保險者カ家族ニ對スル負擔ヲ有スルトキハ一部ノミ之ヲ停止ス

(ハ) 同一ノ疾病ニ關シ被保險者カ法律ニ依リ權利ヲ有スル他ノ財源ヨリ補償ヲ受クル場合但シ此ノ場合ニ於テ右ノ補償カ疾病保險制度ニ依リ支拂ハルヘキ給付ノ額ニ等シキカ又ハ之ヨリ少ナキカニ從ヒ給付ノ全部又ハ一部ヲ停止ス

五、金錢給付ハ被保險者ノ故意ノ非行ニ因リ疾病ノ場合ニハ之ヲ減額シ又ハ之ヲ支給セス

第三條

一、被保險者ハ其ノ罹病ノ時ヨリ少クトモ疾病保險給付ノ規定期間ノ經過スル迄無料ニテ完全ナル資格ヲ有スル醫師ノ醫療ヲ受ケ適當且十分ナル藥劑及治療器具ノ支給ヲ受クル權利ヲ有ス

二、尤モ被保險者ハ前項ノ規定ニ拘ラス國內法令ノ規定セル所ニ依リ醫療給付費ノ一部ノ納付ヲ命セララルコトヲ得ルモノトス

- 三、醫療給付ハ被保險者船上又ハ外國ニ在ル場合之ヲ停止スルコトヲ得
- 四、事情ニ依リ必要アルトキハ保險機關ハ罹病者ヲ病院ニ收容スルコトヲ得ヘク且之ノ場合ニ於テハ被保險者ニ必要ナル醫療看護及完全ナル扶養ヲ與フヘシ

第四條

- 一、被保險者外國ニ在リテ疾病ニ因リ其ノ賃銀(從前全部ヲ受ケタルト否トヲ問ハス)ヲ受クル權利ヲ喪失シタルトキハ右被保險者カ外國ニ在ラサリシナラハ受クヘカリシ現金給付ハ被保險者カ締盟國領土ニ歸着スル迄其ノ家族ニ全部又ハ一部支給セララルヘシ
- 二、國內法令ニ依リ左ニ掲クル給付ノ支給ヲ規定又ハ許容スルコトヲ得

(イ) 被保險者家族ニ對スル負擔ヲ有スル場合ニ於テ

第二條ニ規定セラレタル給付ニ對スル附加的金錢給付

被保險者ノ家ニ居住シ其ノ扶養ヲ受クル被保險者ノ家族ノ疾病ノ場合ニ於ケル現物又ハ金錢救済

第五條

- 一、國內法ハ被保險者タル婦人カ締盟國領土内ニ在ル間

第九條

- 一、疾病保險ハ自治組織ニ依リ管理セララルヘシ該自治組織ハ公ノ機關ノ管理及財政上ノ監督ヲ受ケ營利ヲ目的トスルコトヲ得ス
- 二、被保險者及國內法ニ依リ特ニ海員ノ爲ニ設定セラレタル保險機關ニ付テハ使用者モ亦國內法令ノ規定スル條件ニ從ヒ經營ニ參加スヘシ
- 三、尤モ自治機關ニ依ル經營カ國內的事情ノ爲困難ナルカ不可能ナル場合ニハ國家カ直接ニ疾病保險ノ經營ヲ爲スコトヲ得

第十條

- 一、被保險者ハ其ノ給付ニ對スル權利ニ關シ紛議アル場合ニハ出訴權ヲ有スヘシ
- 二、紛議ノ審理手續ニ付テハ特別裁判所又ハ國內法令ノ適當ナリト認ムル其ノ他ノ手段ニ依リ被保險者ニ對シ迅速且低廉ナルモノタラシムヘシ

- 第十一條 本條約ノ如何ナル規定モ本條約ノ定ムル處ヨリモ一層有利ナル條件ヲ確保スル法律判決慣習又ハ船主及

船内勞働時間及定員制ニ關スル條約案

- 母性給付ヲ受クル權利アル條件ヲ規定スヘシ
- 二、國內法令ハ被保險者ノ妻カ締盟國ノ領域内ニ在ル間母性給付ヲ受クル權利ヲ有スヘキ條件ヲ規定スルコトヲ得

第六條

- 一、被保險者ノ死亡ニ當リテハ國內法令ノ規定セル額ノ金錢給付ヲ死者ノ家族ニ支給シ又ハ埋葬費支辨ニ充當セシムヘシ
- 二、死亡セル海員ノ遺族ノ爲ノ年金制度カ實施セララル場合ニ於テハ前項ニ規定セラレタル金錢給付ノ支給ハ其ノ任意トス

第七條

保險給付請求權ハ最後ノ雇傭ノ終了後一定期間内ニ發生セル疾病ニ付テモ繼續スヘシ、本期間ハ前後ノ雇傭ノ間ニ通常存スル間隔ヲ充填スル如ク國內法令ニ依リ定メラルヘキモノトス

第八條

- 一、被保險者及其ノ使用者ハ疾病保險組織ノ財源ノ構成ニ參加スヘシ
- 二、國內法ハ公ノ機關ニ依ル財政的據出ニ付規定ヲ設クルコトヲ得

海員間ノ團體協約ニ影響ヲ及ボササルヘキモノトス

船内勞働時間及定員制ニ關スル條約案

(昭和十一年第二十一回) 國際勞働總會採擇未批准

第一編 適用範圍及定義

第一條

- 一、本條約ハ公有タルト私有タルトヲ問ハス機械推進ヲ爲ス海洋航行ノ船舶ニシテ左ノ條件ヲ具備スルモノニ之ヲ適用ス
- (イ) 本條約カ實施セララル領域内ニ船籍ヲ有スルコト
- (ロ) 商業ノ目的ノ爲貨物若ハ旅客ノ運送ニ從事スルコト及
- (ハ) 國際航行ニ從事スルコト、茲ニ國際航行トハ一國ノ港灣ヨリ該國以外ノ港灣間ノ航行ヲ意味シ一切ノ植民地、海外領地、保護領若ハ自治權ヲ有スル領地又ハ委任統治地ハ別個ノ國ト看做ス

二、本條約ハ左ノ船舶ニハ適用セス

(イ) 補助機關附帆船

(ロ) 漁船、捕鯨船若ハ之ニ類似ノ作業ニ從事スル船舶又ハ之ト直接關係アル作業ニ從事スル船舶

三、締盟國ハ其ノ領域内ニ船籍ヲ有スル船舶ニシテ左記ノ地理的限界内ノ隣接國ノ近港ノミヲ專ラ航行スル間ハ之ヲ本條約ノ適用ヨリ除外スルコトヲ得

(イ) 國內法規ノ明確ナル規定アルコト

(ロ) 本條約ノ一切ノ規定ノ適用ニ關シテ一律タルコト及

(ハ) 締盟國カ批准登録ニ際シ右ノ聲明ヲ通告スルコト

第二條 本條約ノ左記術語ハ次ノ如キ意味ヲ有スルモノトス

(イ) 「噸數」トハ登録總噸數ヲ意味ス

(ロ) 「士官」トハ國內法規、團體協約又ハ慣習ニ依リ士官タル地位ヲ有スル船長以外ノ者ヲ意味ス

(ハ) 「屬員」トハ士官ヲ除ク乗組員ヲ意味ス

(ニ) 「労働時間」トハ上官ノ命ニ依リ船舶若ハ船主ノ爲ニ作業ヲ爲スカ又ハ乗組員カ自己ノ居室外ニ於

テ上官ノ指揮ニ服スルコトヲ要求セラレタル時間ヲ意味ス

第二編 労働時間

第三條 本條約ノ本編ハ左記ニ適用セス

(イ) 當直ヲ爲ササル各部責任士官

(ロ) 無線通信士及電話技手

(ハ) 水先案内人

(ニ) 船 醫

(ホ) 専ラ看護ノ任ニ當ル看護人

(ヘ) 専ラ自己ノ計算ニ於テ労働スル者

(ト) 専ラ利潤分配ニ依リ報酬ヲ受クル者

(チ) 勞務カ専ラ船内ヘノ積荷ニ關係アル者及事實上船主又ハ船長ニ雇傭セラレサル者

(リ) 巡廻荷役労働者

(ヌ) 國內法規ニ依リ規定セラレタル船主ノ家族ノミヨリ全ク成ル乗組員

第四條

一、二千噸ヲ超ユル船舶ニ在リテハ作業ヲ當直制ニ依リテ爲ス甲板部屬員ノ航海中及入出港日ニ於ケル労働時間ハ一日八時間又ハ一週五十六時間ヲ超ユルコトヲ得

ス

二、七百噸ヲ超ユル船舶ニ在リテハ日勤者トシテ使役セララル甲板部屬員ノ航海中及入出港日ニ於ケル労働時間ハ一日八時間又ハ一週四十八時間ヲ超ユルコトヲ得

三、入出港日ニ於テハ労働時間ハ第一項及第二項ニ規定セル限度ヲ超エテ之ヲ延長スルコトヲ得右ノ延長ヲ許容シ及之カ條件ヲ定ムルコトハ國內法規又ハ團體協約ヲ以テス

第五條

一、七百噸ヲ超ユル船舶ニ在リテハ作業ヲ當直制ニ依リテ爲ス機關部及汽罐部屬員ノ航海中及入出港日ニ於ケル労働時間ハ一日八時間又ハ一週五十六時間ヲ超ユルコトヲ得ス但シ當直ノ通常ノ交代及石炭殻ノ除却ノ爲メ超過時間ヲ實行スルコトヲ得

二、七百噸ヲ超ユル船舶ニ在リテハ日勤者トシテ使役セララル機關部及汽罐部屬員ノ航海中及入出港日ニ於ケル労働時間ハ一日八時間又ハ一週四十八時間ヲ超ユルコトヲ得ス

三、入出港日ニ於テハ労働時間ハ第一項及第二項ニ規定

船内労働時間及定員制ニ關スル條約案

第六條

セル限度ヲ超エテ之ヲ延長スルコトヲ得右ノ延長ヲ許容シ及之カ條件ヲ定ムルコトハ國內法規又ハ團體協約ヲ以テス

一、二千噸ヲ超ユル船舶ニ在リテハ甲板部士官ノ航海中及入出港日ニ於ケル労働時間ハ一日八時間又ハ一週五十六時間ヲ超ユルコトヲ得ス

二、尤モ航海又ハ事務ノ必要上航海中及入出港日ニ於テ一日一時間延長スルコトヲ得

三、尙船長カ二名ノ士官ニ同時ニ當直ヲ命スルコト必要ナリト認ムルトキハ隨時時間ヲ延長スルコトヲ得但シ如何ナル場合ニ於テモ士官ハ本條ニ依リ一日十二時間ヲ超エテ労働スルコトヲ要求セラレサルモノトス

四、七百噸ヲ超ユル船舶ニ在リテハ日勤者トシテ使役セララル甲板部士官ノ航海中及入出港日ニ於ケル労働時間ハ一日八時間又ハ一週四十八時間ヲ超ユルコトヲ得

五、入出港日ニ於テハ労働時間ハ第一項及第四項ニ規定セル限度ヲ超エテ之ヲ延長スルコトヲ得右ノ延長ヲ許容シ及之カ條件ヲ定ムルコトハ國內法規又ハ團體協約

ヲ以テス

六、本條ノ規定ハ甲板部ノ見習ニ適用ス

第七條

一、第十六條ニ依リ三名以上ノ機關士ヲ乘組マシムルコトヲ要スル船舶ニ在リテハ右士官ノ航海中及入出港日ニ於ケル労働時間ハ一日八時間又ハ一週五十六時間ヲ超ユルコトヲ得ス

二、七百噸ヲ超ユル船舶ニ在リテハ日勤者トシテ使役セラルル機關士ノ航海中ノ労働時間ハ一日八時間又ハ一週四十八時間ヲ超ユルコトヲ得ス

三、本條ノ規定ハ機關室見習ニ適用ス

第八條

一、本條約ノ適用ヲ受クル船舶ニ在リテ海上當直カ或ル港内ニ於テ停止セラルルトキハ左ノ規定ハ甲板、機關室及汽罐室屬員並ニ甲板士官及機關士(甲板部及機關部ノ見習ヲ含ム)ニ適用ス

(イ) 労働時間ハ一日八時間又ハ一週四十八時間ヲ超エサルヘキコト

(ロ) 週休日ヲ遵守スヘク且其ノ日ニ於テハ超過時間トシテ又ハ常務若ハ衛生的任務(斯ル任務ノ爲要求

約ノ規定ニ從ヒ發給セラルル安全證書

(ロ) 旅客輸送證書

カ實施セラルルモノニ在リテハ司厨部及事務部屬員ノ航海中ノ労働時間ハ少クトモ連續的ナル八時間ヲ包含スル一日十二時間以上ノ休息ヲ之ニ保障スル様定ムヘシ

二、前項ニ掲クル證書ノ一カ實施セラルル船舶ヲ除キ、本條約ノ適用ヲ受クル一切ノ船舶ニ在リテハ司厨部及事務部屬員ノ航海中及入出港日ニ於ケル労働時間ハ一日十時間ヲ超ユルコトヲ得ス

三、本條約ノ適用ヲ受クル一切ノ船舶ニ在リテハ司厨部及事務部屬員ノ碇泊中ノ労働時間ハ一日八時間ヲ超ユルコトヲ得ス但シ國內法規ヲ以テ例外ヲ許容スルコトヲ得ルモノトス

第十條

一、屬員並ニ甲板部及機關部士官(見習ヲ含ム)ニ對シテハ左ノ條件ノ下ニ本條約本編前數條ニ依リ規定セララルル又ハ許容セララルル時間限度ヲ超エテ労働スルコトヲ要求スルコトヲ得

(イ) 一切ノ斯ル労働時間ニ付テハ右ノ者カ補償ヲ受

船内労働時間及定員制ニ關スル條約案

セラルル労働ハ四十八時間ノ通常ノ限度中ニ包含セララルモノトス)ノ場合ヲ除キ如何ナル労働モ要求セラレサルヘキコト

(ハ) 是等ノ規定ニ對スル例外ハ船舶若ハ船内ニ在ル者ノ安全又ハ船舶ノ保全ノ爲必要ナル屬員ニ付國內法規又ハ團體協約ニ從ヒ之ヲ設ケ得ルコト

二、船舶カ其ノ入港後二十四時間ヲ超エテ當該港ニ停泊スルトキハ海上當直ハ通常之ヲ停止スヘキモノトス但シ船長カ之ニ依リ船舶ノ安全カ害セラルト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

三、海上當直カ當該港内ニ於テ維持セラルルトキハ本條第一項ニ依リ規定セララルル又ハ許容セララルル時間限度ヲ超ユル一切ノ労働時間ハ左ノ場合ヲ除キ屬員又ハ士官カ補償ヲ受クル權利アル、過時間ト認メラルヘシ

(イ) 船舶ノ安全ノ爲維持セラルル當直

(ロ) 入港後十二時間以内又ハ出港前十二時間以内ニ行ハルル當直

第九條

一、本條約ノ適用ヲ受クル一切ノ船舶ニシテ

(イ) 現行ノ海上ニ於ケル人命ノ安全ニ關スル國際條

クル權利アル超過時間ト認メラルヘキコト

(ロ) 常設的超過時間ヲ存置セサルコト

二、右ノ補償ノ方法又ハ率ハ之ヲ國內法規ヲ以テ規定シ又ハ團體協約ヲ以テ定ムヘシ

第十一條

一、十六歳未満ノ屬員ハ夜間労働スルコトヲ得ス

二、本條ニ謂フ「夜間」ナル語ハ國內法規ニ依リ規定セラルル午前零時前後ニ亘ル少クトモ九時間ノ連續時間ヲ意味スルモノトス

第十二條 本條約本編ノ規定ハ次ノ各項ニ付テハ適用セス

(イ) 船長カ船舶、船舶若ハ人命ノ完全ノ爲必要且緊急ヲ要スルモノト認ムル作業

(ロ) 他ノ船舶若ハ人命ニ救助ヲ與フル爲ニ船長ノ要求スル作業

(ハ) 現行ノ海上ニ於ケル人命ノ安全ニ關スル國際條約ノ規定スル呼召演習、火災訓練、ボート操練、其ノ他之ニ類似ノ訓練

(ニ) 士官若ハ屬員ノ疾病若ハ負傷又ハ航行中士官若ハ屬員ノ數ノ豫見シ得サル減少ニ基因スル超過作業

(ホ) 税關、檢疫又ハ其ノ他ノ衛生措置ノ爲ノ超過作業

(ヘ) 正午ニ於ケル船舶ノ位置ノ決定ノ爲ノ士官ニ依ル作業

第三編 定員制

第十三條 七百噸以上ノ船舶ハ左記ノ目的ノ爲十分ニシテ且有能ナル船員ヲ乗組マシムルコトヲ要ス

(イ) 海上ニ於ケル生命ノ安全及

(ロ) 本條約第二編ノ労働時間ニ關スル規定ノ適用ヲ容易ナラシムルコト

特ニ右種類ノ船舶ハ本編ニ於テ規定セル定員制ニ關スル最少限度ノ要求ヲ充足スヘシ

第十四條

一、七百噸以上二千噸未満ノ船舶ニ付テハ船長ノ外ニ二名ノ免狀ヲ有スル甲板部士官ヲ乗組マシムヘシ

二、二千噸以上ノ船舶ニ付テハ船長ノ外ニ三名ノ免狀ヲ有スル甲板部士官ヲ乗組マシムヘシ

第十五條

一、七百噸以上ノ船舶ニ於テハ乗組甲板部屬員數ハ各當直ニ付三名ノ屬員ヲ有スルヲ以テ足ル

二、特ニ左ノ最少限度ノ屬員ヲ乗組マシムルコトヲ要ス (イ) 七百噸以上二千噸未満ノ船舶 六名

(ロ) 二千噸以上ノ船舶 九名又ハ國內法規若ハ團體協約ニ依リ定メラルルカ如キ更ニ多數

三、第二項ニ規定セラレタル屬員中少クトモ次ノ者ハ第四項ニ規定セル肉體的資格及能率ニ關スル條件ヲ満たスモノタルヘシ

(イ) 七百噸以上二千噸未満ノ船舶 四名

(ロ) 二千噸以上ノ船舶 五名又ハ國內法規若ハ團體協約ニ依リ定メラルルカ如キ更ニ多數

四、第三條ノ規定ニ依リ一定ノ屬員ノ滿タスヘキ肉體的資格及能率ニ關スル條件ハ左ノ如シ

(イ) 十八歳ナルコト及

(ロ) 少クトモ三ヶ年間ノ甲板勤務ヲ爲シタルカ若ハ其ノ能率ノ標準カ三ヶ年間ノ甲板勤務ヲ爲シタル屬員ト等シキ程度ノモノタルコトヲ證明スル權限アル

公ノ機關ノ發行ニカカル免狀ヲ保持スル者タルコト

五、國內法規又ハ團體協約ハ一ヶ年未満ノ甲板勤務ヲ爲シタルモノニシテ本條ニ規定セラレタル甲板部屬員中ニ包含セラレ得ル者ノ數ヲ制限スヘシ

六、兼職ヲ要求スル雇傭契約ニ署名シ甲板部以外ノ部ニ於テモ勤務スル屬員ハ本條ノ要求スル定員ノ計算上甲

第十八條 本條約ノ規定ヲ實施スル爲法規ヲ制定スル場合

ニハ關係船主、士官及海員團體ニ諮問スヘシ

第十九條

一、本條約ヲ批准スル締盟國ハ其ノ領域内ニ船籍ヲ有スル船舶ニ付本條約ノ規定ヲ適用スル責任ヲ有ス又次ノ事項ヲ規定スル國內法規ヲ設クヘシ

(イ) 本條約ノ適用ニ關スル船主及船長ノ責任ヲ夫々定ムルコト

(ロ) 右法規ノ違反ニ對スル適當ナル罰則ヲ設クルコト

(ハ) 船舶カ母港ヨリ國際航行ニ出帆スル際本條約第三編ノ規定ヲ遵守スルヤ否ヤニ關シ適當ナル檢閱規定ヲ設クルコト

(ニ) 第十條ニ依ル一切ノ時間外労働並ニ右ニ對スル補償ヲ記載スル爲帳簿ノ備付ヲ要求スルコト

(ホ) 時間外労働ニ基ク特別手當ノ取立ニ關シテハ他ノ滞リ賃銀ノ取立ト同様ノ便宜ヲ海員ニ保障スルコト

二、本條約ヲ實施スル他ノ締盟國ノ領域内ニ於テ登録セラレタル船舶カ本條約第三編所定ノ士官及屬員數ヲ乗組マセサルコトヲ知リタルトキハ右港ノ權限アル官廳

甲板部屬員トシテ數ヲルコトヲ得ス

七、無線通信士又ハ電話技手カ前項ノ適用上甲板部ニ屬スル者ト看做サルヘキヤ否ヤハ國內法規又ハ團體協約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十六條

一、本條ノ適用ヲ受クル船舶ニ於テハ少クトモ三名ノ免狀ヲ有スル機關部士官ヲ乗組マシヘシ

二、本條ハ左記ニ適用ス

(イ) 七百噸以上ノ船舶又ハ

(ロ) 八百圖示馬力ヲ超ユル機關ヲ有スル船舶 但シ噸數又ハ馬力數ノ標準ハ國內法規ノ定ムル處ニ依ル

三、尤モ締盟國ハ締盟國カ噸數又ハ馬力數ノ標準ヲ適用スル處ニ從ヒ千五百噸ヲ超エサル又ハ千圖示馬力ヲ超

エサル機關ヲ有スル船舶ニ付テハ本條約ノ效力發生ヨリ五年ヲ超エサル期間本條ノ適用ヲ延期スルコトヲ得

第十七條 航海中死亡、災害若ハ其ノ他ノ事故ニ依リ前諸條規定ノ士官若ハ屬員數ニ缺員ヲ生スルニ至リタル場合船長ハ出來得ル限リ速カニ適當ナル機會ニ缺員ヲ補充スヘシ

第四編 一般規定

船内労働時間及定員制ニ關スル條約案

ハ之ヲ該締盟國ノ領事ニ通知スヘシ

第二十條 本條約ハ本條約ヨリ有利ナル條件ヲ保障スル法律、判決、慣習若ハ船主及海員間ノ協約ニ影響ヲ及ボスコトナシ

第二十一條

一、本條約ノ效力發生ノ日ニ於テ現存スル船舶ニシテ船籍ノ登録セラレタル領域ノ權限アル機關カ關係團體ニ諮問ノ後增加乗組員ニ必要ナル新シキ宿泊設備其ノ他ノ恒久的設備ヲ爲スコト合理的ニ可能ナラサル事情アリト認ムルモノニ付テハ本條約ノ適用ヨリ之ヲ除外スルコトヲ得

二、右ノ除外ハ除外證明書ノ發給ニ依リ之ヲ許與スヘシ

(右除外證明書ニハ右證明書ニ明示セル處ニ從ヒ本條約ノ要件ヨリ右船舶ヲ免除スル旨ヲ記載ス) 右證明書ハ船舶内ニ備付ケ置クヘシ

三、除外證明書ハ一時ニ四年ヲ超ユル期間ニ付之ヲ支給スルコトヲ得ス

四、本條ノ規定ヲ採用スル一切ノ締盟國ハ本條約ノ適用ニ關スル其ノ年報ニ於テ左記ヲ國際勞働事務局ニ通告スヘシ

(イ) 本條ニ依ル除外ノ付與ニ關スル一切ノ法規

第十四章 雜

救助料分配案ニ關スル取扱手續

(明治四十四年九月公達第六百七十九號)

改正 昭和十四年十月公達第一千二百三十七號

第一條 商法第八百七條第一項ノ規定ニ依リ救助料分配案

ニ對シ異議ノ申立アリタルトキハ管海官廳ハ申立人ヲ呼出シテ左ノ事項ヲ供述セシメ聽取書ヲ作ルベシ

- 一 申立人ノ職務、氏名、本籍地及住所
- 二 乗組船舶ノ種類、名稱及總噸數又ハ積石數
- 三 乗組船舶ノ所有者及船長ノ氏名
- 四 異議申立ノ本旨
- 五 救助ノ顛末、各救助者カ救助ノ爲ニ要シタル勞力其ノ他異議申立ノ理由ト爲ルヘキ事實

救助料分配案ニ關スル取扱手續

(ロ) 除外證明書カ實行セラレル船舶ノ數及噸數ニ關スル詳細

(ハ) 除外ノ付與ニ關スル關係船主、士官及海員團體ノ意見

第五編 最終規定

第二十二條

一、國際勞働機關憲章第三十五條ニ掲クル地域ニ關シテハ本條約ヲ批准スル國際勞働機關ノ各締盟國ハ左記ヲ示ス宣言ヲ該國ノ批准ニ附加スヘシ

(イ) 右締盟國カ變更ヲ加ヘスシテ本條約ノ規定ヲ適用セントスル地域

(ロ) 右締盟國カ變更ヲ加ヘテ本條約ノ規定ヲ適用セントスル地域及右變更ノ細目

(ハ) 條約ヲ適用シ得サル地域及此ノ場合ニ於テ之ヲ適用シ得サル理由

(ニ) 締盟國カ其ノ決定ヲ留保スル地域

二、本條約第一項(イ)及(ロ)ニ掲クル約定ハ批准ノ一部ト看做サルヘク且批准ノ效力ヲ有スヘシ

三、何レノ締盟國モ原宣言ニ於テ本條第一項(ロ)、(ハ)又ハ(ニ)ニ依リ爲サレタル留保ノ全部又ハ一部ヲ爾後ノ宣言ニ依リ取消スコトヲ得

六 事實ノ證據方法

七 分配案告示後乗組船舶カ管海官廳所在地ニ寄港シタル場合ニ於テ該管海官廳ニ異議ノ申立ヲ爲サザリシトキハ其ノ理由

前項ノ聽取書ヲ作りタルトキハ之ヲ申立人ニ讀聞カセ相違ナキコトヲ確メタル上年月日ヲ記載シ申立人ヲシテ署名捺印セシムベシ

第二條 救助料分配案ニ對シ異議ノ申立アリタルトキハ管海官廳ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ當該船長ニ通知スベシ

管海官廳ハ當該船長ヲシテ分配案ノ寫其ノ他必要ナル書類ヲ提出セシメ且必要ト認ムルトキハ船長其ノ他關係人及證人ニ就キ取調ヲ爲スベシ

前項ノ取調ヲ爲シタルトキハ調書ヲ作り前條第二項ノ手續ヲ爲スベシ

第三條 前二條ノ場合ニ於テ當該船舶ノ碇泊時間僅少ナル爲其ノ他正當ノ事由ニ因リ申立人、船長其ノ他關係人ヲシテ出頭供述セシムルコト能ハザルトキハ他ノ管海官廳

第一條並第二條第二項及第三項ノ手續ヲ囑託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ囑託ヲ受ケタル管海官廳ハ聽取書又ハ調書ヲ作リタル上囑託ヲ爲シタル管海官廳ニ之ヲ送付スベシ

第四條 管海官廳ハ救助ノ爲ニ冒シタル危險ノ程度、救助ノ結果、救助ノ爲ニ要シタル勞力、費用及時間、救助者ノ職務、其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シテ分配案ノ當否ヲ決定スベシ
海員ニ支拂フベキ救助料ハ現ニ救助ニ從事セザル者ニモ之ヲ分配スベキモノトス

第五條 管海官廳ハ異議ノ申立ヲ理由ナシト認メタルトキハ左ノ書式ニ依リ申立却下ノ決定書ヲ作り其ノ正本各一通ヲ異議申立人及當該船長ニ送付スベシ

何丸何職	本籍地	住 所	何 某
同	同	同	同
同	同	同	同

明治何年何月何日 管海官廳名印

右者ヨリ何々救助ニ關シ何丸船長何某ノ作リタル救助料分配案ニ對シ明治何年何月何日當管海官廳ニ異議ノ申立ヲ爲シタルニ付審査ヲ遂ケ右異議ノ申立ハ理由ナキモノト認メ之ヲ却下ス
明治何年何月何日 管海官廳名印

第六條 管海官廳ハ異議ノ申立ヲ理由アリト認メタルトキハ左ノ書式ニ依リ分配案更正ノ決定書ヲ作り其ノ正本各一通ヲ異議申立人及當該船長ニ送付スベシ

何丸何職	本籍地	住 所	何 某
同	同	同	同
同	同	同	同

分配額 職 務 氏 名
一 金

(備考)
(一) 更正カ分配案ノ全部ニ涉ラザルトキハ更正シタル部分ノミヲ記載スベシ
(二) 本書カ二枚以上ニ涉リタルトキハ各葉ノ綴目ニ管海官廳印ヲ以テ契印スベシ

第七條 商法第八百八條第一項ノ規定ニ依リ救助料分配案ノ作成ニ關シ請求アリタルトキハ管海官廳ハ直ニ當該船長ヲ呼出シテ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ分配案ヲ作り且之ヲ管海官廳ニ届出ツベキコトヲ命スベシ
前項ノ請求ニ付テハ聽取書ヲ作ルコトヲ要セズ

第八條 前條ノ場合ニ於テ當該船舶ノ碇泊時間僅少ナル爲其ノ他正當ノ事由ニ因リ船長ヲシテ出頭セシムルコト能ハザルトキハ他ノ管海官廳ハ前條第一項ノ手續ヲ囑託スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ囑託ヲ受ケタル管海官廳ハ前條第一項ノ手續ヲ爲シタルトキハ其ノ旨囑託ヲ爲シタル管海官廳

救助料分配案ニ關スル取扱手續

第九條 當該船長カ第七條第一項ノ命令ニ從ハザルトキハ管海官廳ハ第二條第二項及第三項並第四條ノ規定ニ準ジテ救助料分配額ヲ決定シ左ノ書式ニ依リ分配案ヲ作り其ノ正本各一通ヲ請求人及當該船長ニ送付スベシ

何丸何職	本籍地	住 所	何 某
同	同	同	同
同	同	同	同

分配額 職 務 氏 名
一 金

明治何年何月何日

(備考)

本書カ二枚以上ニ涉リタルトキハ各葉ノ綴目ニ管海官廳印ヲ以テ契印スベシ

第十條 利害關係人ヨリ第五條及第六條ノ決定書又ハ第九條ノ分配案ノ謄本下付ノ申請アリタルトキハ管海官廳ハ逕信省管船局ニ申出ツベキ旨申請人ニ指示スベシ

第十一條 管海官廳ハ特ニ事務取扱簿ヲ備ヘ前數條ノ規定ニ依リ取扱ヒタル事件及其ノ處理ノ大要ヲ記載スベシ
一件書類ハ事件處理済ノ上之ヲ逕信省管船局ニ送付スベシ但シ船内書類其ノ他還付ヲ要スルモノハ之ヲ提出者ニ還付シ其ノ中證據上必要ト認ムルモノハ其ノ寫ヲ一件書類中ニ編綴シ置クベシ

第十二條 本手續ノ規定ニ依リ難キ場合ヲ生ジタルトキハ其ノ都度逕信省ニ何出テ指揮ヲ受クベシ

第十三條 救助料分配案ニ對スル異議ノ申立又ハ分配案作成ニ關スル請求ハ内地ニ在リテハ逕信局海事部又ハ同出張所、外國ニ在リテハ帝國領事之ヲ受理スベキモノトス

附 則

本手續ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

(昭和十四年十月 公達第千二百三十七號ニ對スルモノ)

本公達ハ昭和十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

水夫適任證書交付規則

(大正五年二月 逕信省令第十二號)

改正 大正九年十月 逕信省令第百八號

第一條 亞米利加合衆國諸港ニ出入セムトスル日本船舶ノ船員ハ千九百十五年三月四日ノ亞米利加合衆國海員法ニ依ル水夫適任證書ヲ交付ヲ管海官廳ニ申請スルコトヲ得前項ノ規定ハ亞米利加合衆國諸港ニ出入セムトスル日本船舶ノ船員ト爲ラムトスル者ニ之ヲ準用ス

第二條 水夫適任證書ハ左ニ掲クル資格ノ一ヲ有シ且體格検査ニ合格シタル者ニ之ヲ交付ス
一 總噸數百噸以上ノ沿海航路以上ノ船舶ニ乗組ミ三年以上甲板部員トシテ執務シテ年滿十九年以上ナルコト
二 沿海航路以上ノ船舶ニ乗組ミ一年以上甲板部員トシテ執務シ且船舶ノ運用ニ關スル試験ニ合格シタルコト

遊覽船、捕鯨船又ハ無甲板漁船ニ乗組ミタル期間ハ前項第一號ノ期間ニ算入セズ

第一項第二號ノ試験ハ羅針盤方位、船燈、霧中信號、航路信號、機關傳令、結索、端艇ノ卸方及操縱、航海用語並操舵ニ關スル要領ニ付之ヲ行フ

第三條 水夫適任證書ヲ交付ヲ受ケムトスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ差出スベシ

前項ノ場合ニ於テ申請者ハ船員手帖又ハ之ニ準ズベキ證明書ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供シ本籍地、出生年月日及乗船履歷ヲ證明スベシ

第三條ノ二 第一條第二項ノ規定ニ依リ水夫適任證書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ前條ノ規定ニ依ルノ外其ノ乗組マムトスル船舶ノ所有者、管理人又ハ借入人ノ發出シタル書面ニ依リ當該船舶ノ船員ト爲ラムトスル者ナル旨ヲ證明スベシ

第四條 水夫適任證書ハ第二號書式ニ依ル

第五條 水夫適任證書ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ該證書ヲ交付シタル管海官廳ニ之カ再交付ヲ申請スルコトヲ得

水夫適任證書ノ記載事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ遲滯ナ水夫適任證書交付規則

ク其ノ事由ヲ具シ該證書ヲ交付シタル管海官廳ニ之カ書換ヲ申請スベシ

第六條 本令ニ依リ申請ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納付スベシ

- 一 第二條第一項第一號ノ資格ニ依リ水夫適任證書ノ交付ヲ申請スルトキ 一圓
- 二 第二條第一項第二號ノ資格ニ依リ水夫適任證書ノ交付ヲ申請スルトキ 二圓
- 三 水夫適任證書ノ再交付又ハ書換ヲ申請スルトキ 五十錢

手数料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ納付書ニ貼用シテ之ヲ納付スベシ

第七條 本令ニ依ル事務ヲ行フ管海官廳ハ別ニ之ヲ定ム

第八條 本令ハ臺灣又ハ關東州ニ船籍港ヲ定ムル船舶ノ船員ニ之ヲ準用ス

附 則
本令ハ大正五年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二號書式 甲 (第二條第一項第一號ノ資)

第 號

水夫適任證書

本籍地 氏 名

出生年月日

右者水夫適任證書交付規則ニ依リ成規ノ履歴ヲ有シ且視力、聽力其他ノ體格檢査ニ合格ス仍テ航洋船ノ水夫ニ適スル者ト認メ此證書ヲ附與ス

年 月 日

管海官廳名印

備考

裏面ニ英譯ヲ附記ス第二號書式乙ニ付テモ亦同ジ

第二號書式 乙 (第二條第一項第二號ノ資)

第 號

水夫適任證書

本籍地 氏 名

出生年月日

右者水夫適任證書交付規則ニ依リ成規ノ履歴ヲ有シ且視力、聽力其他ノ體格檢査及船舶ノ運用ニ關スル試驗ニ合格ス仍テ航洋船ノ水夫ニ適スル者ト認メ此證書ヲ附與ス

年 月 日

管海官廳名印

水夫適任證書交付規則第七條ノ規定ニ依ル事務ヲ行フ管海官廳指定

(大正九年十月) 遞信省告示第千五百三十四號

- 一、水夫適任證書交付規則第二條第一項第一號ノ規定ニ依リ水夫適任證書ヲ交付スル場合
 - 東京地方遞信局 大阪遞信局
 - 熊本遞信局 札幌遞信局
 - 二、同規則第二條第一項第一號及第二號ノ規定ニ依リ水夫適任證書ヲ交付スル場合
 - 東京地方遞信局海軍部橫濱出張所
 - 大阪遞信局海軍部神戸出張所
- 大正五年二月遞信省告示第百三十五號ハ本月十五日ヨリ之ヲ廢止ス

水夫適任證書交付規則第七條ノ規定ニ依ル事務ヲ行フ管海官廳指定・海軍豫備兵及海軍豫備補習生ノ乗船履歴證明ニ關スル件

海軍豫備兵及海軍豫備補習生ノ乗船履歴證明ニ關スル件

(昭和十二年七月) 海軍第二千三百九十八號通牒

今般海軍豫備員ニ關スル規定改正セラレ普通船員ヨリ海軍豫備兵ヲ採用スルノ制度新ニ設ケラレタルニ伴ヒ右船員ノ乗船履歴證明ヲ管海官廳(指定市町村長ヲ含ム)ニ於テ行フコトト相成リタル處海軍豫備員令施行規則第八條ノ二ノ規定ニ依ル證明又ハ海軍豫備補習生規則第五條第三號ノ乗船履歴證明書ノ證明ヲ願出ヅル者アリタルトキハ左記ニ依リ處理相成度

追テ右關係法令一部及送付候

一、當該船員ヲシテ右規定ニ定ムル様式ノ書類二通ニ船員手帳ヲ添附シテ提出セシメ右書類記載事項ヲ船員手帳ト照合シタル上相違ナシト認メタルトキハ一通ニ證明ヲ爲シ他ノ一通ハ之ヲ當該官廳ニ保管スルコト

船員ノ徴兵検査受檢手續 ニ關スル件

(昭和十三年四月
海軍千百二十四號通牒)

從來兵役法施行令第七十八條第二項ノ規定ニ依リ徴兵身體検査ヲ受ケントスル船員ニ對シテハ船長ノ證明シタル徴兵身體検査ニ關スル乗船證明書ニ管海官廳ニ於テ船員法施行細則第四十八條ノ二ノ規定ニ依リ其ノ證明ヲ爲シ來リタル處右規定ハ取扱ノ便宜上曩ニ昭和十三年三月二十五日逕信省令第二十一號ヲ以テ公布、同月二十八日ヨリ實施セラレタル改正船員法施行規則中ヨリハ削除セラレタルモ今後本件受檢手續ニ際シテハ右管海官廳ノ證明書ヲ必要トセザル趣旨ニ非ズシテ今般兵役法施行規則モ昭和十三年三月三十一日陸軍省令第十三號ヲ以テ別紙寫ノ通改正相成候條爾今船員ヨリ本規則ニ依リ證明ノ申請アリタルトキハ從來通證明方取計相成度

勞働爭議調停法

(大正十五年四月
法律第五十七號)

第一條 左ニ掲ケル事業ニ於テ勞働爭議發生シタルトキハ行政官廳ハ當事者ノ請求ニ依リ調停委員會ヲ開設スルコトヲ得
當事者ノ請求ナキ場合ト雖行政官廳ニ於テ必要アリト認メタルトキ亦同シ
一 蒸氣、電氣其ノ他ノ動力ヲ使用スル鐵道、軌道又ハ船舶ニ依リ公衆ノ需要ニ應スル運輸事業
二 公衆ノ用ニ供スル郵便、電信又ハ電話ノ事業
三 公衆ノ需要ニ應スル水道、電氣又ハ瓦斯供給ノ事業
四 第一號乃至第三號ノ事業ニ電氣ヲ供給スル事業ニシテ其ノ休止カ第一號乃至第三號ノ事業ノ進行ヲ著シク阻害スルモノ
五 其ノ他公衆ノ日常生活ニ直接關係アル事業ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノ

六 陸軍又ハ海軍ノ直營ニ係ル兵器艦船ノ製造修理ノ事業ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノ

前項ニ掲ケル以外ノ事業ニ於テ勞働爭議發生シタルトキハ行政官廳ハ當事者雙方ノ請求ニ依リ調停委員會ヲ開設スルコトヲ得

第二條 調停委員會ヲ開設セムトスルトキハ行政官廳ハ當事者雙方ニ之ヲ通知スヘシ

第三條 調停委員會ハ九人ノ委員ヲ以テ之ヲ組織ス委員ノ中六人ハ勞働爭議ノ當事者ヲシテ各同數ヲ選定セシメ他ノ三人ハ當事者ノ選定シタル委員ヲシテ爭議ニ直接利害關係ヲ有セサルモノニ就キ選定セシメ行政官廳之ヲ囑託ス

前項ノ規定ニ依リ囑託セラレタル委員ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第四條 勞働爭議ノ當事者第二條ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ三日内ニ前條第一項ノ規定ニ依リ其ノ選定シタル委員ヲ行政官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

當事者前項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲ササルトキハ行政官廳ハ當事者ニ代リ委員ヲ選定ス此ノ委員ハ當事者ノ選定シ

船員ノ徴兵検査受檢手續ニ關スル件・勞働爭議調停法

タルモノト看做ス

前二項ノ規定ニ依ル手續終リタルトキハ行政官廳ハ直ニ前條第一項ノ規定ニ依リ當事者ノ選定シタル委員ニ於テ選定スヘキ委員ノ選定ヲ要求スヘシ此ノ場合ニ於テハ當事者ノ選定シタル委員ハ四日内ニ之ヲ選定シ行政官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依ル届出ナキトキハ行政官廳ハ當事者ノ選定シタル委員ニ代リ前項ノ規定ニ依リ選定スヘキ委員ヲ選定ス此ノ委員ハ當事者ノ選定シタル委員ニ於テ選定シタルモノト看做ス

第五條 委員中缺員ヲ生シタルトキハ前二條ノ手續ニ準シ之ヲ補充ス

第六條 委員定リタルトキハ行政官廳ハ直ニ調停委員會ヲ召集シ之ヲ開會スヘシ

第七條 調停委員會ニ議長及其ノ代理者ヲ置ク議長及其ノ代理者ハ當事者ノ選定ニ係ル委員ニ於テ選定シタル委員ノ互選ニ依リ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ之ニ充ツ多數ヲ得タル者ナキトキハ抽籤ニ依ル

第八條 調停委員會ハ勞働爭議ノ解決ニ必要ナル調査審理ヲ爲シ其ノ調停ヲ爲スモノトス